

競走会編

社団法人群馬県モーターボート競走会	126
社団法人埼玉県モーターボート競走会	131
社団法人東京都モーターボート競走会	137
社団法人神奈川県モーターボート競走会	142
社団法人静岡県モーターボート競走会	146
社団法人愛知県モーターボート競走会	151
社団法人三重県モーターボート競走会	157
社団法人福井県モーターボート競走会	160
社団法人滋賀県モーターボート競走会	164
社団法人大阪府モーターボート競走会	170
社団法人兵庫県モーターボート競走会	175
社団法人徳島県モーターボート競走会	183
社団法人香川県モーターボート競走会	189
社団法人岡山県モーターボート競走会	194
社団法人広島県モーターボート競走会	198
社団法人山口県モーターボート競走会	203
社団法人福岡県モーターボート競走会	208
社団法人佐賀県モーターボート競走会	212
社団法人長崎県モーターボート競走会	217
社団法人千葉県モーターボート競走会	222

(社)群馬県モーターボート競走会

(社)群馬県モーターボート競走会



桐生競艇場入場門

時代へのチャレンジ

桐生競艇のこの10年間は、売上低迷との戦いであったといっても過言ではなく、平成3年からはじまった売上減少は、10年たった現在でも底がみえず、減少傾向が続いている。「桐生競艇」を取りまく地場産業の状況は、永らく主力となって支えてきた繊維産業が30年来の不況が続く、それに代わって近年台頭してきた鉄鋼金属産業は、景気の山と谷が多く一向に安定していない。

これら競艇場周辺を取りまく状況は、非常に厳しいものがあるが、これを打破すべく関係団体と一致協力して諸施策を実施してきた10年でもあった。

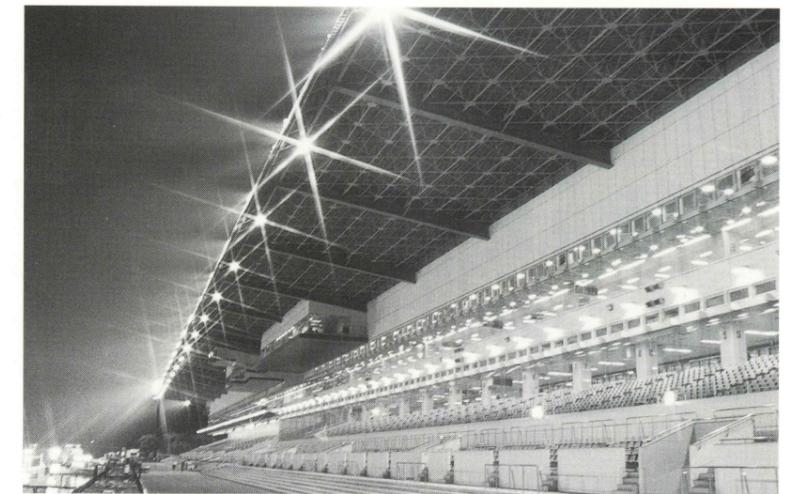
主な施策を順を追って紐解くと、街機能の導入を手始めとして、場内に薬局の開店。また、海事思想の普及と公益の増進を目的とする事業として、群馬県マリンスポーツ連盟を発足させ、事務局を競走会内に設置した。そして、全国初めての試みとして、対岸にサブスタンド「ミズアム」(外向前売り発売所としても使用)をオープンして、お客様



(社)群馬県モーターボート競走会
会長 菅川 勝正

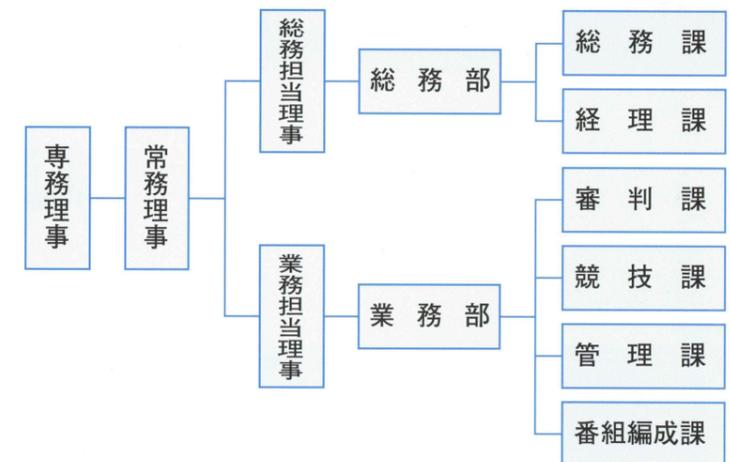
の利便性と売上向上を図った。平成9年には、最大の施策として競艇業界初めてのナイトレースを開催し、今までにない運営状態で、購買客層(来場者)へ新たな販売機会(来場時間)とレースの新鮮さや感動を提供(開催)することができた。それとともに参加意識と購買意欲を高めるなど、本場の活性化と話題性を向上させ、利用者の拡大と売上の向上を図り、平成11年9月には、ナイトレース初の場間場外発売を実施した。さらに、平成12年12月には、桐生競艇初の場外発売場「ボートピアなんぶ」をオープンさせるなど、売上向上を最大目標にした10年であった。

競走会としても、売上向上はもちろんであるが、本分である「公正、安全なレースの実施」を心掛け、関係団体と綿密な協力体制により鋭意努力した。



ナイト照明のスタンド

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	102	100	99	99	93	97	94	93	93	94
役員(常勤・非常勤)	13	13	12	12	12	13	13	13	12	10
職員(含む嘱託)	26	25	26	27	29	26	25	25	23	24
臨時従業員(アルバイト)	25	27	26	27	25	25	23	21	24	26
登録審判員	10	11	12	12	13	11	11	12	12	13
登録検査員	11	12	13	13	14	12	12	13	14	15



投票所

歴代会長

代	氏名	任期
3	笹川 堯	昭和57年5月～平成13年1月
4	笹川 勝正	平成13年3月～現在
略歴	太陽印刷工業(株)代表取締役社長 桐生商工会議所議員 群馬県モーターボート競走会副会長	

副会長

代	氏名	任期
8	笹川 勝正	昭和58年1月～平成13年3月

専務理事

代	氏名	任期
5	上田 芳道	昭和51年6月～平成 3年6月
6	吉田 守行	平成 3年6月～平成 5年6月
7	高橋 英三	平成 5年6月～平成 8年6月
8	近藤 英司	平成 8年6月～平成12年6月
9	廣瀬 知巳	平成12年6月～現在



特別観覧席



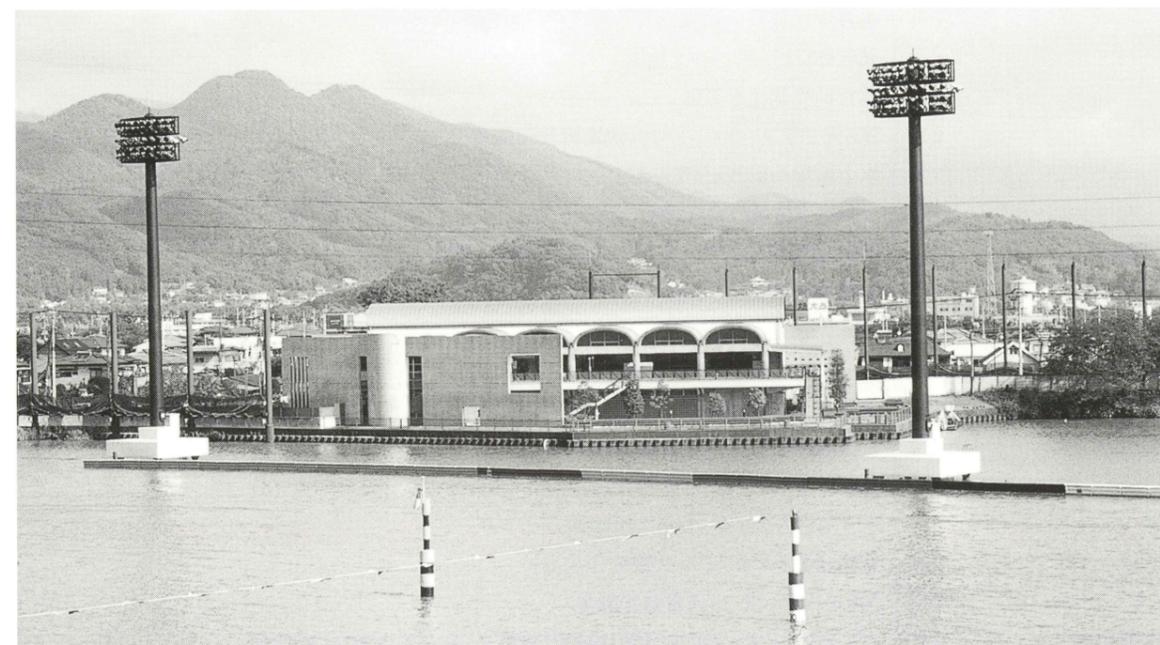
テレビモニター付座席

(社)群馬県モーターボート競走会過去10年間の動き

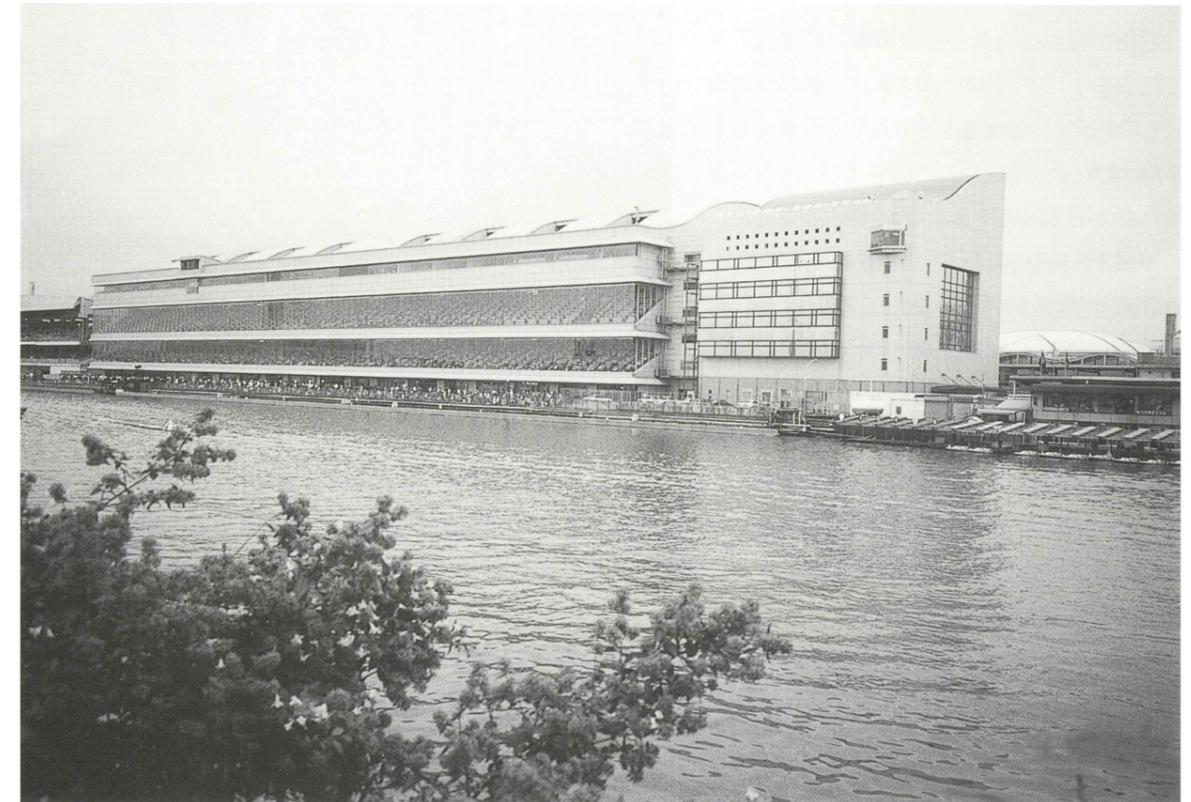
年月日	事柄
平成3年	2月 第36回関東地区モーターボート選手権競走開催
	3月 NEW1Pボート廃止
	6月 スタート練習廃止、12レース制導入、優勝戦周回数変更(4周から3周へ)
	12月 特定水域の指定(船舶職員法施行規則)
平成4年	12月 場内に薬局開店
	4月 競走会事務局に企画部を発足
	4月 電光成績表示盤を場内7ヶ所に設置
	5月 待機行動要領の全国統一
平成5年	10月 302S型モーター(トランジスタ点火方式)採用
	11月 場内セキュリティシステム設置
	1月 確定放送廃止
	2月 KCC(競技情報回線制御装置)導入
平成6年	4月 群馬県マリンスポーツ連盟発足(事務局を競走会内に設置)
	4月 新電話投票システム導入(テレボート関東開設)
	4月 文字放送開始
	12月 特別観覧席リニューアルオープン(全席にモニターテレビを設置)
平成7年	2月 レースリプレイの放映開始
	9月 関東在宅投票システム開始(桐生周年競走より)
	10月 電子判定装置導入 二重化システム
	11月 前検日受付終了時間の変更(10時を12時へ変更)
平成8年	12月 選手会ふれあい研修会始まる
	5月 選手手荷物の宅急便輸送開始
	5月 外向前売発売場「ミズアム」オープン
	6月 水質浄化装置の設置
平成9年	6月 競技部にビットゲートを設置
	6月 前日前売発売を実施
	6月 第5回グランドチャンピオン決定戦競走開催
	11月 水上施設一部改正(空中線)
平成10年	12月 プロペラ交換の公表開始
	2月 第41回関東地区モーターボート選手権競走開催
	4月 新映像情報システム導入(3元化)
	6月 ナイターレース実験開始
平成11年	7月 オール進入固定レース実施
	11月 開設40周年記念式典を挙げる
	4月 全国統一として「桐生競艇」名を使用
	7月 選手持ちヘルメット制度導入
平成12年	9月 水上施設をナイターレース用にカラーリング
	9月 全国初のナイターレース開催(9日間)
	11月 GIモーターボート大賞競走開催
	4月 ダイヤモンドカップ競走開催(施設改善競走)阿左美水園GI初開催

(社)埼玉県モーターボート競走会

年月日	事柄
平成11年	5月 第25回笹川賞競走開催、本番1ピット制
	6月 ナイターレース「アクアンナイト」本開催(42日間)
	9月 全国初のGI ナイター初開催(赤城雷神杯・42周年)
	11月 選手登録カードシステム運用
	1月 ピットゲートを新型に変更
	2月 新会計準則制定(企業会計→公益法人会計)
	3月 新KCC導入
	5月 審判判定用、映像遅延装置導入
	7月 選手ヘルメットカバー廃止
	7月 デザイン艇番(左側)を導入
平成12年	7月 ナイターレースとSG競走場外発売の併売を実施し、1日24レースを発売
	7月 エキサイティングウェブ用カメラ搭載開始(テスト)
	9月 ナイターレース初の場間場外発売(3場・三国、宮島、大村)
	11月 GI モーターボート大賞競走開催(ナイター設備使用による薄暮レース)
	11月 水上施設統一基準改正、航走指示表示灯設置
	2月 エキサイティングウェブ廃止
	4月 平成11年度「スタート事故防止」全国2位受賞
	7月 ボートにソフトバウ導入
	9月 GI 赤城雷神杯競走(ナイターレース)で場外発売を実施(12場+BP1場)
	10月 GI モーターボート大賞競走(ナイターレース)で場外発売を実施(3場+BP2場)
12月 場外発売場「ボートピアなんぶ」オープン(青森県三戸郡)	



外向前売発売所「ミズアム」



新スタンドと管理棟



(社)埼玉県モーターボート競走会
会長 中島 富夫

厳しい状況を見つめ、 ファンサービスの充実・不急費用を削減

戸田競艇場は昭和29年10月14日に初開催したが、売上も思うにまかせず、多難の日々が続いた。売上が急激に伸びるのは、競走法が時限立法から恒久法化された昭和37年頃からであるが、これからという時期に昭和39年の東京オリンピックのため、前後3年間の休催となった。昭和40年10月に関係者の努力によって再開し、以後売上は第2次オイルショックの昭和56年から4年間低迷したものの年々順調に伸び、平成2年度には10億円を越えるまでになった。

しかし、入場者数は昭和55年を頂点に伸び悩む状況であった。

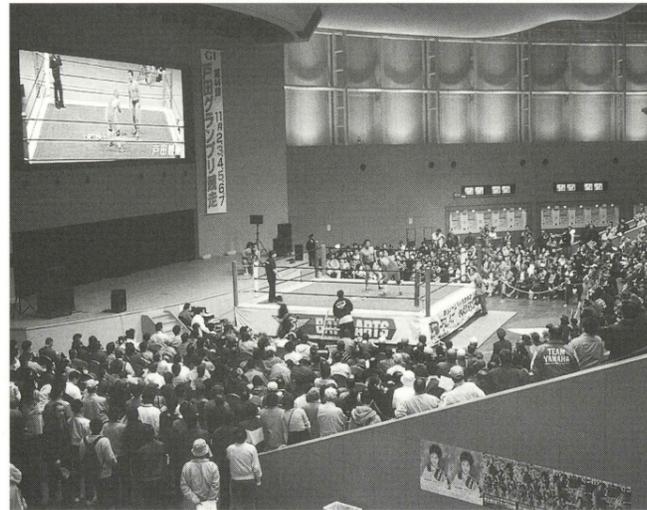
昭和56年にモーターボート業界は法制定30周年を迎え、業界の新たな発展を目指して「競艇元年」が提唱された。初心に帰り、新しい観点から時代の変化・社会の変化を捉え、それに対応するべく「ファンあつての競走」を基本理念として施策の見直しを行おう、というものであった。

この当時、売上は好調で危機感は未だ漠然としたものであったが、入場者の伸び悩みは将来を暗示していたのであった。

戸田競艇場は昭和40年の再開時に突貫工事で建設され、当時東洋一のスタンドと謳われた施設も老朽化し、増改築を繰り返して不都合も生じた。また、公営競技のレジャー化が進む中、将来に向かって対応できなくなる恐れがあった。

平成3年10月29日「戸田競艇場総合施設改善計画」が報道関係者を集めて発表された。改善計画は既設の東観覧棟を除き、スタンド棟、事務棟、整備棟の全面改築を行うもので、単なる施設改善ではなく「競艇場を中心とした総合レジャー施設として、子供から大人まで楽しめる市民公園の中心的存在となる多機能施設」というものであった。第1期から第4期までの9年間の長期に亘り、平成13年3月完工、工費は541億円に及ぶ計画であった。

この基本計画のもと、平成4年8月18日、第1期工事の安全祈願祭が行われ、公営競技一の施設を目指して工事ははじまった。



イベントホールでプロレスを実施

第1期工事 (平成4年7月28日～平成6年2月28日)

管理棟 地下1階地上7階 8,012㎡

OA化・情報化に対応する事務棟

変電設備、投票センター等競走場全体のバックアップ

レインボーホール 地上2階 3,859㎡

スタンド棟の改修工事に伴う、投票所の代替施設

工費 5,471,154,000円

第2期工事 (平成8年4月8日～平成8年10月31日)

スタンド棟西側部分 地下1階地上7階 34,213㎡

2階以上全館空調完備

イベントホール 大型映像装置を備えた多目的ホール

一般市民にも開放 4,9851㎡

工費 20,421,707,000円

第3期工事 (平成8年8月20日～平成11年8月30日)

スタンド棟中央部分 地下1階地上7階 33,008㎡

ゲーム&マッサージ室、キッズランド、

メディアギャラリー等

工費 16,285,901,000円

なお、第4期工事(スタンド棟東側部分)については、売上不振等の事情により一時中断することとなった。

施設改善工事に並行して、平成5年10月7日、第40回全日本選手権競走の開催に合わせて大噴水(ヴィクトリー・アーチ)がお披露目となった。競走勝者のウイニングランの演出として、バックストレッチ側をくぐり抜ける巨大アーチの8基の噴水と6基の扇型噴水で、ショーアップに一役買っている。また、対岸バスターミナル右隣りにあった日本鉱業の土地が売りに出されたため、駐車場用地として平成5年に23,174㎡を購入した。1台1,000円の有料駐車場として、873台が収容可能となった。

また、平成7年11月1日に戸田競艇場関係団体協議会ではボートピア推進室を設置して、場外発売場の開設に向けて動き出した。

以来、数々の候補地が挙げられては消えたが、現在ボートピア岡部(仮称)が有力候補として、進行中である。

平成に入ってからバブル景気の崩壊により業界は未曾有の危機にあり、戸田競艇場も平成2年度を境に売上減少が続いている。

この間、総合施設改善工事、平成4年7月のレディースルームの開設、平成7年7月の連勝単式発売の拡大、平成12年5月のプロレス興行などのファンサービスにも関わらず、売上減少に歯止めがかからない状況である。

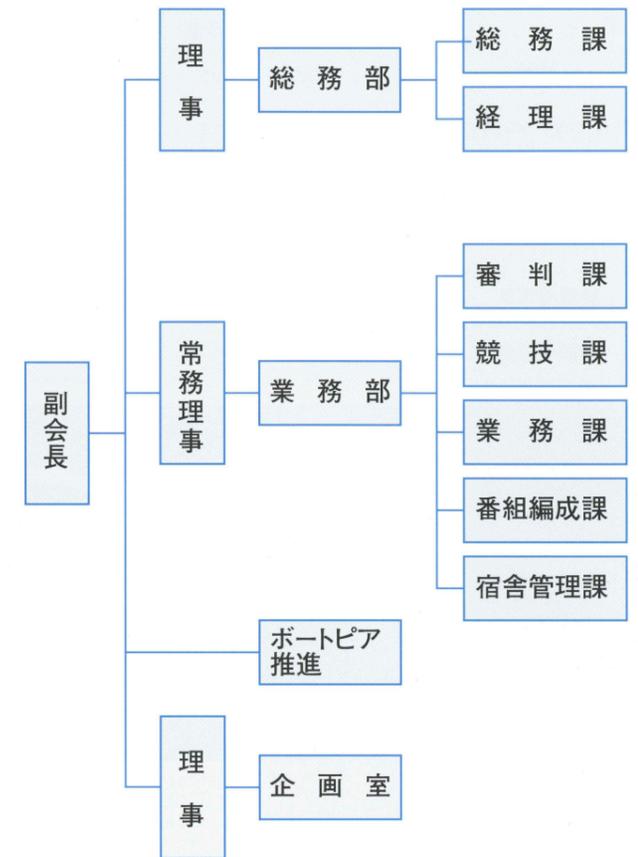
売上が半分程度となった原因は、入場者の減少(利用者数は若干増加)と一人平均購買額が約半分となったことに因る。

大施設改善工事等の諸施策にも関わらず戸田競艇場の売上は低落傾向から脱し得ないが、日本の景気が未だバブルの後遺症から抜けられず、景気の影響を最も受けやすいファンに依存している競艇場としては、売上減少も止むを得ない面もある。

しかし家族連れが増えたこと、来場者のマナーが向上したこと、入場者の減少率が小さいことは施設改善の効果に因るものであり、ファンに好感を持って迎えられたことは間違いない。今後景気が拡大すれば、入場者一人平均購買額増加の相乗効果が期待できる。

現在の厳しい状況を見つめ、ファンサービスの充実・不急費用の削減に努めて将来に活路を見い出したい。

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	98	98	95	97	96	94	96	96	95	95	
役員(常勤・非常勤)	15	15	14	15	15	15	14	14	14	13	
職員(含む嘱託)	44	45	43	43	45	42	43	44	44	41	
臨時従業員(アルバイト)	22	26	25	24	27	27	25	23	23	22	
登録審判員	18	18	19	20	20	22	23	24	24	25	
登録検査員	19	19	19	20	20	22	23	24	24	25	



新スタンドと管理棟

歴代会長

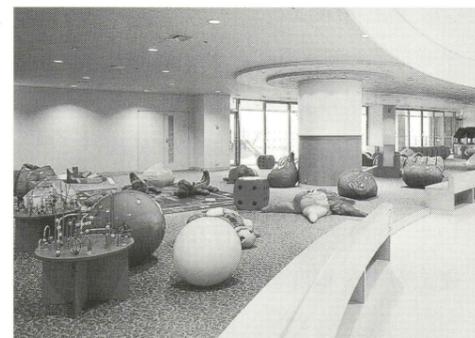
代	氏名	任期
5	中島 富夫	平成2年7月～現在
略歴	中島半平商會会長 深谷上柴ショッピングセンター代表取締役 深谷商工会議所会頭 関東海事広報協会会長 日本海事科学振興財団評議員 競艇情報化センター理事 競艇広報センター理事 連合会常任理事	

副会長

代	氏名	任期
6	武井 靖昌	昭和63年7月～平成 4年7月
7	大熊 健造	平成 4年7月～平成12年7月
8	柿沼 重麿	平成12年7月～現在

専務理事

代	氏名	任期
7	伊集院 久乗	平成4年7月～平成 8年7月
8	柿沼 重麿	平成8年7月～平成12年7月



キッズランド



審判室

(社)埼玉県モーターボート競走会過去10年間の動き

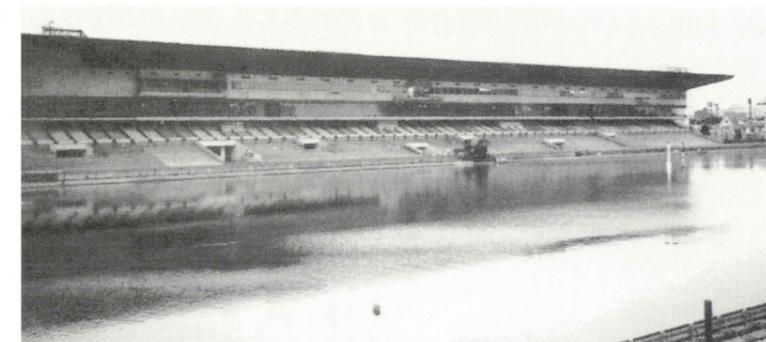
年月日	事柄
平成3年	3月 8日 第5回競艇広告大賞で戸田競艇組合がポスター部門特別賞、新聞部門奨励賞を受賞 4月 1日 戸田競艇場クリーンキャンペーン開始 優勝戦周回数、4周回から3周回となる 5月22日 施設改善記念競走開催、優勝は新井敏司選手 6月 5日 レース直前スタート練習廃止 6月28日 スリット判定写真が電子判定装置となる 9月25日 開設35周年記念競走開催、優勝は池上裕次選手 10月 1日 「埼玉競走会40年のあゆみ」発行 10月29日 戸田競走場総合施設改善基本計画説明会
平成4年	2月13日 法制定40周年記念事業「ひかりの航跡」モニュメント完成 2月29日 '92JAL第5回女子王座決定戦競走開催、優勝は鶴飼菜穂選手 5月13日 開設36周年記念競走開催、優勝は松井繁選手 7月 7日 業界初の「レディースルーム」オープン 8月18日 総合施設改善工事安全祈願祭 9月 7日 ファン友の会本栖研修所体験入所(1泊2日) 12月21日 西田貞雄名誉会長逝去
平成5年	2月20日 「着順確定」審判長宣言放送廃止 3月18日 第28回総理大臣杯競走開催、優勝は植木通彦選手 3月26日 中村男也元選手訴訟結審、全面勝訴 4月 3日 東武東上線「成増」とレース場間バス運行 5月11日 開設37周年記念競走開催、優勝は松岡泰治選手 6月23日 待機行動時間2分間から1分40秒へ 6月23日 モーター名称は番号となる 9月26日 噴水装置「ヴィクトリーアーチ」使用開始 10月 7日 第40回全日本モーターボート選手権競走開催、優勝は長嶺豊選手 10月11日 第40回全日本モーターボート選手権競走開催、準優勝戦で3艇フライング(返還額1,457,523,300円)
平成6年	3月 7日 総合施設改善1期工事「管理棟」完工 3月31日 平成5年度スタート事故率0.53(全国24位) 5月26日 第21回笹川賞競走開催、優勝は福永達夫選手 5月31日 第21回笹川賞競走優勝戦でフライング(返還額832,051,100円) 6月29日 仮設投票所「レインボーホール」オープン 7月15日 「キャッシュレス投票システム」ロイヤルルームでモニター稼働開始 7月20日 戸田競艇場施設改善2期工事安全祈願祭 11月 9日 前日検査、受付終了時刻12時に 11月23日 開設38周年記念競走開催、優勝は池上裕次選手
平成7年	2月 9日 第40回関東地区モーターボート選手権競走開催、優勝は江口晃生選手 5月11日 施設改善記念競走開催、優勝は池上裕次選手 7月11日 ファン友の会浜名湖競艇観戦ツアー(1泊2日) 7月14日 連勝単式投票の拡大(4レース以降)

(社)東京都モーターボート競走会

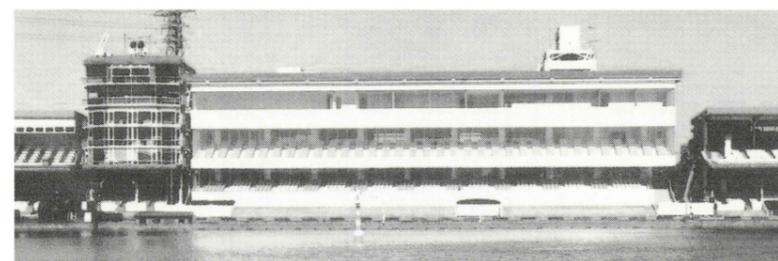
年月日	事柄
平成8年	9月21日 モーター取付けチルト採用 11月 1日 戸田競艇場ボートピア推進室設置 開設39周年記念競走開催、優勝は熊谷直樹選手 12月 1日 「海事思想普及事業30年の歩み」発行 3月 8日 '96JAL第7回女子王座決定戦競走開催、優勝は山川美由紀選手 6月30日 戸田競艇場武道同好会解散 8月 1日 全レース進入固定競走実施(12月末まで15節88日間) 11月 7日 総合施設改善2期工事「西側スタンド・イベントホール」竣工 11月12日 優勝戦出場選手インタビュー始まる(イベントホール) 11月26日 開設40周年記念競走開催、優勝は植木通彦選手 12月18日 第11回賞金王決定戦競走開催、優勝は植木通彦選手 12月23日 自場最高1日売上記録(3, 204, 166, 800円)
平成9年	2月25日 第11回競艇広告大賞「ポスター部門大賞」受賞(戸田競艇組合) 3月13日 仮設審判室使用開始 4月 4日 ダイヤモンドカップ競走(施設改善)開催、優勝は後藤浩選手 6月11日 総合施設改善3期工事安全祈願祭 10月30日 進入固定競走再試行(翌年9月まで8節31日間) 11月 7日 埼玉県都市競艇組合創立40周年記念式典 11月21日 開設41周年記念競走開催、優勝は野長瀬正孝選手
平成10年	3月31日 平成9年度スタート事故率0.22(全国第1位) 4月28日 ボートピア岡部(仮称)で岡部町と両施行者が協定書を締結 9月 7日 ファン友の会桐生競艇ナイターレース見学 11月 1日 GI モーターボート大賞競走開催、優勝は金子良昭選手
平成11年	3月26日 開設42周年記念競走開催、優勝は吉田隆義選手 7月19日 総合施設改善3期工事「中央スタンド」竣工 10月 6日 第46回全日本モーターボート選手権競走開催、優勝は山室展弘選手 10月21日 野口史郎選手(長崎)が8レースで重傷事故
平成12年	2月 9日 第45回関東地区モーターボート選手権競走開催、優勝は角谷健吾選手 3月24日 開設43周年記念競走開催、優勝は丸尾義孝選手 4月 9日 中島会長、勲五等双光旭日章受賞 5月20日 イベントホールでプロレス興行 10月 4日 第47回全日本モーターボート選手権競走開催、優勝は池上裕次選手



江戸川競艇場



平和島競艇場



多摩川競艇場



(社)東京都モーターボート競走会
会長 菅川 陽平

「いつでも どこでも おもしろい競艇」の具現化に向けて邁進

バブル経済が破綻し景気が急激に後退する中、不況に強いといわれた公営競技の神話も荒波の中に飲み込まれてしまった。全国売上は平成3年度をピークに急激な右肩下がりの状態が続いている。東京都競走会では、この長引く不況の中にあっても、公正安全かつ円滑なる競技運営をはじめ、来るべき21世紀に向けての行動指針「競艇新時代へ向けて プラン21」に基づき、「いつでも どこでも おもしろい競艇」の具現化に向け、広域発売の拡充、情報サービスの充実等の諸施策に係わる各種事業を推進してきた。

中でも全力を注いだのが広域発売の拡充である。ボートピア河辺・大郷をオープンし、さらに、ナイター競走を含めた場間場外発売の日数を拡大した。そして、関東地区の幹事競走会として共通会員制の電話投票業務を開始し、インターネット投票のモニター会員を募集した。

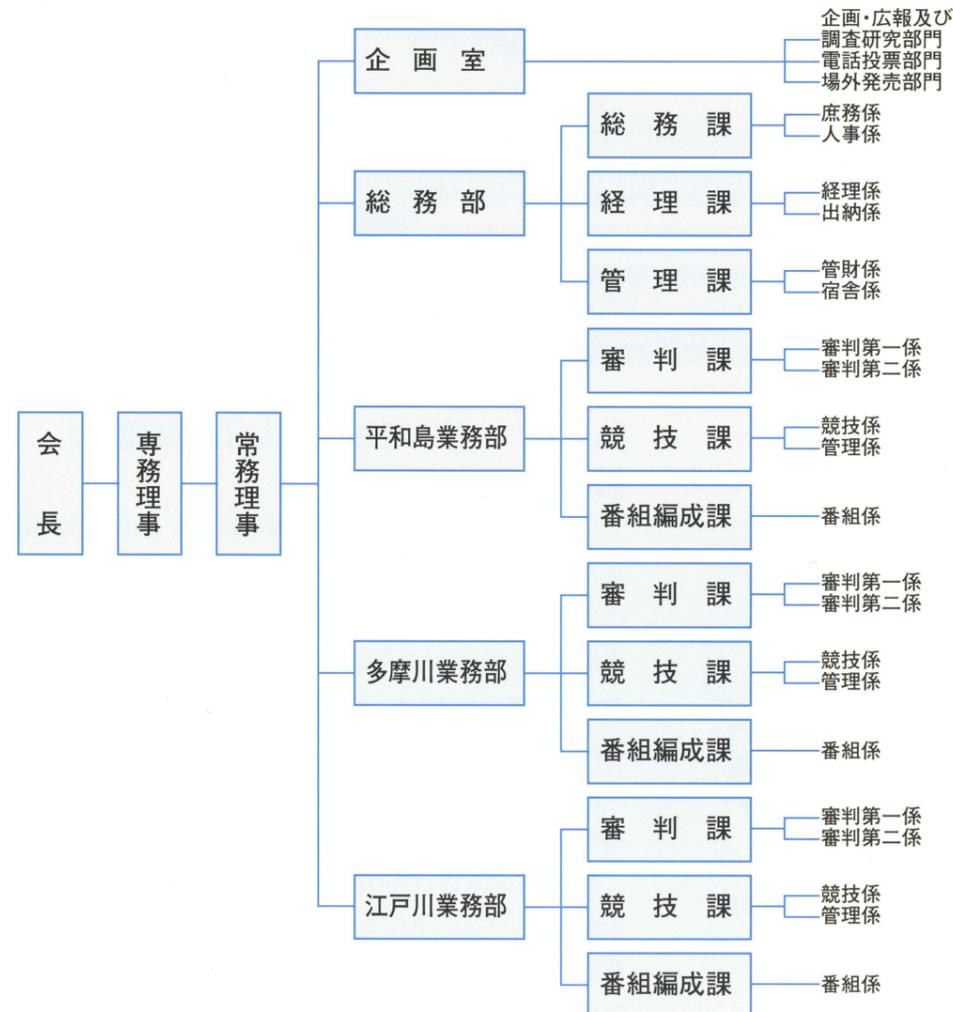
その他の施策では、ファンの皆様に親しんでいただけるよう全国に先駆けて全レース進入固定競走の実施、全窓マークカード方式の採用、流し・ボックス投票カードの導入を行い、ファンサービスとして各場にインフォメーションコーナーを新設した。施設面においても、新スタンド・特別観覧席の建設、大型映像装置の設置等ファンの高級化志向に合わせた拡充を行った。また江戸川では、居室が準個室化されているたいへん画期的な選手宿舎が新設された。

事故防止については、平成3年度に多摩川、平成8・9年度に平和島がスタート事故防止率全国第1位に輝いた。また、平成9年度の「総合事故防止運動」においては、平和島が第2位、江戸川が第3位に食い込むなど好成績を収めた。さらに、人身事故防止に関しては、全国に先駆けて江戸川では補助フィン、平和島ではソフトバウ装備のボートを導入した。

また、競艇場周辺の地域住民に競艇についての理解を得るため、納涼花火大会、園芸祭り、大田区フェスティバル、EBRフェスティバル、ヨット教室、ゴムボート大会、ペアボート大会などを実施した。

以上のような諸施策を積極的に推進してきたが、年々厳しい結果が続いている。しかし、平和島で「3連勝単式」等新勝式投票法が、平成12年11月1日に無事発売開始を迎えられたことは、新世紀に向けての新たな希望の出発点となるに違いない。

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	平成									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	60	57	54	50	48	46	42	40	39	39
役員(常勤・非常勤)	12	12	12	13	13	12	12	11	11	11
職員(含む嘱託)	109	115	119	123	123	123	124	119	114	111
臨時従業員(アルバイト)	107	101	102	108	107	107	105	107	119	119
登録審判員	38	40	44	46	50	51	52	52	51	50
登録検査員	39	41	45	47	51	52	53	53	52	50

歴代会長

代	氏名	任期
4	笹川陽平	昭和56年1月～現在
略歴	日本財団理事長 連合会名誉会長	

副会長

代	氏名	任期
6	竹内清治	平成8年1月～平成12年2月(兼専務理事)

専務理事

代	氏名	任期
7	竹内清治	昭和59年3月～平成12年2月
8	坂本眞輔	平成12年2月～現在

(社)東京都モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年	5月 1日 江戸川競艇場一文字放送開始
	5月29日 平和島競艇場一スタート練習廃止
	5月31日 江戸川・多摩川競艇場一スタート練習廃止
	7月 平和島競艇場一南スタンド竣工
	8月31日 平和島競艇場一第1回夢の船コンテスト開催(日本財団主催)
	9月 多摩川競艇場一スタート無事故連続20日間達成
	11月 江戸川競艇場一外向前売場自動化開始
	12月 平和島競艇場一関東圏初の賞金王決定戦競走開催
平成4年	3月 多摩川競艇場一スタート無事故連続20日間達成 年間スタート事故率0.19で全国第1位
	5月 待機行動に関する要領が全国統一 江戸川競艇場一KCC導入
	6月21日 多摩川競艇場一第2回夢の船コンテスト予選会開催(日本財団主催)
	8月 2日 平和島競艇場一第2回夢の船コンテスト開催(日本財団主催)
	10月 平和島競艇場一対岸大型映像装置竣工 場内テレビ自動制御管理システム運用開始 江戸川競艇場一特別観覧席「エグゼ」竣工 多摩川競艇場一KCC導入
平成5年	3月 多摩川競艇場一対岸大型映像装置竣工
	4月 1日 関東地区モーターボートテレホンセンター開設
	8月 1日 平和島競艇場一第3回夢の船コンテスト開催(日本財団主催)
	9月11日 平和島競艇場一ボリビア大使見学
	10月 平和島競艇場一東京で初めて第2ターンマークネトロン消波装置設置 江戸川競艇場一新選手宿舎竣工
	11月22日 江戸川競艇場一第6レース出場の水野定夫選手殉職
平成6年	3月 平和島競艇場一大時計12秒針折損事故発生 発走台施設セコム監視システム導入 「東京テレシアター」竣工
	4月 多摩川競艇場一第2ターンマークネトロン消波装置設置
	8月 平和島競艇場一スタート無事故連続38日間達成
	9月 江戸川競艇場一第2ターンマークネトロン消波装置設置
	10月 救助艇乗員3人体制
平成7年	1月 多摩川競艇場一第2スタンド竣工
	2月23日 平和島競艇場一中国大使見学
	4月 「ボートピア河辺」開設
	6月 平和島競艇場一全国で初めて全レース進入固定競走開催
	12月 1日 平和島競艇場一曾野綾子日本船舶振興会会長視察
	12月 江戸川競艇場一新浮消波堤をレースコース上下流に8基設置
平成8年	4月 多摩川競艇場一スタート無事故連続34日間達成
	9月 江戸川競艇場一全国で初めてボートに補助フィン導入

年月日	事柄
	12月 平和島競艇場一スタート無事故連続20日間達成
平成9年	3月 平和島競艇場一年間スタート事故率0.21で全国第1位
	4月 多摩川競艇場一投票所全窓口でマークカード方式採用 全国で初めて流し、ボックス投票カード導入
	7月 選手持ちヘルメット制度開始 平和島競艇場一全ピットにプロペラ交換作業台を新設 江戸川競艇場一関東地区で初めてのインフォメーションセンター「メディアプラザ」開設
	8月 3日 江戸川競艇場一第9レースにおいて救助艇の内航走事象発生(ファン抗議50~60名)
	9月 平和島競艇場一スタート無事故連続20日間達成
	12月 江戸川競艇場一スタート無事故連続24日間達成(過去最高タイ記録)
平成10年	1月 平和島競艇場一スタート無事故連続20日間達成
	2月 平和島・江戸川競艇場一「総合事故防止運動」において全国第2・3位の好成績
	3月 平和島競艇場一年間スタート事故率0.22で全国第1位(戸田・下関と同率)
	8月 多摩川競艇場一インフォメーションセンター「ウェイキープラザ」開設
	9月 平和島・多摩川競艇場一第1ターンマークネトロン消波装置新設
	10月 平和島競艇場一スタート無事故連続20日間達成
	11月 平和島競艇場一新SG「競艇王チャレンジカップ」開催
平成11年	2月 平和島競艇場一入場門に100円硬貨とプリペイドカードが併用できる自動ゲートシステム新設
	3月 「ボートピア大郷」開設
	4月 多摩川競艇場一スタート無事故連続20日間達成
	9月 平和島競艇場一「ベイプラザ」竣工
	10月 平和島競艇場一インフォメーションセンター「メディアラウンジ」開設
	11月 平和島競艇場一6レース出場沢田菊司選手殉職
平成12年	1月 江戸川競艇場一全レース連勝単式・連勝複式同時発売開始
	5月 平和島競艇場一ソフトバウボート導入
	6月17日 皇太后様崩御(平和島・多摩川競艇場競走自粛)
	7月 2日 皇太后様剣葬の儀(平和島競艇場競走自粛)
	8月 多摩川競艇場一ソフトバウボート導入
	9月 4日 江戸川競艇場一関東地区で初めてナイターレースの場間場外発売実施(~5日)
	11月 1日 平和島競艇場一3連単等新勝式投票法発売開始

(社)神奈川県モーターボート競走会

(社)神奈川県モーターボート競走会



(社)神奈川県モーターボート競走会
会長 山本 智士

施行者と緊密な提携を図り 役職員一丸となり全力傾注

平成3年5月神奈川県競走会第8代会長に就任した山本智士氏は、「当会は、モーターボート競走の創業に深く関わりを持つ由緒ある競走会でありながら、他県のレース場を借りて競走運営に当るという特異なケースとして、多くの関係諸団体のご協力を得ることは勿論、殊に東京都競走会には、今日まであらゆる面に於いて全面ご支援を頂戴してきたが、このことは当会の維持存続に絶対必要条件である。」と主張し、この精神を基調として業務運営については、月間2日、年間特別競走を含む25日開催という特殊事情のため、東京都競走会の協力のもとに、公正かつ円滑な競技運営を図ることは勿論、平和島運営協議会をはじめとする関係諸団体の諸行事に対し、参加し協力を行っている。

山本会長の方針として、公益法人の使命を達成するためモーター

ボート競走法及び神奈川県競走会定款に基き海事思想普及にも意を注ぎ、もって公益の増進を図るべきとの考えにより、社団法人関東海事広報協会(会長中島富夫埼玉県競走会会長、副会長山本神奈川県競走会会長外、山梨県を含む関東一円12支部)の理事会、総会に対する支援協力をはじめ、「海の旬間」実行委員会が行う、海の記念日記念式典、伊豆大島体験航海、中学生海の図画コンクール、物故船員慰霊祭、シーサイドパレード、夏期海洋教室等の広報活動に全面協力を行った。

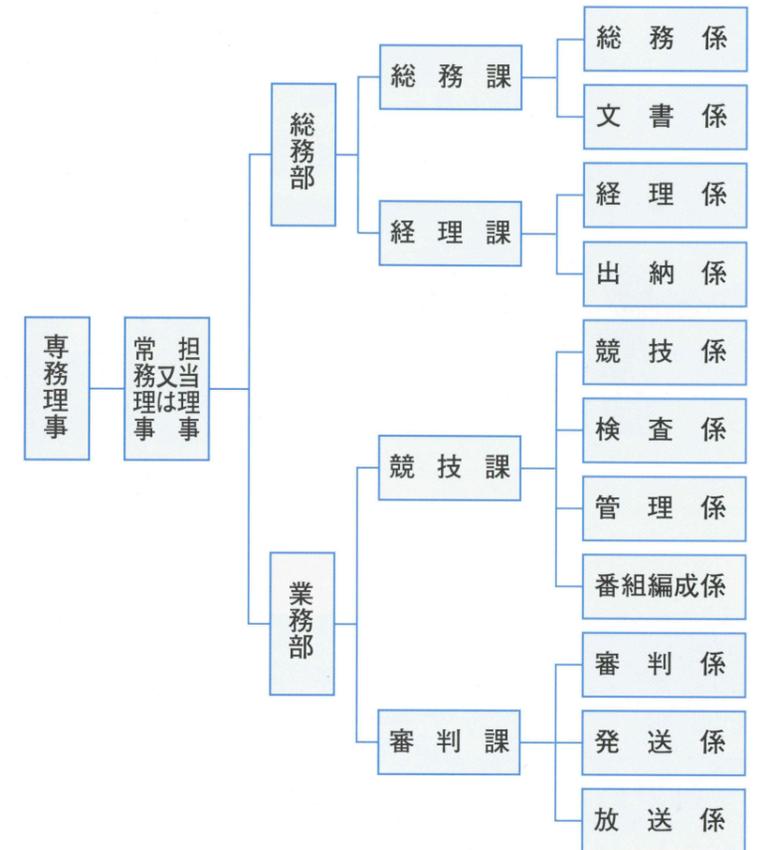
さらに、国民の祝日「海の日」制定署名運動にも積極的参加しその実現に尽力した。

一方、最近の売上の減少は、当会の運営に重大な影響を与え、当会の存立が憂慮されたが役職員一致団結し「神競の灯を消すな」を合言葉に生き残りをかけたリストラを行うと共に、府中市・東京都競走会の深いご温情とご理解のもと、施行者である相模湖モーターボート競走組合と緊密なる提携を図り、共に先輩の残された遺産を継承するため役職員一丸となり全力を傾注している。

競走会構成員の年度別推移

項目	平成									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	63	62	63	60	59	59	60	58	56	58
役員(常勤・非常勤)	10	10	10	10	9	7	9	9	8	8
職員(含む嘱託)	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6
臨時従業員(アルバイト)	17	15	22	22	23	22	23	26	26	27
登録審判員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
登録検査員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

事務局組織図





シーサイドパレード



伊豆大島体験航海の集い

歴代会長

代	氏名	任期
7	渡部 毅	昭和62年5月～平成3年5月
8	山本 智士	平成 3年5月～現在

略歴
 中学校教諭
 衆議院議員公設秘書
 神奈川県競走会専務理事
 (社)関東海事広報協会副会長
 (財)競艇情報センター理事

副会長

代	氏名	任期
6	石原 保	平成10年5月～平成12年5月

専務理事

代	氏名	任期
6	山本 智士	昭和50年5月～平成3年5月



事務所

(社)神奈川県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年 5月7日、8日	第18回笹川賞競走場間場外発売実施
5月21日	山本智士氏会長に就任
7月28日	巡視船「みずほ」体験航海応援
平成4年 5月9日、10日	伊豆大島体験航海の集い応援
7月	海の図画コンクール審査、表彰式応援
8月30日、31日	第38回モーターボート記念競走場間場外発売実施
平成5年 5月	相模湖地区場外発売場設置説明会開始
6月21日、22日	ボートピア朝倉、丸亀視察
7月18日	国民の祝日「海の日」署名運動応援
7月20日	山本智士会長運輸大臣表彰受賞
平成6年 1月25日、26日	第8回新鋭王座決定戦競走場間場外発売実施
8月10日	東京支部神奈川ブロック家族ぐるみ運動実施(選手指導)
12月12日	関東海事広報協会との洋上研修会
平成7年 2月～4月	ボートピア河辺、平和島競艇場観戦ツアー応援
4月 6日	ボートピア河辺オープン
平成8年 2月29日	国民の祝日「海の日」を祝う関東地区実行委員会設立総会応援
7月20日	国民の祝日「海の日」制定記念式典応援
10月17日	施行者との合同業務研修会
平成9年 7月27日	物故船員慰霊祭法要応援
8月 1日	東京支部ふれあい研修会
10月15～20日	BP河辺にてGI ウェイキーカップ競走場間場外発売実施
平成10年 2月、3月	第25回笹川賞競走ファン投票実施
4月27日	海の旬間実行委員会応援
7月	電話投票会員紹介キャンペーン実施
平成11年 3月10日	当会事務所移転(太田町)
8月 3日	ポートヨコハマ夏期海洋教室開催応援
8月8～10日	相模湖組合施行40周年記念競走実施
9月25～28日	BP河辺にて多摩川競艇ダイヤモンドカップ競走場間場外発売実施
平成12年 1月 8日	東京支部神奈川ブロック新年会(人身事故防止の指導)
2月 9日	県立かながわ労働「プラザ」に総会会場変更
7月16日	平和島海洋クラブ夏期研修応援
7月20日	シーサイドパレード応援

(社)静岡県モーターボート競走会



新しくオープンした中央スタンド棟



(社)静岡県モーターボート競走会
会長 小池 明成

施行者と一丸となって積極的な売上向上策を推進

静岡県競走会は、昭和26年10月5日に認可され、事務所を熱海に開設。その後清水市に移転した。浜名湖競艇場が舞阪町弁天島に開設されるのに伴い、昭和28年5月18日に新居町に移った。平成3年は、熱海に事務所を構えてから40周年を迎えたが、10月22日、多数の関係者を集め浜松・名鉄ホテルで『静岡県競走会創立40周年「感謝の集い」』を開催した。このめでたい年ではあった平成3年度は、平成不況のおりを受け、前年度8.5%の売上増を示していたが、1%の増と数字を落とした。しかし、他の近隣の競艇場ではマイナスを示しており、健闘したといえる。平成4年には「第38回モーターボート記念競走」を開催し、これまで1R最高売上記録は昭和63年の「第34回モーターボート記念競走」の折だったが、4年ぶりに売上記録を塗り替え、年度売上に大きく貢献、前年度比19.5%の売上増となった。その後も、SG開催の年は、売上は増大するものの、SG開催の無い年はその反動で大きく売上を減少し、トータルとしてこの10年をみると、

(社)静岡県モーターボート競走会

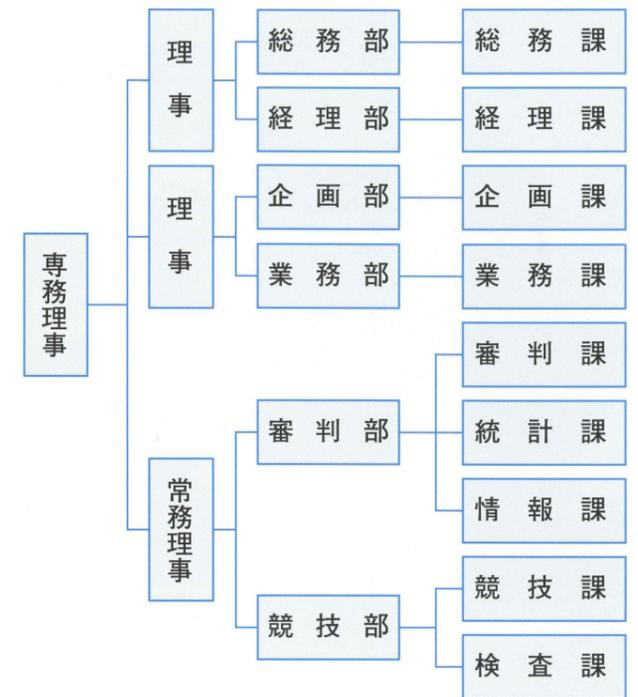
厳しい状況が続いている。

そのような中、浜名湖競艇場では、平成10年10月14日に業界12番目となる「ボートピア玉川」(福島県石川郡玉川村)をオープンした。東北地方の競艇場外発売場としては3番目となる。同ボートピアは3,050万円の売上目標でオープンしたが、初開催の節こそ3,001万円と健闘したが、平成10年度は85日開催の一日平均は2,582万円であった。翌11年度は、積極的にPRを行い競艇の認知度も多少アップし、SGの間場外発売を行ったが一日平均約2,100万円で前年度比20%減の結果に終わった。

一方、本場は平成7年10月から総工費230億円をかけ、2期にわけ中央スタンドの改善工事を進めていたが、平成12年3月7日にグランドオープンし、3月15日から「第35回総理大臣杯競走」を開催、多数の来場者を迎え節間268億円と目標の240億円を大きく上回った。

競走会は、施行者と一丸となってボートピア玉川も含め、積極的な売上向上策を推進する他、「公正かつ安全な競走」実現のための諸施策を実施し、海事思想の向上のため「ジェットスキー大会」、「浜名湖ソーラー&人力ボートレース大会」などアマチュアの競技会にも積極的に応援を行っている。

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	年度										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	22	23	23	23	23	22	22	20	19	19	
役員(常勤・非常勤)	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
職員(含む嘱託)	26	29	27	28	26	26	25	25	26	26	
臨時従業員(アルバイト)	35	37	36	36	37	37	36	35	69	63	
登録審判員	14	14	14	17	15	16	16	16	16	16	
登録検査員	13	13	13	16	15	16	16	16	15	15	



宿舎及び競走会事務所



新スタンドに設置されたモスバーガー

歴代会長

代	氏名	任期
5	小池 明成	平成2年6月～現在
略歴	アジアホンダ(株)副社長 静岡県競走会専務理事 静岡県競走会副会長	

副会長

代	氏名	任期
6	小池 明成	昭和59年6月～平成2年6月

専務理事

代	氏名	任期
4	橋爪 定雄	平成10年6月～現在



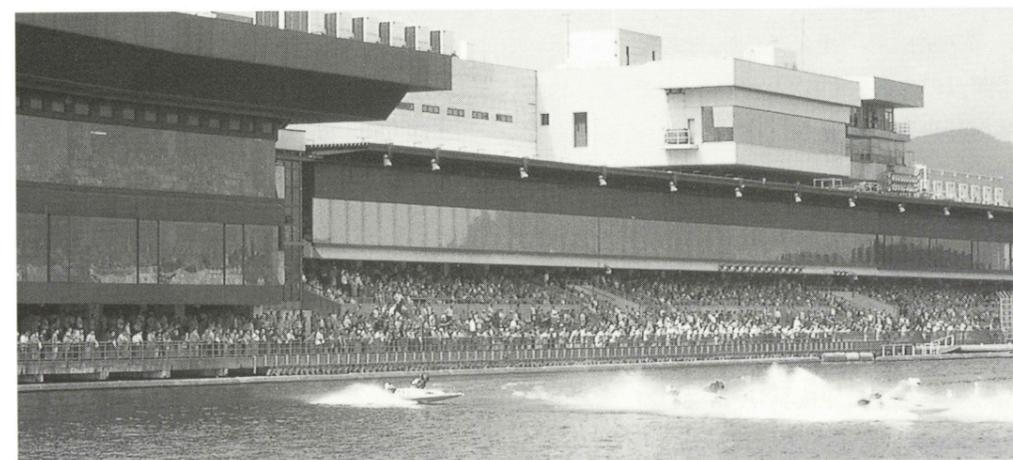
アトリウム

(社)静岡県モーターボート競走会過去10年間の動き

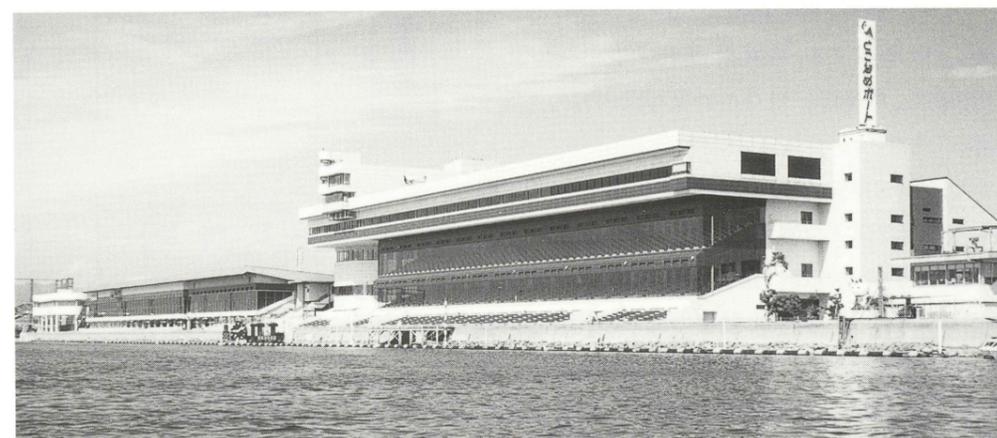
年月日	事柄
平成3年	3月14日 司法修習生レース場見学会(毎年実施)
	5月14日 名誉会長小池節郎氏勲四等瑞宝章受章
	6月26日 東海地区競艇関係者武道大会開催
	8月 5日 スタート無事故連続30日間達成 連合会より表彰される
	8月18日 「浜名湖マリンフェスタ」開催
	9月26日 テレビ静岡杯「初心者ボート教室」開催
	10月22日 静岡県競走会創立40周年記念式典実施
	11月21日 浜名湖ボートファンクラブ本栖研修所見学会
	11月29日 相談役・鈴木伝氏逝去
	12月 7日 新居警察署管内暴力追放大会参加
平成4年	1月24日 第6回新鋭王座決定戦競走開催
	3月13日 浜名湖競艇多目的ホール「サンホール」完成
	4月 1日 「文字放送」放映開始
	5月 9日 「女性ボート教室」開催
	6月12日 村田守弘氏常勤理事に就任
	6月21日 第2回夢の船コンテスト地区予選開催
	7月10日 連合会主催「ヨーロッパ視察研修会」小池会長参加(20日まで)
	8月26日 第38回モーターボート記念競走開催
	10月 3日 「第8回全日本ゲートボール選手権大会」(於:浜松球技場)で笹川良一会長来浜
	10月30日 暴力追放県民大会参加
	10月31日 マリンスポーツ財団「ジェットスキー大会」浜名湖競艇場で開催(2日間)
	11月18日 「第39回全日本選手権競走」優勝・服部幸男選手祝勝会開催
平成5年	6月21日 中部船用工業会より賛助功績として感謝状
	8月22日 「浜名湖マリンフェスタ」開催
	9月25日 新居警察署管内暴力追放大会参加
	9月27日 連絡協議会合同現地調査(2日間)
平成6年	3月 3日 第7回女子王座決定戦競走開催
	3月25日 浜名湖競艇大型映像「レイクドリーム」完成
	6月24日 笹瀬義徳氏常勤理事就任
	7月 3日 「浜名湖ボートランド」開園
	7月24日 「浜名湖マリンフェスタ」開催
	8月26日 '94浜名湖ソーラー&人力ボートレース大会開催
	10月 共通会員制電話投票「テレボート東海」スタート
平成7年	5月24日 第22回笹川賞競走開催
	6月 8日 「第30回総理大臣杯」、「第22回笹川賞」優勝・服部幸男選手祝勝会
	8月19日 「浜名湖マリンフェスタ」開催
	10月 小池会長司法行政の功績として静岡県調停協会連合会長より表彰される
平成8年	1月19日 「暴力追放・銃器根絶推進大会」浜名湖競艇場で開催
	3月25日 「サンマリブリッジ」完成
	7月20日 浜名湖オーシャンフェスティバル開催(2日間)

(社)愛知県モーターボート競走会

年月日	事柄
平成9年	8月10日 '96浜名湖ソーラー&人力ボートレース大会開催(2日間)
	10月4日 暴力追放県民大会参加
	2月6日 「暴力追放・銃器根絶推進大会」浜名湖競艇場で開催
	6月16日 日本財団曾野綾子会長浜名湖競艇場を視察
	6月29日 '97OSP浜名湖杯争奪アマチュアボートレース競艇場で開催
平成10年	11月13日 小池会長社会貢献者表彰受賞
	2月17日 相談役・森山政治氏逝去
	3月11日 浜名湖競艇新スタンド第一期工事完成
	3月23日 伊藤公二選手(1876、香川)殉職
	4月1日 「第12回賞金王決定戦競走」優勝・服部幸男選手祝勝会
	4月8日 審判実況放送を業者委託に
	7月21日 小池会長海事功労者として清水海運支局長より表彰される
	10月14日 浜名湖競艇場外発売場「ボートピア玉川」オープン
平成11年	11月12日 浜名湖競艇インターネットで生放送開始
	7月21日 小池会長海事功労者として中部運輸局長より表彰される
	8月9日 「ボートピア玉川」連絡協議会による合同現地調査
平成12年	2月16日 選手宿舎空調設備全面改修工事
	3月4日 中央スタンド竣工式
	3月15日 第35回総理大臣杯競走開催
	6月27日 ピットレポート開始
	7月22日 小池会長海事功労者として運輸大臣より表彰される
	8月8日 職場と選手と家族ふれあい研修会実施
	8月10日 連絡協議会による合同現地調査(2日間)
	8月12日 浜名湖オーシャンフェスティバル開催
	9月28日 「暴力追放と交通安全住民大会」参加
	10月17日 「メメント・モリ」(日本財団主催)浜名湖競艇場で開催
	10月24日 名誉会長・小池節郎氏(96)逝去



蒲郡競艇場



常滑競艇場



(社)愛知県モーターボート競走会
会長 深尾 竹市

21世紀への夢は果てしなく

人類は新しい世紀を迎え、未来に向けての新しい挑戦がはじまっている。

競艇業界においても、平成13年は法制定50周年という記念すべき年である。この半世紀にわたる業界の歩みは決して平坦な道程でなく、関係者の懸命な熱意とファンの支援があってこそ、今日があることを忘れてはならない。新しい一歩踏み出すにあたり、今一度、初心にかえり事業の健全な運営に取り組んでいかなければならない。

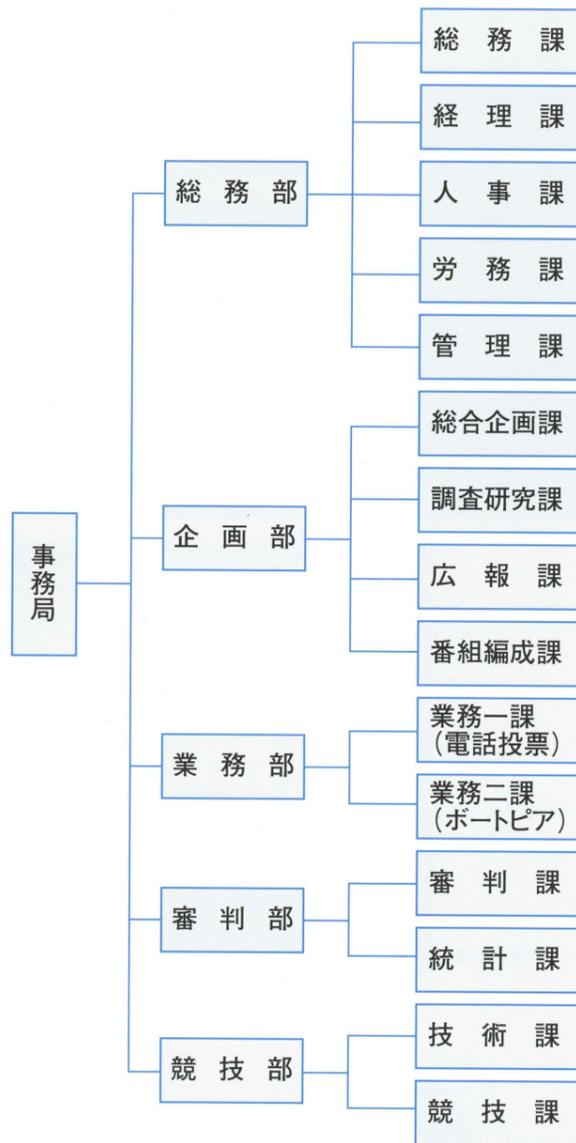
愛知県競走会においても創立50周年の節目を迎えたが、競走会業務の拡大につれて従来からの競技運営のみならず、電話投票業務並びにボートピアにおける発売業務等の新しい分野にも進出し、施行各市と綿密な連携をとりながら広域発売の推進に努力をしていかなければならない。

しかしながら、この10年間を振り返ると、創立40周年日の平成3年

は長く続いていた好景気が後退局面を迎え、いわゆるバブル経済の壊滅という厳しい時代への転換期でもあったが、愛知県競走会も集客、広報宣伝活動等、施行各市と協力し積極的に取り組んできた。その結果、7回のSG競走開催の実施をすることができ、中でも平成8年度に蒲郡競艇場で開催された第42回モーターボート記念競走では、他23場の場間場外をはじめ電話投票の広域発売及び場外発売場での発売協力により、努力目標を30億円上回る301億1,587万9,800円を売上げ、モーターボート記念競走の新記録を達成でき、蒲郡では節間売上最高記録をはじめ記録ラッシュに沸いた。施設面では平成4年度常滑競艇場、平成7年度蒲郡競艇場に大型映像装置が設置され、その他、蒲郡・常滑競艇場場内では競艇の各種情報提供の場である「情報インフォメーションセンター」等を設置し、積極的に当会が情報提供内容の充実を推進してきた。

また、平成6年10月より当会が幹事競走会として運営する全国共通会員制電話投票の「テレボート東海」が発足し、会員募集や会員管理業務を行い、併せて平成10年3月には、長年の懸案であった全国で10番目の場外発売場「ボートピア川崎」が宮城県にオープンした。施行者から投票業務を受託し、投票業務の運営及び従事員管理、並びに徹底した接客研修等を当会で行い、業務の拡大や売上面での飛躍的な期待もできることとなった。

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	124	124	104	96	93	92	89	86	76	77
役員(常勤・非常勤)	9	9	10	10	11	11	10	10	10	12
職員(含む嘱託)	55	57	54	52	54	50	50	48	48	51
臨時従業員 (アルバイト)	62	63	61	57	57	57	125	121	116	114
登録審判員	21	21	25	27	24	26	25	27	26	28
登録検査員	19	19	24	25	24	28	27	27	26	29

平成11年度には、蒲郡競艇場においてナイターレースが開催され、ボートピア川崎でもボートピア初のナイターレース発売が実施されたことにより、地元はもとより多くのファンが来場し夜祭的賑わいであった。

平成12年度には、蒲郡・常滑競艇場において「有料制ファンクラブ」が発足し、当会において会員の管理業務を行っている。

しかしながら、この間平成6年5月に常滑競艇場において、強風のため競走中止により紛争

事故が発生し、1ヶ月間の開催停止を余儀なくされたため、当会においては、局地的気象情報の入手、競走場内の緊急連絡体制の確立、紛争時の訓練を施行者と緊密に協力し実施する等、事故の再発防止に務めた。

一方、当会が公益法人として社会に貢献することを目的にしている海事思想の普及活動については、中部海事広報協会の行う事業に積極的に協賛するとともに、「家族ふれあい伊勢湾クルージング」への助成、「毎日ラジオンボートカーニバル」「ゴムボート大会・ヨット教室」の実施、「市民ふれあいフェスティバル」の後援、また「日本海洋少年団」「社会福祉協議会」等の文化事業、社会福祉への協力を行った。

次に、同会部内での会務運営については、コンピューターの導入等により事務の合理化に努め、役職員の研修を通じてIT社会への適応等一層の効率化を推進、併せて経費の効率化にも努めている。

最後に、同会に課せられた競走の公正と安全という使命を達成し、平成12年5月第6代愛知県競走会長に就任した深尾会長の新体制のもと、夢のある未来を実現するために、多様化する社会のニーズに的確に対応する諸施策を構築していかなばならない。



蒲郡ナイターレース



常滑 競艇情報センター

歴代会長

代	氏名	任期
5	岩塚 静	昭和61年5月～平成12年5月
6	深尾 竹市	平成12年5月～現在
略歴	愛知県競走会専務理事 愛知県競走会副会長	

副会長

代	氏名	任期
5	深尾 竹市	平成10年5月～平成12年5月

専務理事

代	氏名	任期
5	石田 達曠	昭和63年5月～平成 8年5月
6	深尾 竹市	平成 8年5月～平成12年5月
7	皆川 浩二	平成12年5月～現在

(社)愛知県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年 12月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
7月22日、23日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象にヨット教室を開催(8月8、9日にも開催)
8月 4日	「第16回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月27日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
平成4年 1月28日	御園座において役職員並びに従業員の家族親睦会を実施
2月 5日	第37回東海地区選手権競走を蒲郡競艇場で開催
3月19日	第27回総理大臣杯競走を蒲郡競艇場で開催
6月18日	第2回グランドチャンピオン決定戦競走を蒲郡競艇場で開催
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
8月 2日	「第17回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月3日～5日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象にヨット教室を開催
8月27日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
12月 9日	御園座において役職員並びに従業員の家族親睦会を実施
平成5年 2月19日	常滑競艇場大型映像装置及び対岸総合表示盤設置
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
8月 1日	「第18回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月 9日	「親子ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
8月24日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
12月20日	御園座において役職員並びに従業員の家族親睦会を実施
2月11日	第39回東海地区選手権競走を常滑競艇場で開催
5月15日	常滑競艇場において紛争事故発生
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
8月 7日	「第19回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月20日	「親子ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
8月22日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
10月1日	東海地区全国共通会員制電話投票(テレボート東海)発足
10月7日	第41回全日本選手権競走を常滑競艇場で開催
平成7年 1月17日、26日	「選手と家族のふれあい研修会」を常滑選手宿舎・蒲郡市民会館で実施
1月31日	御園座において役職員並びに従業員の家族親睦会を実施
7月 9日	蒲郡競艇場において「'95トリアスロンワールドカップ蒲郡」等が開催され競技運営について協力日本財団に助成を受け協賛
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
7月22日	「親子ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
7月27日～29日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象に海洋教室を開催
8月 6日	「第20回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月25日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
9月 9日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「とこなめボートふれあいフェスティバル」を開催
10月 3日	「選手と家族のふれあい研修会」を常滑選手宿舎で実施
12月4日、8日	御園座において役職員並びに従業員の家族親睦会を実施

年月日	事柄
平成8年 2月 1日	蒲郡競艇場大型映像装置設置
2月 8日	第41回東海地区選手権競走を蒲郡競艇場で開催
2月20日	蒲郡競艇場インフォメーションセンター開設
5月19日	蒲郡競艇場において「'96トリアスロンワールドカップ蒲郡」等が開催され競技運営について協力日本財団に助成を受け協賛
7月 7日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「とこなめボートふれあいフェスティバル」を開催
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
8月27日	第42回モーターボート記念競走を蒲郡競艇場で開催
8月 4日	「第21回中部地区模型ボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月 5日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象に海洋教室を開催
8月 7日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
8月17日	「家族ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
平成9年 5月22日	第24回笹川賞競走を常滑競艇場で開催
7月 6日	蒲郡競艇場において「'97ITUトリアスロンワールドカップ蒲郡」等が開催され競技運営について協力 日本財団に助成を受け「市民ふれあいフェスティバル」を開催
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
7月21日	「第5回家族ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
7月22日	「第22回毎日ラジコンボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月 7日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象に海洋教室を開催
8月27日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
11月9日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「とこなめボートふれあいフェスティバル」を開催
平成10年 2月19日～24日	第43回東海地区選手権競走を常滑競艇場で開催
3月19日	場外発売場ボートピア川崎オープン
6月	常滑競艇場競艇情報センター開設
7月12日	蒲郡競艇場において「'98ITUトリアスロンワールドカップ蒲郡」等が開催され競技運営について協力 日本財団に助成を受け「市民ふれあいフェスティバル」を開催
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
7月26日	「第6回家族ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
8月 2日	「第23回毎日ラジコンボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月19日	蒲郡競艇場において蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
8月19日、20日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象に海洋教室を開催
11月8日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「とこなめボートふれあいフェスティバル」を開催
平成11年 4月18日	蒲郡競艇場において「'99ITUトリアスロンワールドカップ蒲郡」等が開催され競技運営について協力日本財団に助成を受け「市民ふれあいフェスティバル」を開催
5月18日	第26回笹川賞競走を蒲郡競艇場で開催

(社)三重県モーターボート競走会

年月日	事柄
7月 1日	ムーンライトレース(ナイターレース)開始
7月20日	「海の記念日名古屋みなと祭協賛会」が「海の記念日」を中心に行われ各種記念行事に協賛
7月31日	「第7回家族ふれあい伊勢湾クルージング」を中部海事広報協会と共催で実施
7月31日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「とこなめボートふれあいフェスティバル」を開催
8月 1日	「第24回毎日ラジコンボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月17日、18日	常滑競艇場において常滑市と共催で小学生を対象に海洋教室を開催
2月 3日	第45回東海地区選手権競走を蒲郡競艇場で開催
4月 9日	蒲郡競艇場において有料ファンクラブ設立総会を開催
4月23日	蒲郡競艇場において日本財団の助成を受け「地域住民ふれあいフェスティバル」を開催
5月19日	第50回通常総会で深尾会長第6代会長に就任
5月23日	第27回笹川賞競走を蒲郡競艇場で開催
8月 6日	「第25回毎日ラジコンボートカーニバル」を愛知青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8月20日	常滑競艇場において日本財団に助成を受け常滑市と共催で「地域市民ふれあいフェスティバル」を開催

平成12年



津競艇場



(社)三重県モーターボート競走会
会長 森口 隆

売上向上のため役職員一丸となって事業を推進

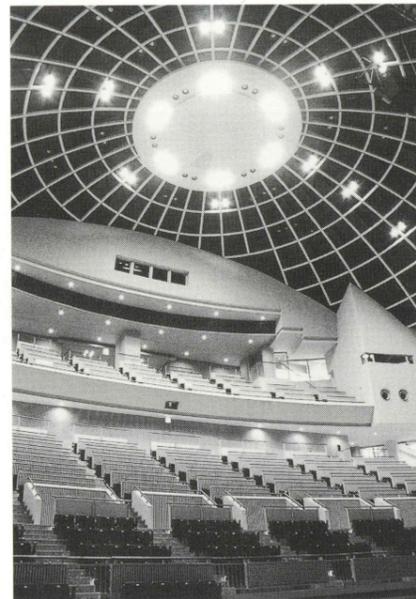
津競艇場では平成3年はモーターボート競走法制定40周年にあたるが、選手賞金が2号基準に昇格した最初の年で、この基準をいかに維持していくかという試練の年でもあった。バブル経済の崩壊等社会経済の影響から売上、入場者とも減少、平成4年度はプラスに転じたものの、これはモーターボート大賞競走、東海地区選手権競走の開催と、同選手権競走の地区内場外発売実施のお陰であり、実質的にはマイナスであったといえる。その後も経済の好転等がみられず、モーターボート大賞競走あるいは地区選手権競走の開催により多少の売上減少率の幅に違いがあるものの、厳しい状況が続いている。

こんな中、好調だったのが共通電話投票関係で、平成6年10月に導入後、会員の拡大も手伝って売上、利用者とも増加の傾向を示した。

津競艇は、売上低迷の中、東海地区における場間場外を積極的に推し進め、平成9年度には「ツッキー夏まつり」、鏡開きとして「手作りぜんざい」のサービスなどファンサービスに努め、平成12年2月には第1期新館建設が完成し、売上、入場者の増加に向け一層の拍車をかけている。

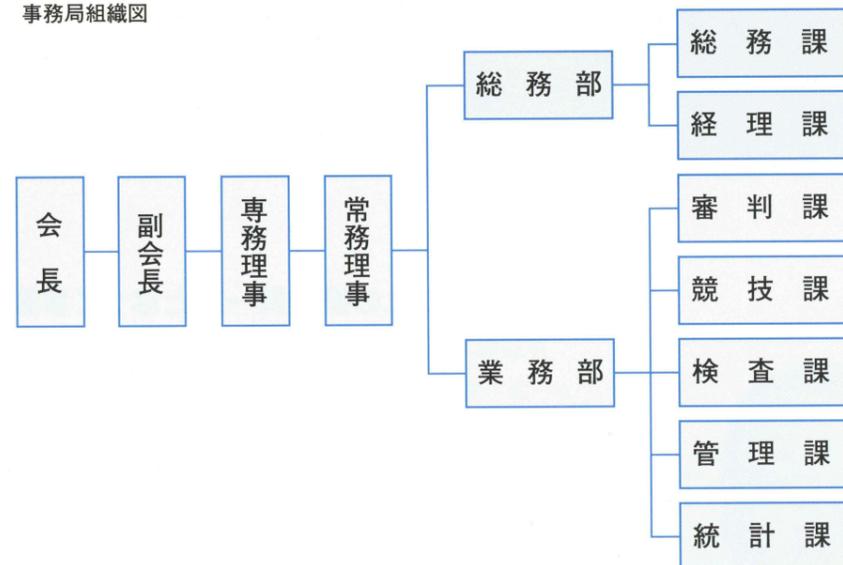
競走会としては、これらの施策のバックアップを図るとともに、昭和45年の建設以来老朽化していた選手宿舎を平成3年に補修し、参加選手の受入態勢の充実を図るとともに、新規ファンにも受け入れられやすい様にスタート練習廃止も積極的に行った。平成9年にはファンサービスの一環として「進入固定競走」を導入するなど「人身事故の防止」、「競走の公正かつ円滑な実施」は勿論のこと、売上向上のため役職員一丸となって事業を推進している。

また、海事思想の普及として「少年少女ヨット教室」を定期的で開催し、「親子ふれあい伊勢湾クルージング」、「四日市港まつり」などにも積極的に協賛している。



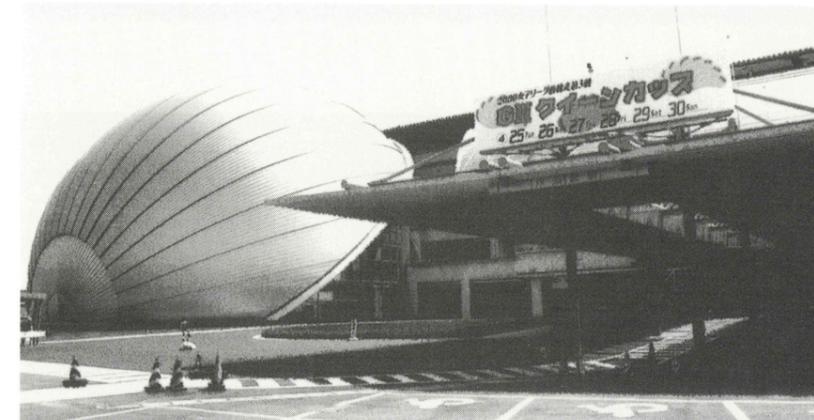
ツッキードーム

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	平成									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	21	21	19	18	17	17	16	14	13	11
役員(常勤・非常勤)	8	10	9	8	8	8	8	8	8	8
職員(含む嘱託)	26	24	20	22	22	22	21	21	23	23
臨時従業員(アルバイト)	25	24	27	31	29	28	30	31	27	26
登録審判員	11	10	10	11	11	11	10	10	10	10
登録検査員	9	9	9	10	10	10	9	10	10	10



ツッキードームと入場門

歴代会長

代	氏名	任期
4	森口 隆	昭和57年7月～現在
略歴	(財)伊勢湾海洋スポーツセンター副理事長 三重県海事広報協会副会長 (財)澄懐堂美術館館長 (財)競艇保安協会理事 競艇広報センター理事 連合会常任理事	

副会長

代	氏名	任期
3	池山 登行	平成10年6月～現在

専務理事

代	氏名	任期
6	品川 清	平成10年6月～現在

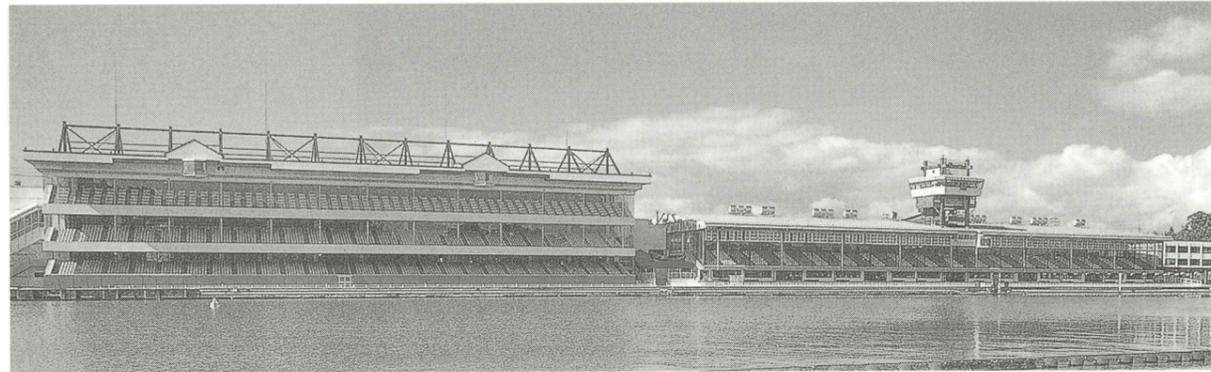
(社)三重県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年 4月	宿舎補修・浴室(サウナ付き)新築工事着工
平成6年 8月	「親子ふれあい伊勢湾クルージング」を実施
平成6年 10月	共通電話投票開始
平成7年 8月	「津ボート夏まつり」を実施
平成8年 3月	大型映像装置及び確定・オッズ盤新設
平成9年 7月	「第11回海の祭典」実行委員として各種行事に参加
平成9年 1月	新春競走対岸に大鏡もち・えと看板を設置
平成9年 4月	スタンド棟新築工事着工
平成9年 8月	「ツッキー夏まつり」を実施
平成10年 1月	新春競走鏡開き手作りぜんざいサービスを実施
平成12年 2月	新スタンドオープン

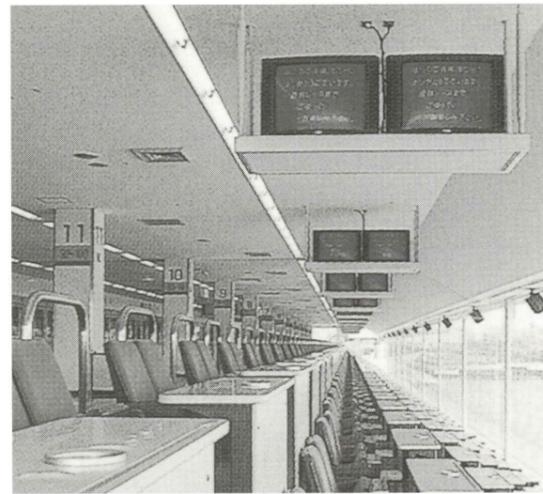
(社)福井県モーターボート競走会

(社)福井県モーターボート競走会

スタンド全景



観覧席



指定席(636席)



(社)福井県モーターボート競走会
会長 一瀬 茂雄

更なる躍進へ向けて

三国競艇では法制定30周年、競艇元年を契機に提唱された「いつでも、どこでも、おもしろい競走」を基本理念に、新しい時代に向けた諸施策を、三国競艇企画実行委員会を中心に関係者一丸となり遂行してきた。

施設改善においては、平成4年に時代のニーズに沿う豪華な指定席、禁煙席を設けた新2号館を新築した。また、競艇界初の横長ワイドスクリーンの大型映像装置を平成7年に設置し、更には平成9年にイベントホールを完成させる等、時代の変化に対応すべく、快適性を重点に施設の整備を行ってきた。

広域発売の推進では平成5年の全国発売電話投票の開始、場間場外発売の拡大をはじめ平成10年には業界初のナイター場間場外発売を実施しファンに大好評を得、業界全体に道標を示した。また、3連

勝式投票法等、新投票は本年の導入を目指し現在準備を進めている。

三国競艇の売上は、初開催当時の昭和28年は年間売上2億9,642万円、入場者は20万人であったが、昭和43年九頭竜川河口から現在地の三国町池上地区へ移転し、設備の近代化やファンサービスの充実等に関係者が協力し努力をしてきた結果、平成4年度には新2号館オープンと相まって年間売上607億円まで上昇の一途を辿っていった。

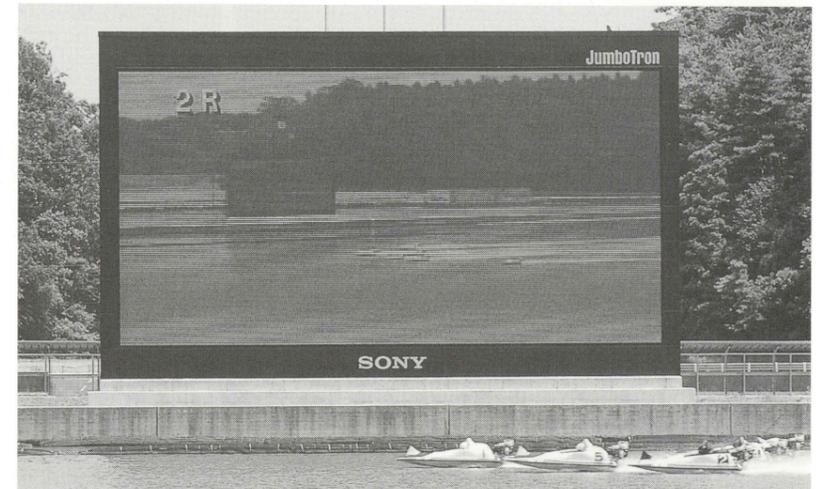
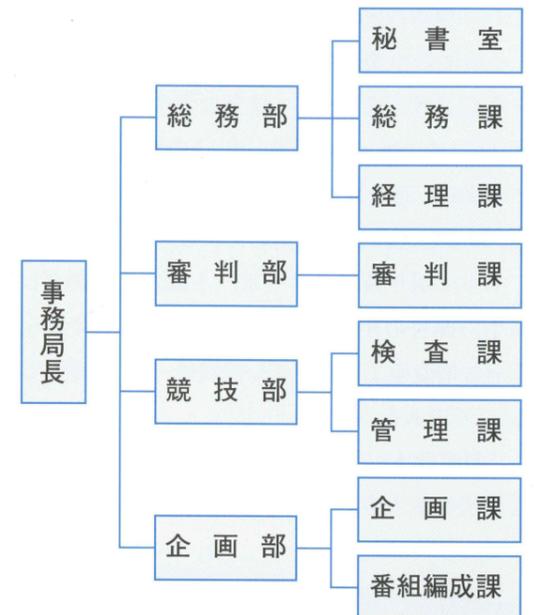
ファン待望のSG競走開催は平成7年度に「モーターボート記念競走」を開催し年間売上767億円と年間売上新記録を達成、平成10年度の「オーシャンカップ競走」ではモーターボート記念競走を上回る263億円の節間売上新記録を達成し、成功裡に終了した。

しかし、バブル経済崩壊後の景気低迷もさることながらレジャー志向の多様化、近隣公営競技の場外発売日数の増加等、様々な要因の影響を受け、SG場外発売を除く売上、利用者は平成4年をピークに暫時下降線を辿り、今日では極めて厳しい状況である。

この売上低迷に1日も早く歯止めをかけるべく、諸施策を推進し21世紀の新競艇時代を築いていきたい。

本会は受託業務の公正かつ円滑な競走の実施を行うと共に

事務局組織図



大型映像装置

競走会構成員の年度別推移

項目	平成									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	163	163	163	162	156	153	152	146	141	139
役員(常勤・非常勤)	15	15	15	15	15	15	15	15	13	14
職員(含む嘱託)	20	22	21	23	24	24	22	22	22	22
臨時従業員(アルバイト)	27	26	25	25	25	25	25	25	24	23
登録審判員	17	18	19	19	20	20	19	20	20	20
登録検査員	16	17	18	18	20	20	19	20	20	20

に、事故防止を積極的に推進し、平成4年度には連続スタート無事故20日間並びに30日間の記録を達成した。

その他の事業にあっては少年少女ヨット教室や少年少女武道教室を開催し、健全な青少年の育成を図ると共に、アマチュアモーターボートの育成、海洋少年団への助成、海の日記念行事「ボート天国」に協賛参加等、海事思想の普及に努めている。

本年は福井県モーターボート競走会が創立して50周年の節目の年を迎え、長年の懸案事項であった選手宿舎増改築工事を完工し役職員一同、心新にしているところである。

この記念すべき年を新なる出発点とし、広域発売や投票法の拡大等諸施策を着実に実施し、21世紀の更なる飛躍を目指している。



競走会事務所



インフォメーションセンター



映像センター

歴代会長

代	氏名	任期
2	一瀬 茂雄	昭和59年5月～現在
略歴	競走会専務理事 九頭竜厚生事業団理事 やしろ会館副会長 福井県海事広報協会副会長 競艇情報化センター理事 日本ゲートボール連合理事 連合会理事	

副会長

代	氏名	任期
3	吉田 慶三	昭和46年6月～平成 6年6月
4	古市 幸雄	平成 6年6月～平成11年6月

専務理事

代	氏名	任期
7	宇野松右衛門	昭和62年1月～現在

(社)福井県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年 4月 4日	ランナー戦を廃止、前日前売を廃止、ピット枠順を変更
5月 6日	場間場外発売の電話投票を開始
5月30日	スタート練習を廃止、優勝戦の周回を4周から3周レースへ変更
10月29日	競走会創立40周年記念式典を三国観光ホテルで実施
平成4年 4月26日	連続スタート無事故20日間及び達成30日間達成
5月 1日	待機行動の全国統一を実施
5月27日	自動発艇装置設置を使用開始
11月20日	新2号館が竣工、KCCを導入(使用開始は12月2日から)
平成5年 2月13日	近畿地区選手権競走を場間場外で発売(本場三国、場外住之江)
8月14日	三国ボートFAX情報サービス開始
9月 9日	競技進行システム、展示用自動発艇装置が稼動
12月 1日	テレボートきんぎ(共通会員制電話投票)が稼動
平成6年 7月 6日	大型出走表を採用
8月19日	北潟湖でジュニアヨット教室を2日間開校
11月 2日	審判委員長の確定宣言をアナウンサーが放送
平成7年 4月 6日	待機行動時間を1分45秒へ変更
4月 6日	電子式判定装置の導入
7月 5日	連勝単式投票法の拡大(施行規則の改正)
8月24日	初のSG競走「第41回モーターボート記念競走」開催(8月24日～29日)
8月29日	売上記録更新1日売上8,948,669,300円 節間売上25,700,891,900円
11月15日	水上施設(45m・85mポール、標識板、大時計目盛)の変更
平成8年 1月 2日	プロペラ交換をファンに公表
1月30日	大型映像装置の完成
10月17日	進入コース固定競走を試行実施(10月17日～12月1日 5節間)
12月 1日	競技部記者室が完成
平成9年 1月 7日	ロシアタンカー事故の船首部が三国町安島に漂着、重油流出の被害拡大
6月22日	優勝者ウイニングランを実施(一般タイトルまで拡大)
12月 7日	1R売上を記録更新352,435,400円(開設44周年記念競走最終日12R)
平成10年 2月 8日	第1回福井支部優秀選手表彰式典を三国観光ホテルで開催
6月30日	イベントホール完成(名称公募でオーシャンホールに命名)
7月15日	海の日記念「第3回オーシャンカップ競走」を開催(7月15日～20日)
7月20日	売上記録を更新 節間26,332,163,400円 本場6,549,536,900円(7月15日～20日)7月20最終日 総合計9,661,089,300円 本場1,763,674,400円
11月10日	新KCCが可動開始
平成11年 5月 8日	登録3388号今垣光太郎選手SG初優勝祝勝会を三国観光ホテルで開催(34回総理杯)
6月 4日	福井県モーターボート競走会の定款改正認可
9月 6日	業界初のナイターレース場間場外発売 9/6.7 (本場桐生 場外三国、宮島、大村)
10月 9日	競技規程23条改正に伴う選手、関係者合同訓練を実施
平成12年 2月15日	今垣光太郎選手SG優勝祝勝会(第2回チャレンジカップ)福井支部優秀選手表彰式を実施
10月 6日	選手宿舎全面改築竣工式を実施
10月11日	トータルゼータシステム3号館へ移動稼動開始
10月11日	全投票所マークリーダー方式を導入

(社)滋賀県モーターボート競走会



琵琶湖競艇場



(社)滋賀県モーターボート競走会
会長 大西 茂

次代のニーズに応える先進のレジャー産業をめざして

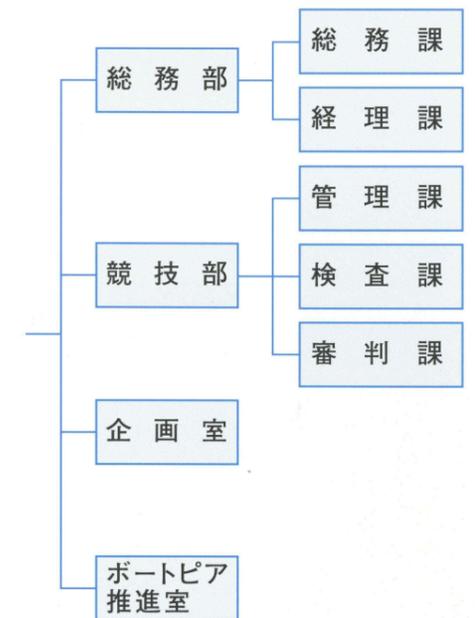
滋賀県競走会は、創立50周年を迎えた今日、びわこ競艇の競走実施団体としてだけでなく、B&G活動、びわこ青少年少女ゴムボート大会、滋賀県下の小学生を対象とした武道大会等を通じ青少年の健全育成に尽力している。また雲仙普賢岳災害への義援金、信楽高原鉄道事故への見舞金、阪神大震災への義援金等を通じた慈善活動をするなど湖国の顔としてなくてはならないものになっているが、この道程は決して平坦ではなかったことは40年史でも触れたところである。

昭和60年9月14日にモーターボート競走施行規則の一部改正がなされたことにより、業界は広域発売の時代へと突入した。それに呼応するかのよう、ファンからは各種情報公開等サービスの充実に対する要求が生じ、前夜版の配布、早朝前売発売の実施、展示タイム、部品交換状況、プロペラ使用状況の公表等、ファンのニーズに対応した競技運営を目指し努力を行ってきた。

年号が平成になると、業界は更なる広域発売の発展を目指し、

(社)滋賀県モーターボート競走会

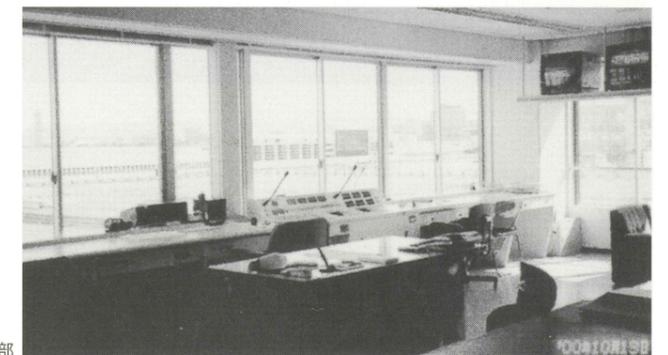
事務局組織図



また高度情報化社会への対応のためKCC、NCC等の導入を行い、施設面においても、大型映像装置と一対になった対岸のオッズ盤を新設し、無料駐車場を設置した。

更に平成10年2月22日には、高齢者、身障者に優しい機能を備え、レトロモダンな外観を装った新スタンドの一部が完成した。続いて、平成12年1月19日には、競技棟、選手宿舎からなる複合競技施設「びわこ競艇競技総合センター」が完成し、平成12年1月25日から同月30日には初の全国発売であるGI新鋭王座決定戦競走を実施した。

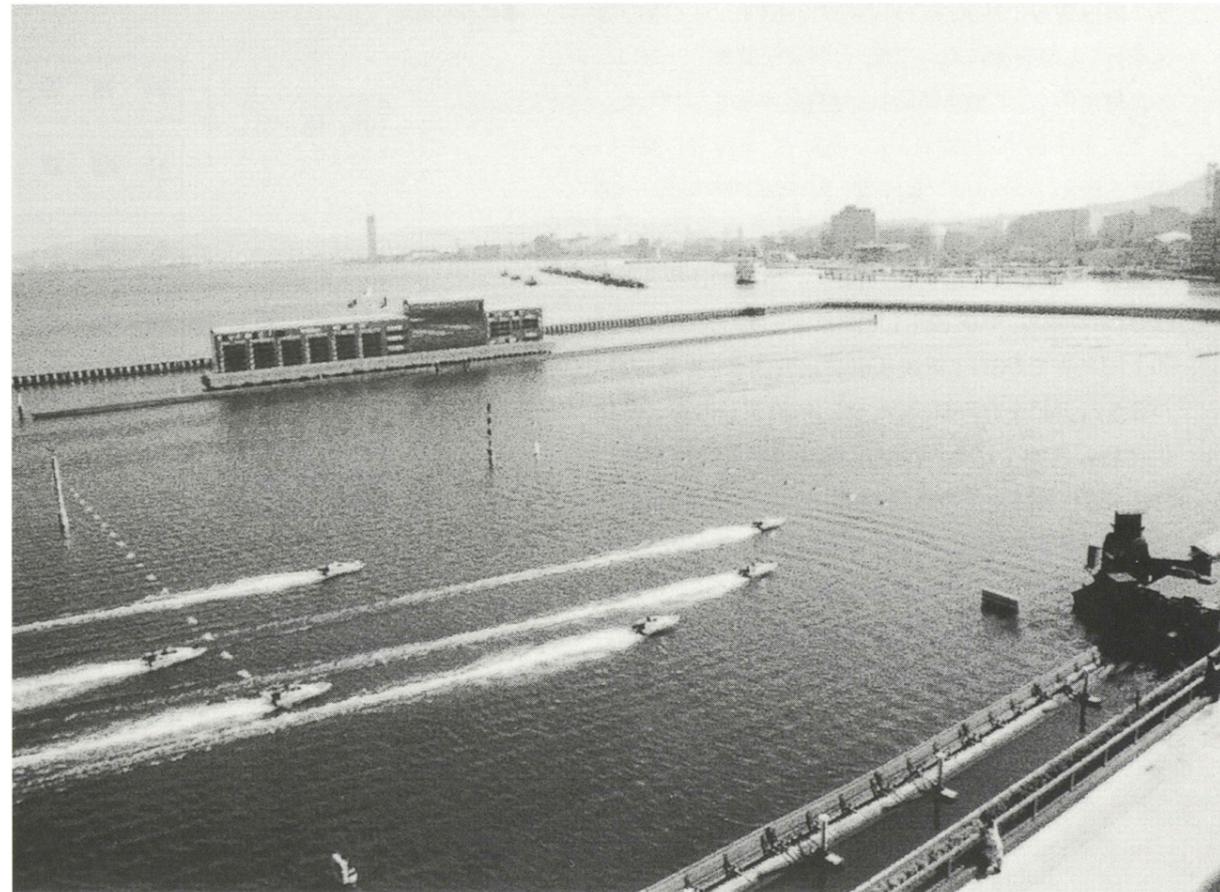
また21世紀を迎えるにあたって、新投票法の導入や提供情報の各種多様化、インターネット投票等のIT事業に即応できる競技情報のデジタル化と、リアルタイム配信システムの構築を目指し努力をすると共に、来る平成14年3月には新スタンドの全面改修が完工する予定であり、びわこ競艇は次代のニーズに応える先進のレジャー産業として変貌を遂げつつある。



競技本部

競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	34	35	35	33	34	34	34	34	32	31
役員(常勤・非常勤)	10	10	10	7	7	7	7	7	7	6
職員(含む嘱託)	22	23	24	23	25	24	23	23	24	24
臨時従業員(アルバイト)	24	24	25	27	27	27	26	29	21	18
登録審判員	9	9	9	10	10	12	12	12	12	13
登録検査員	10	10	10	11	11	13	13	13	13	14



競走水面

歴代会長

代	氏名	任期
6	石川 善策	昭和50年4月～平成4年3月
7	大西 茂	平成 4年4月～現在
略歴	滋賀県競走会常務理事 滋賀県競走会専務理事 滋賀県競走会 副会長	

副会長

代	氏名	任期
5	大西 茂	平成2年4月～平成4年 3月
6	高橋 高	平成4年6月～平成6年11月

専務理事

代	氏名	任期
7	西村 晃	平成 2年4月～平成 6年3月
8	鈴木 正三	平成 7年2月～平成12年6月
9	古川 滉	平成12年6月～現在

(社)滋賀県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年	1月 4日 早朝前売を8:00→7:30からの発売に変更
	1月 9日 連続スタート無事故20日間達成により連合会より表彰を受ける
	2月 7日 審判塔の上に投光器を設置
	2月22日 本番・展示ピットの艇の配置を逆にした
	3月11日 連続スタート無事故20日間達成により連合会より表彰を受ける 特別観覧席の改修工事(椅子・トイレ・コーヒャショップ)が完了
	3月24日 ファン立体駐車場が完成(2階3層、500台収容可)
	4月 1日 スタート事故防止第3位受賞(平成2年度) 全国統一出走表にて競走を開催
	5月 9日 直前スタート練習を廃止。優勝戦周回を4周から3周に変更
	5月28日 連続スタート無事故20日間達成により連合会より表彰を受ける
	6月19日 連続スタート無事故30日間達成により連合会より表彰を受ける
平成4年	6月20日 創立40周年記念式典を挙げる
	7月20日 第1回水上安全フェスティバルを開催
	10月27日 びわこ総合開発により、本番・展示ピットが競技本部前より志賀荘側(現競技総合センター)に移設
	2月18日 護岸線を6メートル沖合へ埋立て、立見席を拡張(1, 200㎡)防波堤護岸を改築。審判塔、水上ステージを新設。大時計を揚降式に改修
	4月 1日 競走会会長に大西茂副会長が就任
	4月21日 審判棟移設
	7月27日 びわこ競艇場にて40周年記念式典を挙げる
	9月 6日 待機行動時間を2分から1分40秒に変更
	平成5年
3月14日 電子式写真判定装置・KCC端末機導入	
3月20日 大型映像装置導入、竣工式を挙げる	
4月23日 ボート反転機導入	
4月29日 電子式写真判定装置を「正」、スリットカメラを「副」として使用	
平成6年	6月11日 環境対策のためジネンオイル(混合比40:1)を採用
	8月 1日 ボートモーターを節間持切り制として導入
	9月 9日 安定板初使用
	12月 1日 共通会員制電話投票会員の新規募集を行う
	1月10日 オッズ表示を5分前から3分前まで表示
	3月23日 競艇使用燃料を「モービルレギュラー」から「日石ダッシュ」ガソリンに変更
	4月 4日 水上施設の45m及び90mの位置に、赤及び青色ブイを設置
4月 5日 共通会員制電話投票による相互発売が実施	
平成7年	12月22日 第1回ふれあい研修会を実施
	1月26日 阪神大震災のため、1月26日～29日の開催を中止
	2月26日 第2ターンマーク側にネトロン消波装置を導入

年月日	事柄
3月25日	競艇場沖防波堤開口部に鋼板工事を実施
4月 3日	電子式写真判定装置を「正・副」共に使用
6月 9日	モーター名称を番号に変更し、出走表に掲載
7月 4日	アウトコース200mポールに標識板を設置
7月 5日	投票券の発売方式の変更(連勝複式1~6R→1~3R、連勝単式6~12R→4~12R)
8月10日	第2回ふれあい研修会を実施
11月 6日	水上施設統一基準の改正に伴い空中線、標識版、大時計の日盛り形状を変更
平成8年	1月 8日 優勝戦を第11Rから第12Rに変更
	5月 6日 80-85m空中線の中心点位置にオレンジの旗を取付ける
	5月23日 連続スタート無事故20日間達成により連合会より表彰を受ける
	7月 5日 第4レースより連勝単式投票法を用いる
	8月25日 連続スタート無事故20日間達成により連合会より表彰を受ける
	11月29日 マークカード方式による発売方法を導入
	12月22日 第3回ふれあい研修会を実施
平成9年	1月 3日 プロペラ交換の公表を行う
	4月 1日 スタート事故防止第3位受賞(平成8年度)
	6月30日 第4回ふれあい研修会を実施
	7月 1日 競艇場入場料が100円になる
	7月 4日 選手持ちヘルメットを導入
平成10年	2月21日 北新スタンド(第1期工事)の完成竣工式が挙行される
	4月 5日 組版機システムによる新出走表を導入
	5月23日 第5回ふれあい研修会を実施
	7月 1日 全窓口マークカードを導入
	9月11日 内規に不良航法を設ける
	11月 1日 ICカード登録システムを導入
	11月 6日 航走指示灯「内」を設置して競走を行う
	11月12日 新KCCを導入
平成11年	1月 6日 競技総合センター新築工事安全祈願祭を挙行
	4月 3日 スタート事故防止第3位受賞(平成10年度)
	4月 4日 プロペラ交換状況を放送する
	5月22日 第6回ふれあい研修会を実施
	7月 8日 ヘルメットカバーを廃止してレースを実施
	10月11日 第46回全日本選手権競走の間場外発売より、同一窓口での併用発売を開始
	11月26日 日付板を撤去。センターポールを新設第1ターンマークにネトロン消波装置を設置
平成12年	1月 1日 2000年問題危機管理確認テストを実施
	1月18日 競技総合センター竣工式典
	1月19日 競技総合センター修祓式を挙行
	1月25日 初の全国発売「第14回新鋭王座決定戦競走」を開催
	4月 2日 新NCC導入(4月2日~6日の5日間開催より使用)
	4月11日 第48周年記念競走において、ドリーム戦を3レース実施

年月日	事柄
5月 8日	三連勝式投票法導入に向けて連絡委員会が発足
5月27日	第7回ふれあい研修会を実施
6月 6日	80-85mの空中線(1・5コース)にコース占有の旗を設置
6月12日	結核予防事業協賛秩父宮妃記念杯周年記念競走が、GI周年記念競走とGII株父宮妃杯競走に分離された。
9月 7日	大時計、失格板を更新

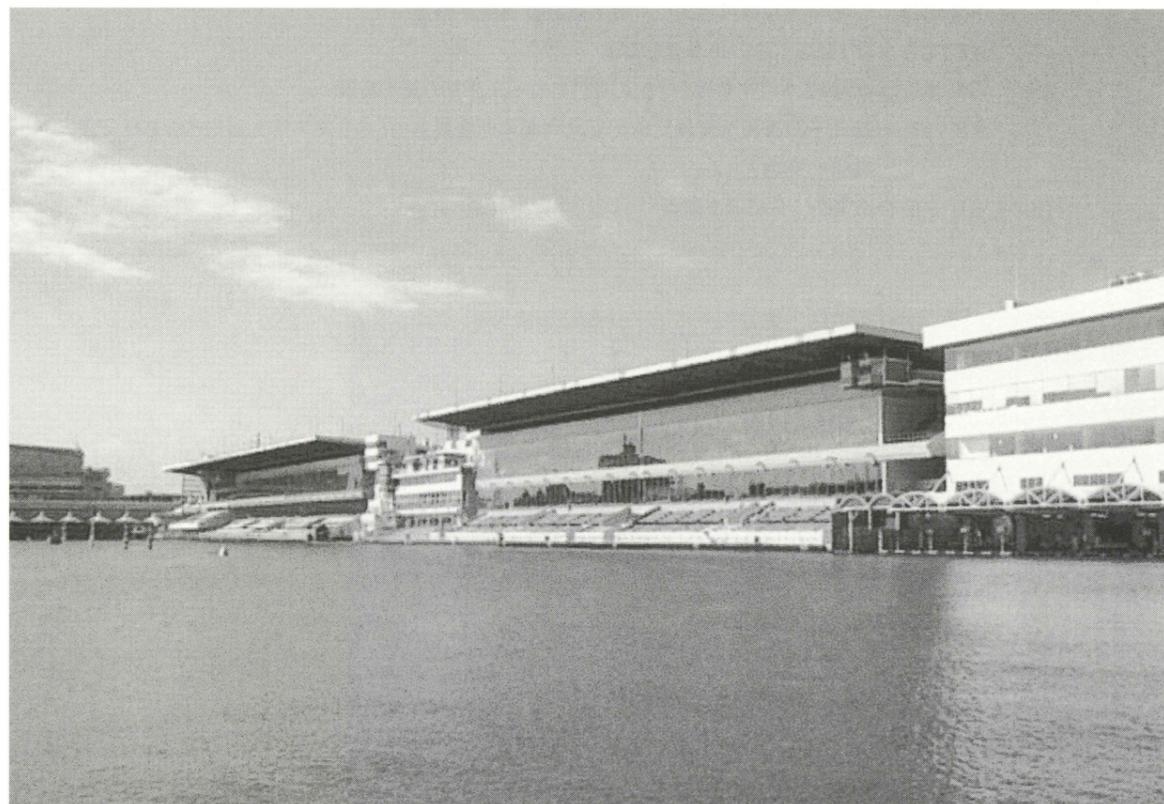


選手食堂

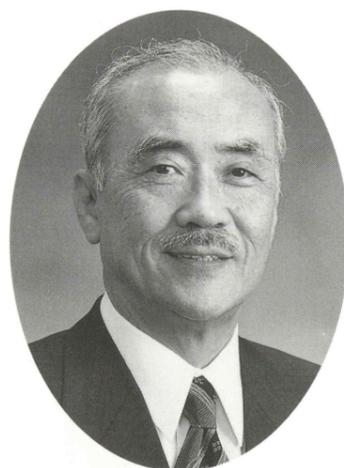


競技総合センター

(社)大阪府モーターボート競走会



新築なった北スタンド



(社)大阪府モーターボート競走会
会長 蔭山 幸夫

競艇のメッカとして業界をリード

住之江競艇場は平成2年度に年間売上額2,641億円の新記録の偉業を達成したが、翌年の法制定40周年にあたる平成3年度から、バブル経済の崩壊により売上は減少傾向に転じ、平成11年度には年間売上額が1,489億円にまで落ち込んだ。また平成7年には阪神・淡路大震災にみまわれ、さらに同年7月18日には笹川良一会長がご逝去され、この10年は日本経済にとって失われた10年と表されるごとく、競艇業界にとり、そして大阪府競走会にとっても、まさに苦難と激動の時代であった。

そうした時代背景にあって、住之江競艇場は競艇のメッカとして、競走会、施行者、施設会社の有機的な緊密な連携により、引き続き売上額第1位を堅持しつつ、数々の業績を残してきた。平成3年には法制定40周年を記念して誕生したSG第1回グランドチャンピオン決定戦競走、平成8年には「海の日」制定記念のSG第1回オーシャンカップ競走、平成12年にはGI第1回競艇名人戦競走を初開催し、また平

(社)大阪府モーターボート競走会

成9年には第12回賞金王決定戦競走において未だの412億円の売上新記録を樹立した。平成11年からは吉本興業とのタイアップイベント「競艇大学」をスタート、そして平成12年10月13日には公営競技業界初の3連勝式舟券の発売を実施した。

施設面においては、平成9年に業界として初めて対岸に2期の大型映像を設置し、またアミューズメントスポットとしての競艇場をめざし、ゲームセンターを併設した「遊食館」のオープン、シアターホールやイベントホールの設置、更に、観客席の快適性向上のための南北スタンドのガラススクリーンと800席を越える指定席の新設など、継続して施設改善に取り組み、常に業界をリードしてきた。

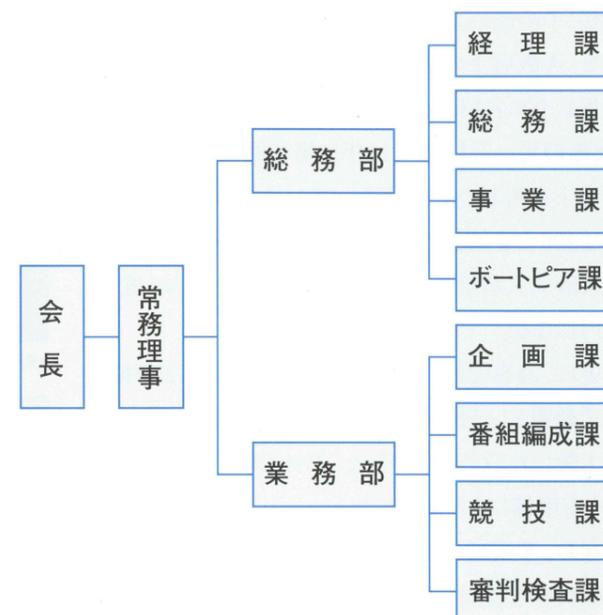
本会は、競技運営受託業務を公正円滑に実施することは言うにおよばず、広域発売業務の推進にも積極的に参画した。平成3年にボートピア姫路の発売業務を受託し、また平成11年にはボートピア神戸新開地の発売業務を業界初の複数場同時発売体制で、兵庫県競走会と受託運営している。また平成5年には、近畿地区の共通会員電話投票業務を幹事競走会として受託した。

また、女性ファンクラブ「クラブスプラッシュ関西支部」の設立を援助し、若手レーサーの参加のもとクリスマスパーティーやフォトコンテストを開催、そして近畿地区優秀選手の表彰制度設置を主導し、表彰式にファンを招待する等のイベントを実施して、売上向上と若年・女性層ファンの獲得のため、関連団体の協力を得て推進した。

競技運営においては、平成3年にスタート練習の廃止に踏み切り、またスタート事故防止対策としてフライング警報システム(FKS)を開発、さらにVTR判定システムの構築、ウォータージェット推進機構の開発への参加等、常に競技運営の改善と調査研究に努めてきた。

一方、福祉事業には、競走会設立以後一貫して、役職員が一体となってボランティア精神を基本に、社会への寄与を目的に取り組んできた。大阪府下養護施設の小・中学生を招待し、宝塚音楽学校や大阪支部選手等の協力

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	32	34	36	36	35	35	33	33	34	33
役員(常勤・非常勤)	11	11	10	10	12	9	9	9	11	11
職員(含む嘱託)	35	33	41	45	51	51	52	52	51	46
臨時従業員(アルバイト)	29	28	28	27	26	24	21	20	18	19
登録審判員	15	16	16	19	22	25	25	27	27	27
登録検査員	15	16	16	19	22	25	25	27	27	27

を得てマリンスポーツ体験、水泳教室等を実施する「海の子の集い」は、平成10年に第40回目を迎えた。また、大阪府下の老人ホームで生活するお年寄りを毎年1,000名招待し、一日寄席芸能により慰安する「鶴亀の集い」は、平成11年に第40回目を迎えた。大阪府下市町村への毎年行っている救急自動車の寄贈は220台を越え、癌撲滅と生活習慣病予防のための大阪成人病予防協会への研究費の寄附は1億7千万円になる。

更に、海事思想の普及のため、近畿海事広報協会へ活動費として毎年400万円の寄附を行い、平成6年の大阪において開催された「第9回海の祭典」においても寄附等により協賛した。

なお、平成10年には、職員の福利厚生の一貫として職員寮を建設した。



4階コンコース



女性コーナー

歴代会長

代	氏名	任期
4	笹川 良一	昭和48年 8月～平成7年7月
5	蔭山 幸夫	平成 7年10月～現在

略歴

- 笹川記念会館管理組合会長
- 日本船舶振興会理事
- 競艇保安協会副会長
- シップ・アンド・オーシャン財団理事
- 日本科学協会理事
- 日本顕彰会理事
- 競艇情報化センター会長
- 近畿海事広報協会副会長
- 連合会会長

副会長

代	氏名	任期
6	松岡 賛城	昭和42年9月～平成4年 6月
7	蔭山 幸夫	平成 5年6月～平成7年10月

専務理事

代	氏名	任期
初	蔭山 幸夫	昭和49年5月～平成 8年5月
2	紺田 勝美	平成 8年5月～平成12年6月



南スタンド観覧席



職員寮

(社)大阪府モーターボート競走会過去10年間の動き

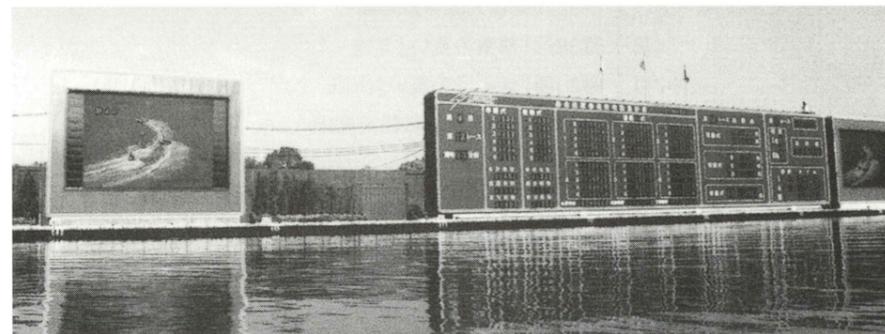
年月日	事柄
平成3年 4月	第32回「鶴亀の集い」(府下養護施設老人招待)実施
5月	第18回笹川賞競走開催
6月	第1回グランドチャンピオン決定戦競走開催 「ボートピア姫路」発売業務開始
7月	第33回「海の子の集い」(府下養護施設中学生招待)
11月	府下10市町村に救急自動車寄贈
平成4年 4月	第33回「鶴亀の集い」実施
5月	第19回笹川賞競走開催
7月	第34回「海の子の集い」実施
10月	府下8市町村に救急自動車寄贈
12月	第7回賞金王決定戦競走開催
平成5年 3月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
4月	第34回「鶴亀の集い」実施
6月	第3回グランドチャンピオン決定戦開催
7月	第35回「海の子の集い」実施
12月	第8回賞金王決定戦競走開催 近畿地区共通会員制電話投票の開始
平成6年 3月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
4月	第35回「鶴亀の集い」実施
6月	第4回グランドチャンピオン決定戦競走開催
7月	第36回「海の子の集い」実施
12月	第9回賞金王決定戦競走開催
平成7年 3月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
4月	第36回「鶴亀の集い」実施
7月	第37回「海の子の集い」実施
12月	第10回賞金王決定戦競走開催
平成8年 3月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
4月	第37回「鶴亀の集い」実施
7月	第1回オーシャンカップ競走開催
第38回「海の子の集い」実施	
平成9年 3月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈 第32回総理大臣杯競走開催
4月	第38回「鶴亀の集い」実施
7月	第39回「海の子の集い」実施
12月	第12回賞金王決定戦競走開催 職員寮 着工
平成10年 2月	府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
4月	第39回「鶴亀の集い」実施
7月	第40回「海の子の集い」実施
10月	職員寮 完成

(社)兵庫県モーターボート競走会

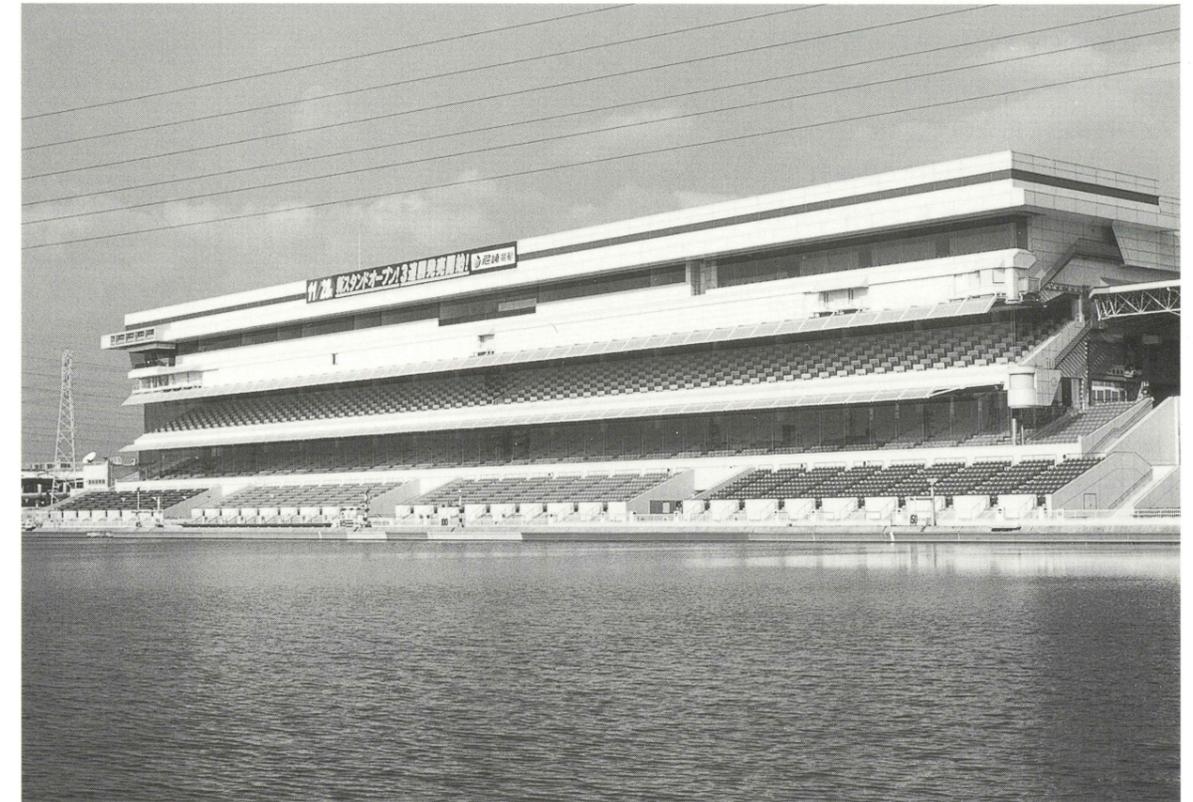
年月日	事柄
平成11年	12月 第13回賞金王決定戦競走開催
	2月 府に災害対策車、府下2市町村に高規格救急自動車等寄贈
	4月 第40回「鶴亀の集い」実施 「ポートピア神戸新開地」発売業務開始
平成12年	7月 第41回「海の子の集い」実施
	12月 第14回賞金王決定戦競走開催
	3月 府下3市町村に高規格救急自動車等寄贈
	4月 第41回「鶴亀の集い」実施 第1回競艇名人戦開催
	7月 第42回「海の子の集い」実施



事務所及び選手宿舎



大型映像及びオッズ盤



尼崎競艇場新スタンド



(社)兵庫県モーターボート競走会
会長 青池 和男

競艇場の廃止運動、騒擾事件にもめげず売上向上を目指し弛まめ努力

尼崎競艇場は、平成3年1月9日、業界では初めての本格的場外発売場「ポートピア姫路」が行政区域外である50万人都市の姫路市にオープンし、予測を大幅に上回る好成績を収めた。ポートピア姫路の好成績に驕ることなく、その頃、本場では4年ぶりに開催されるSG競走の開催に向けて施行者・競走会が一体となって“全国5,000Km縦断キャラバン隊”を結成し、キャンペーン活動を展開していた。

平成3年10月9日から14日までの6日間「第38回全日本モーターボート選手権競走」を開催、延べ221億2,560万5,600円を売り上げ、1レース・1日・節間の全ての売上において新記録を樹立したのである。更に翌年の2月に開催された近畿地区選手権競走では、最終日において1日売上24億2,660万5,100円をマークし記録が更新された。

以来、平成3年度の総売上は、現在においても、初開催以来最高の売上を記録することとなった。

こうした中、平成4年12月には、ボートピア姫路別館がオープンした。

落ち着いた雰囲気なかで、エグゼクティブなサービスを受けられる特別有料席となっており、従来にはない施設としてファンの好評を得たのである。

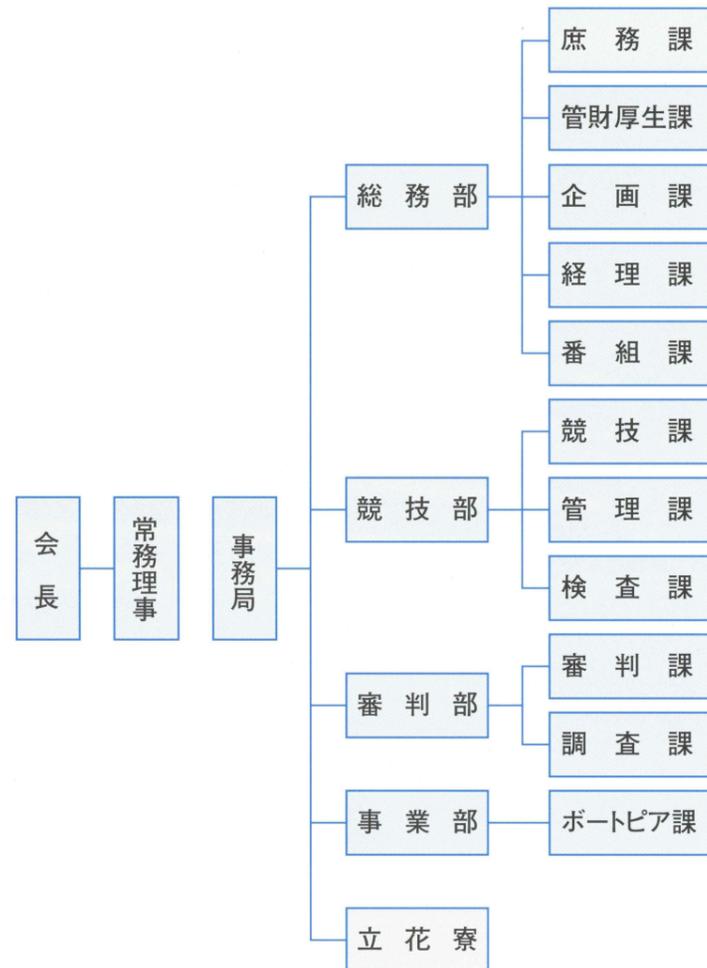
また、同年12月11日付けで運輸省より広域発売に関する業務及び経費の分担について通達が出され、広域発売については緊急に推進すべき時にあることから、発売窓口業務を競走会の受託業務として定着させるためにも経費の分担方法を定めることにした。これにより窓口従事員の経費の負担が、競走会から施行者に移ったのである。

この通達により、各地競走会は将来に向けての可能性を開くこととなり、ボートピア設置推進の原動力となったことは明らかである。

一方、競走運営面においては、平成4年6月20日より確定放送用自動音声装置を導入し、放送演出のソフト化が図られた。

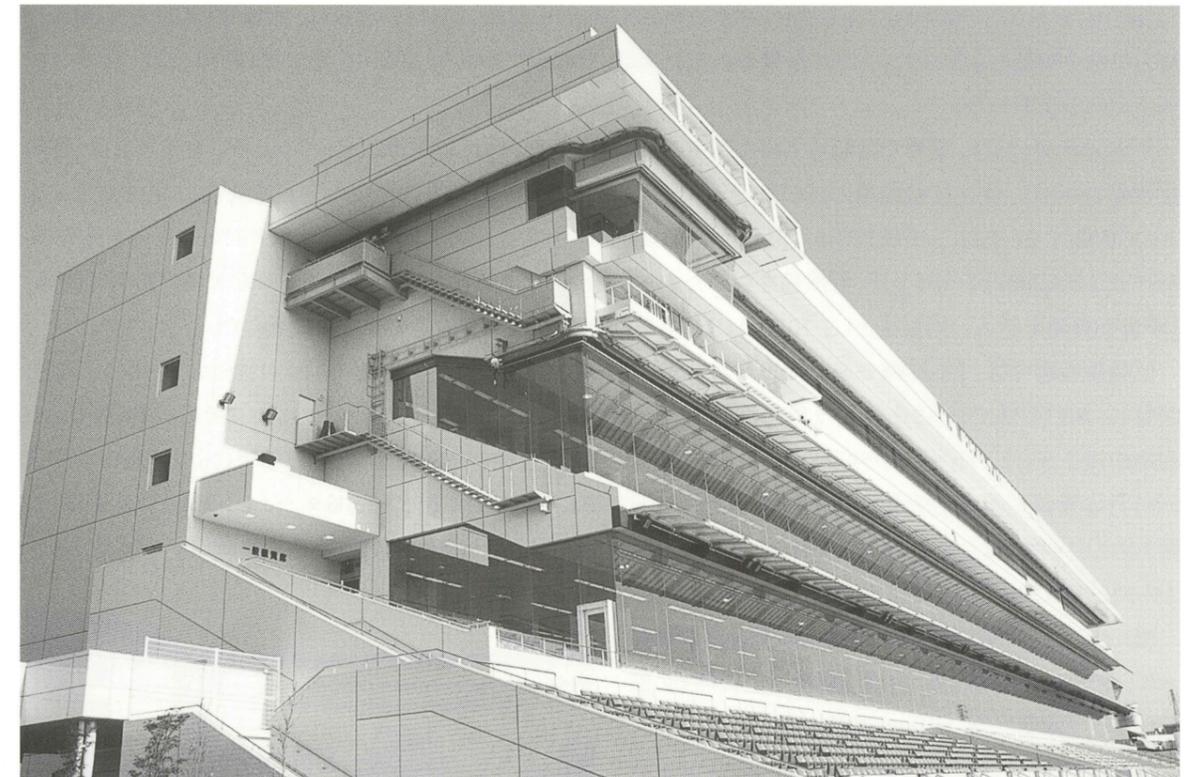
また、平成2年より開発に取り組んでいたフライング防止警報システム(現スタートタイミング感知システム)の総合テストが、平成5年3月21日に実施された。平成6年4月28日からは、本番レースでの運用を開始、現在では改良を重ね、SKS2000が登場、平成12年7月より使用している。

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	34	34	35	34	38	37	37	36	36	36	
役員(常勤・非常勤)	11	12	11	9	9	11	11	11	10	10	
職員(含む嘱託)	40	41	48	46	47	47	45	45	40	40	
臨時従業員(アルバイト)	44	45	39(4)	39(6)	39(6)	37(6)	36(8)	33(6)	29(6)	29(6)	
登録審判員	21	20	21	23	26	27	29	29	27	27	
登録検査員	24	23	24	25	27	28	30	30	28	28	



新スタンドと審判室

平成6年6月9日、青池和男氏が第5代会長に、南次郎氏が専務理事、新役員として吉田高夫、松尾年雄両氏が常勤理事にそれぞれ就任した。

競走会では、従業員の福利厚生の一環として職員住宅(立花住宅)が昭和43年に竣工したが、築後25年を経過し、老朽化が進み、修理費も年々嵩むことから、新たに宝塚市の高台に職員住宅を建設、平成6年8月1日に竣工式を挙行了した。

平成7年1月17日、開設42周年記念特別競走5日目の早朝午前5時46分、淡路島北淡町を震源とするマグニチュード7.2の阪神淡路大震災が発生、被害甚大のためレースを中止、以降3月末までの全てのレースが中止された。レースが再開されたのは、震災から77日ぶりの4月4日のことであった。



観覧席

尼崎競艇場では、レジャー時代に対応する施設への改善が早急に求められていた。施設の中でも中央スタンドは昭和40年に建設されて以来、災害時の耐久性の問題が指摘されるまでに老朽化していた。そのため、兵庫県モーターボート競走会、尼崎・伊丹両市による新スタンド建設委員会が設置され、規模や施設内容を協議、総工費173億円をもって2期工事にかけて7年計画で新スタンドが建設されていた。そして、平成9年1月8日、第1期スタンドが竣工し、併せてソフト面では、尼崎競艇有料会員制ファンクラブが発足した。

この年の6月には「第7回グランドチャンピオン決定戦競走」を開催、3日目の28日は、台風接近によりSG競走初めての中止順延となるハプニングに見舞われるも、節間で302億9,449万3,300円を売上げ、節間・1日・1レースの売上記録を更新した。

平成11年4月28日、業界では初めて政令指定都市にポートピア神戸新開地がオープンした。発売日数は、尼崎競艇場の180日、住之江競艇場の180日、それに加えSG競走等の場間場外発売の54日を発売、3場併売対応型として機能する。そして、平成12年8月31日より6日間、都市圏では初めて桐生競艇場のナイターレースを発売し、5億5,951万4,200円を売上げ、好成績を収めた。一方、ポートピア姫路でも、7月よりポートピア神戸新開地同様、3場併売機能を導入、SG競走として10月4日より第47回全日本選手権競走の発売を開始した。

尼崎競艇場では、7年計画で進んでいた新スタンドの第2期工事が完了、11月28日より待望のオープンとなり、同時に、新投票法である3連勝式の発売を開始した。新投票法を開始した28日からのレースでは、同時期比20%程度の減を示している中、前年同時期のレースと比較し10%ほど伸び率を見せた。この効果により伊丹市が平成9年1月の新鋭王座決定戦競走以来約4年ぶりに12月に開催した。GI競走であるダイヤモンドカップ競走は、47億2,300万円と好調な売れ行きをみせた。また、13年1月に開催された48周年記念競走では前年度には及ばないものの53億3,800万円を売上げ好成績を収めた。

更には、平成13年3月に初の総理大臣杯競走が開催され、全国の競艇場の協力もあり節間売上目標230億円に対し、248億3,223万円の好成績を残した。

平成13年10月1日には兵庫県モーターボート競走会も、創立50周年を迎える。吹き荒れた尼崎競艇場廃止運動、度重なる騒擾事件、売上げ向上をめざして、競走会の歴史は、弛まぬ努力を重ねてきた50年であった。そして新世紀の扉は、既に開かれている。

尼崎競艇場、そしてポートピア姫路・神戸新開地と共に施設は充実し、大きく飛躍する時がきた。



歴代会長

代	氏名	任期
4	本岡 芳一	昭和57年6月～平成6年6月
5	青池 和男	平成 6年6月～現在
略歴	兵庫県競走会常務理事 兵庫県競走会専務理事 (社)神戸海事広報協会副会長 連合会常任理事 B&G財団理事 尼崎商工会議所常議員	

専務理事

代	氏名	任期
4	青池 和男	昭和57年6月～平成 6年6月
5	南 次郎	平成 6年6月～平成12年6月

(社)兵庫県モーターボート競走会過去10年間の動き

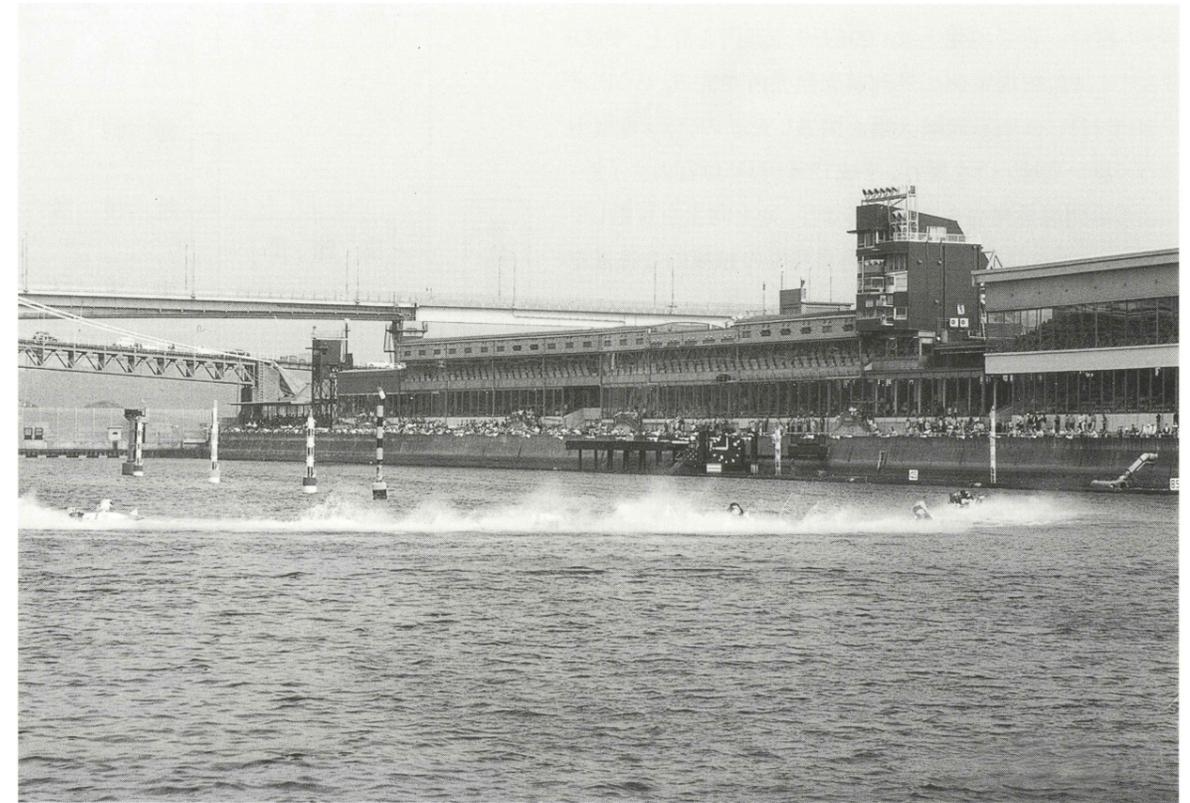
年月日	事柄
平成3年 1月 9日	業界初の行政区域外に設置された本格的場外発売場「ポートピア姫路」オープン
	対岸大型映像装置の使用開始
	1月24日 一日競技委員長としてファンモニターから委嘱
	4月24日 競走会職員による開催日程告知キャンペーンを実施(他9回)
	5月 9日 スタートタイミング練習の廃止、優勝戦レースの3周制を実施
	5月11日 報道関係者懇談会を開催
	7月 2日 尼崎市競艇懇話会が発足
	7月 3日 レース開始新ファンファーレを採用
	7月3日～9日 開設39周年記念特別競走を開催
	7月21日 社ヨット教室を開講
	7月31日～8月 3日 第25回尼崎市子供ゴムボート大会を開催
	8月16日 第5回伊丹市子供ゴムボート大会を開催
	8月25日 第38回全日本選手権競走のイベントとして全国5000キロ縦断キャラバン出発
	9月 7日 大庄地区敬老会を開催
	9月28日 甲子園球場において第38回全日本選手権競走のイベント「さんせつと・サウンド・スクリーン」を開催
	10月 1日 競走会創立40周年記念感謝の集いを実施
	10月9日～14日 「第38回全日本モーターボート選手権競走」を開催(全国23競走場にて臨時特別場間場外発売)
	10月27日 センタープールフェスティバル及び全日本アマチュアボート選手権競走を同時開催
	11月23日～24日 尼崎競艇場ファンモニター蒲郡競艇場を見学
	12月5日～10日 施設改善記念特別競走を開催
平成4年 1月30日	第35回近畿地区選手権競走の前夜祭を開催
	2月5日～11日 第35回近畿地区選手権競走を開催
	2月11日 1日売上最高記録24億2,660万5,100円を樹立
	4月 9日 NEW1Pボートによる競走を第9レースから第6レースに変更
	4月23日 競走会職員による開催日程告知キャンペーンを実施(他10回)
	5月 8日 「待機行動に関する要領」の制定に伴い実施
	6月 7日 尼崎ヨット教室を開講
	尼崎市スポーツ少年団の集いを開催
	6月20日 確定放送用自動音声装置を導入
	7月 1日 開設40周年記念特別競走を開催
	8月4日～10日 神戸海洋少年団育成訓練を実施
	9月27日 選手募集活動として豊岡市でセミナー開催
	10月25日 センタープールフェスティバルを開催
	11月 8日 利根川で'92モーターボートスピード記録会に出場(記録:88.01Km/h)
	11月22日、23日 尼崎競艇場ファンモニター浜名湖競艇場を見学
	12月 3日 施設改善記念特別競走を開催
平成5年 1月26日	ホテル阪急インターナショナルにおいて第7回新鋭王座決定戦競走の前夜祭を開催
	1月28日～2月 2日 第7回新鋭王座決定戦競走を開催

年月日	事柄
3月21日	フライング防止警報システムの総合テストを実施
4月 1日	競走会従業員の傭員制を廃止し、準職員制を導入
6月15日	「フライング防止警報システム」から「スタートタイミング感知システム(SKS)」に名称を変更
8月13日～15日	アーバンリゾートフェア'93に協賛し、神戸メリケンパークにおいてモーターボート競走のPR活動を実施
8月19日	スタートタイミング感知システムの模擬レースを実施
8月31日	兵庫支部選手及び家族との懇談会を開催
10月13日	職員住宅建設着工、地鎮祭を挙げる
10月13日～18日	子供会絵画展を開催
10月24日	尼崎ボートフェスティバル'93を開催
11月6、7日	尼崎競艇場ファンモニター常滑競艇場を見学
12月 1日	近畿地区共通会員制電話投票がスタート
平成6年 1月14日	開設41周年記念特別競走を開催
4月 1日	競走会職員連合会へ出向(1年間)
4月13日	SKSの本番運用に向けて報道関係者に新阪急ホテルで説明会を実施
4月28日	SKSの本番運用開始
5月20日	役員改選で青池和男専務理事が第5代会長に選任
7月19日	電子判定装置の完全2元化を図る
7月30、31日	メリケンサマーフェスタに協賛し神戸メリケンパークにおいてモーターボート競走のPR活動を実施
8月 1日	職員住宅(宝塚住宅)が竣工
8月1、2日	尼崎元気街まつりに協賛し、尼崎市三和商店街においてモーターボート競走のPR活動を実施
10月16日	ファン専用通路の竣工式を行う
10月23日	尼崎ボート・フェスティバル'94を開催
11月12、13日	尼崎競艇場ファンモニター児島競艇場を見学
12月22日	職場と家族のふれあい研修会を実施
平成7年 1月13日	開設42周年記念特別競走を開催
1月17日	午前5時46分兵庫県南部地震発生(震源地:淡路島北淡町マグニチュード7.2)によりレース中止
1月18日	地震による被害甚大のため、当分の間、レース中止の決定がなされる
2月 3日	尼崎競艇場レース再開に向けて会派代表者会議を開き3月末までレース中止を決定
2月 5日	競走会役職員、災害対策本部が設置された神戸海運監理部へ食糧支援開始(3月末まで)
2月 7日	全国の競艇関係団体より義援金が寄せられる
4月 4日	震災以来77日ぶりにレース再開、企業杯競走「'95UCCメジャーカップ」を開催
4月27日	早朝外向前売発売所がオープン
5月 2日	モーターボート競走法施行規則の附則追加により平成7年度の開催日数が200日となる
6月22日	姫路ゆかた祭りに協賛しボートピア姫路で特別イベントを開催
7月12日	モーターボート競走法施行規則の一部改正により連勝単式投票法の制限が緩和され、4レース以降連勝単式で発売
7月27、28日	第29回尼崎市子供ゴムボート大会を開催

年月日	事柄
7月28日～30日	親子体験学習を実施
10月19日	施設改善記念競走を開催
10月20日	ボートピア姫路開設5周年記念イベント「競艇魔王決定戦」を開催
10月29日	尼崎ボート・フェスティバル「'95がんばれ! 阪神地区」を開催
平成8年 1月11日	開設43周年記念特別競走を開催
2月 8日	第39回近畿地区モーターボート選手権競走を開催
2月25日	ボートピア姫路開設5周年記念イベント「艇王決定戦」を開催
4月 8日	マークカード投票方式・自動改札ゲートの運用を開始 企業杯競走「'96UCCカップ」を開催
4月29日	平成7年度スタート低事故率第1位で連合会より表彰される。
7月6日	開設44周年記念特別競走を開催
7月21日	神戸港ボート天国に協賛し、神戸メリケンパークでモーターボート競走のPR活動を実施
8月7日～12日	進入コース固定競走(無標識)の実施(試行期間8・30～12・30の間実施)
11月1日	尼崎市制80周年記念競走を開催
11月18日	ボートピア姫路で「競艇記者とファンの集い」を開催
平成9年 1月 8日	第1期新スタンドの竣工式を挙げる
1月 9日	尼崎競艇有料会員制ファンクラブ発足
1月14日	施設改善記念競走を開催
1月29日	第11回新鋭王座決定戦競走を開催
3月11日	ボートピア姫路リニューアルオープン(マークカード方式採用)
6月22日	大阪千日前MY-DOステーションにおいて第7回グランドチャンピオン決定戦競走の開催告知キャンペーンを実施
6月26日	「第7回グランドチャンピオン決定戦競走」を開催
6月28日	台風接近により開催が中止順延となる
9月23日	尼崎競艇フェスティバル'97を開催
10月10日	世界海事大学の奨学生が尼崎競艇場を視察
平成10年 1月13日	GI近松賞競走(開設45周年記念特別競走)を開催
4月 1日	電話投票が全国一般戦でも購入可能となる
5月 3日	KOBEメリケンフェスタ'98に協賛し、神戸メリケンパークにおいてモーターボート競走のPR活動実施
6月27日	ボートピア神戸新開地設置推進委員会を設置
11月18日	スタート写真を場内テレビにて放映開始
11月30日	スタート連続無事故20日達成により連合会より表彰される
12月 6日	尼崎競艇ファンクラブ鳴門競艇場観戦ツアーを実施
12月13日	1マーク側消波装置を設置
12月24日	ファン優待イベント「GI近松賞競走を100倍楽しむタベ」を開催
平成11年 1月11日	ボートピア神戸新開地の従事員募集開始
1月14日	GI近松賞競走(開設46周年記念特別競走)を開催
2月11日	ボートピア姫路で「競艇選手とファンの集い」を開催
2月24日	第12回女子王座決定戦競走のPRのため関西スポーツ新聞5社へ表敬訪問

年月日	事柄
2月28日	GII・女子王座決定戦競走を開催
3月2日～31日	ボートピア神戸新開地の従事員研修会を実施
4月28日	ボートピア神戸新開地オープン(政令指定都市で3場併売機能は業界初)
7月1日	競技規程の一部改正によりヘルメットカバーを廃止し、デザインヘルメットを本番レースで採用
7月20日	神戸祭りに協賛し、ボートピア神戸新開地のPRを実施
8月6日	尼崎競艇場「21世紀競艇プラン検討会」を設置
9月30日	ファン優待イベント「GI モーターボート大賞競走を100倍楽しむタベ」を開催
10月15日	GI モーターボート大賞競走を開催
11月1日	競技規程の一部改正により事故艇付近の航法が規定化、それに伴い航走指示灯を設置
平成12年 1月2日	ボートピア神戸新開地で新春イベントとファンサービスを実施
1月11日	ファン優待イベント「GI 近松賞競走を100倍楽しむタベ」を開催
1月13日	GI 近松賞競走(開設47周年記念特別競走)を開催
2月1日	ファン優待イベント「近畿ダービーを100倍楽しむタベ」を開催
2月9日	GI 近畿地区選手権競走を開催
2月27日	尼崎競艇ファンクラブ児島競艇場観戦ツアーを実施
3月28日	スタート連続無事故20日達成により連合会より表彰される
4月7日	平成11年度スタート低事故率第1位で連合会より表彰される
4月18日	本岡芳一名誉会長、心不全のため死去
7月14日	審判室・番組編成室が新スタンドに移設、業務を開始する
7月15日	新スタートタイミング感知システム(SKS2000)が本番導入される
7月29日	尼崎競艇場施設改善「新競技棟」完成・本番ピット及び展示ピットが移動
7月30日	ボートピア姫路リニューアルオープン(発売窓口自動化・3場併売機能)
11月28日	新投票法(3連勝式)発売開始 新スタンドグランドオープン
12月9日	GI ダイヤモンドカップ競走を開催

(社)徳島県モーターボート競走会



鳴門競艇場



(社)徳島県モーターボート競走会
会長 勘川 直幸

ファンサービスの充実、広域発売業務等を積極推進

徳島県競走会では、平成3年12月に、かねてより念願の選手宿舎兼事務所が完成し、選手に快適な住環境を提供し公正安全なレースが実施できるようになった。平成5年4月には創立40周年記念行事として、会員物故者の慰霊祭を実施した。

平成8年5月の通常総会にて役員改選が行われ、勘川哲明第12代会長が辞任し名誉会長となり、新会長には専務理事であった勘川直幸氏が選任され、6月6日付、四国運輸局長の認可を得て第13代会長に就任し現在に至っている。なお、11年3月に勘川名誉会長が急逝され、3月29日に桶幸アーバンホールにおいて競走会葬を執り行った。

平成3年度、一日平均売上2億8,877万4,274円の売上新記録を出すも、これをピークに徐々に売上が低下したが、平成8年に「ボートピア土佐」が完成し、この年、一日平均売上2億9,059万9,026円の売上新記録を達成した。しかしその後、景気低迷の影響をまともに受け、売上の減少に歯止めがかからず現在に至っている。

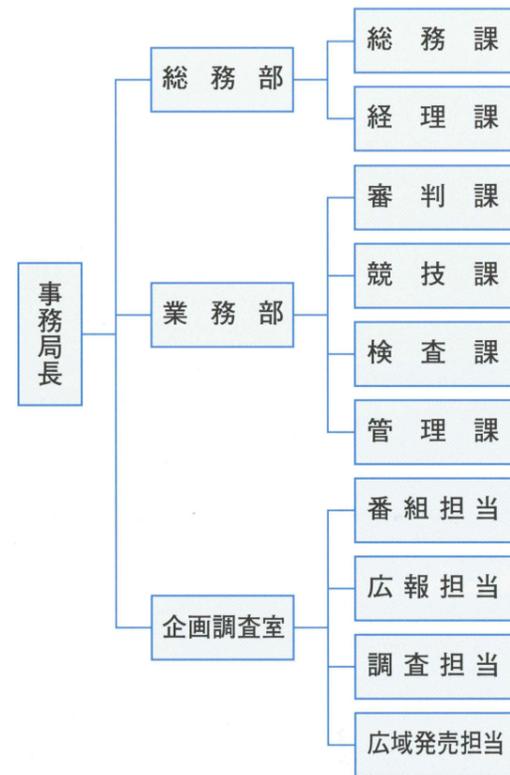
このような厳しい状況下、平成7年4月に瀬戸内地区共通会員制電話投票がスタートし、平成8年8月には鳴門競艇場の場外発売場として、「ボートピア土佐」がオープンした。平成8年度の一日平均売上は4,091万6,225円を計上、平成9年8月には競艇場東側に外向前売売所が完成、さらに平成10年4月には明石海峡大橋が開通し近県のファンを獲得すべく無料高速バスを運行、平成12年9月には初のナイターによる場間場外発売を実施するなど、売上向上を目指してファンサービスの充実、広域発売業務等の積極的な推進を図り、険しい道乗り越えようと努力している。

一方、長年の懸案事項となっていた競艇場の施設改善については、競走会としても積極的に協力し取り組んできた課題であるが、平成11年4月に市長の改選があり売上減少、財源不足等を理由に計画が頓挫し現在に至っている。

さらに、競艇施行組合四町の構成員である藍住町が、中央競馬の場外発売場の建設予定地となることから、平成12年3月をもって組合より脱退するなど厳しい環境に置かれている。

海事思想の普及事業として毎年実施している「山の子招待」は、運輸局、教育委員会等の後援を得て県下の小学生を対象にゴムボート大会を実施し12年度で32回目を実施することができた。更に、毎年継続して実施している特別事業として「少年剣道大会」「敬老祝賀行事」があり、剣道大会は第29回を、敬老祝賀は第28回を、それぞれ数えている。

事務局組織図



選手宿泊所兼事務所

競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	74	80	80	79	77	75	74	74	72	71
役員(常勤・非常勤)	12	12	12	13	13	13	13	14	14	13
職員(含む嘱託)	24	25	27	28	27	29	28	27	31	31
臨時従業員(アルバイト)	20	21	21	21	22	68	66	64	62	61
登録審判員	13	13	14	15	15	17	16	15	18	19
登録検査員	15	15	16	17	17	19	18	17	20	21



外向前売売所

歴代会長

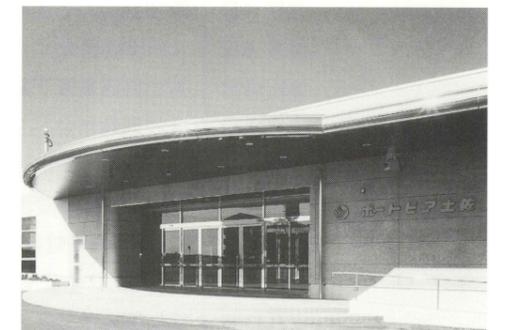
代	氏名	任期
12	勘川 哲明	平成元年8月～平成8年5月
13	勘川 直幸	平成 8年6月～現在
略歴	競艇選手 徳島県競走会専務理事	

副会長

代	氏名	任期
24	今津 靖郎	平成 6年6月～平成 8年5月
25	佐々木 通夫	平成 8年6月～平成12年5月
26	山田 實	平成12年6月～現在

専務理事

代	氏名	任期
6	小山 正俊	平成 元年8月～平成 4年5月
7	勘川 直幸	平成 4年6月～平成 8年5月
8	山田 實	平成 8年6月～平成12年5月
9	真藤 恭輔	平成12年6月～現在



ボートピア土佐、正面



ボートピア土佐

(社)徳島県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事	柄
平成3年	2月28日	第34回四国地区選手権競走開催
	8月7日	第23回山の子供招待 美馬郡脇町・清水小学校
	8月25日	第20回記念徳島県下少年剣道練成大会
	9月15日	第19回敬老会を実施(ダイヤモンド婚、金婚該当者に記念品贈呈)
	9月20日	レース直前スタート練習廃止
	12月18日	競走会事務所併設選手宿舎竣工
	12月24日	競走会事務所併設祝賀会挙行
平成4年	1月10日	競走会事務所移転
	2月29日	モーターボート大賞開催
	6月9日	1R売上新記録(210,292,100円)
	7月9日	連絡協議会の合同現地調査
	8月5日	第24回山の子供招待 美馬郡美馬町・芝坂小学校
	8月16日	第21回徳島県下少年剣道練成大会
	9月15日	第20回敬老会
	10月29日	専門委員会の合同現地調査
平成5年	2月10日	第36回四国地区選手権競走開催
	3月9日	モーターボート大賞開催
	4月8日	競走会創立40周年記念会員物故者慰霊祭挙行
	6月9日	1R売上新記録(251,494,000円) 1日売上新記録(738,240,300円)
	8月2日	第25回山の子供招待 美馬郡一宇村・明谷小学校、古見小学校
	8月15日	第22回徳島県下少年剣道練成大会
	9月15日	第21回敬老会
平成6年	8月1日	第26回山の子供招待 勝浦郡上勝町・福原小学校
	8月5日	合同現地調査
	8月14日	第23回徳島県下剣道練成大会
	9月15日	第22回敬老会
	10月1日	KCCシステム導入
	10月28日	電子式判定装置導入
	10月29日	第6回市長杯競走よりマルチユニットシステム導入
平成7年	1月19日	ふれあい研修会開催
	2月11日	第38回四国地区選手権競走開催
	2月16日	1R売上新記録(337,121,400円)、1日売上新記録(925,399,800円)
	3月25日	モーターボート大賞開催
	4月1日	共通会員制電話投票「瀬戸内地区モーターボートテレホンセンター」稼働
	6月21日	1R売上新記録
	8月2日	第27回山の子供招待 美馬郡美馬町・重清北小学校
	8月20日	第24回徳島県下少年剣道練成大会
	9月15日	第23回敬老会
	10月6日	ふれあい研修会開催
	11月10日	モーターボート大賞開催

年月日	事	柄
平成8年	5月18日	第97回通常総会で勤川直幸氏を会長に選任
	6月6日	勤川直幸氏会長に就任(第13代)
	6月18日	1日売上新記録(860,287,200円)
	7月23日	第28回山の子供招待 美馬郡穴吹町・初草小学校
	8月12日	ボートピア土佐オープン
	8月31日	第25回徳島県下少年剣道練成大会
	9月5日	進入固定レース実施(8日まで)
	9月15日	第24回敬老会
	9月24日	合同現地調査
	11月14日	進入固定レース実施(17日まで)
平成9年	2月20日	第40回四国地区選手権競走開催
	3月20日	ふれあい研修会
	6月22日	1日売上新記録(1,135,185,200円)
	7月5日	モーターボート大賞開催
	8月1日	外向前売発売所オープン。マークカード方式で発売
	8月7日	第29回山の子供招待 美馬郡美馬町・重清北小学校
	8月10日	第26回徳島県下剣道練成大会
	9月15日	第25回敬老会
	10月26日	日本財団曾野綾子会長来鳴
	11月28日	進入固定レース実施(12月1日まで)
	12月20日	現金自動支払機設置
平成10年	2月23日	ふれあい研修会
	4月5日	明石海峡大橋開通
	6月5日	進入固定レース実施(8日まで)
	6月16日	1R売上新記録(384,588,300円)
	7月11日	進入固定レース実施(14日まで)
	7月24日	合同現地調査
	8月7日	第30回山の子供招待 美馬郡脇町・江原東小学校、清水小学校
	8月16日	第27回徳島県下剣道練成大会
	9月15日	第26回敬老会
	9月19日	進入固定レース実施(23日まで)
	9月26日	進入固定レース実施(29日まで)
	12月31日	レストルーム設置
平成11年	2月11日	第42回四国地区選手権競走開催
	3月15日	連続スタート事故無事故20日間達成(2/7~3/14)で表彰される
	3月23日	ふれあい研修会
	3月29日	勤川哲明名誉会長競走会葬
	4月2日	平成10年度スタート事故防止運動第2位表彰
	5月27日	新KCCシステム稼働
	7月29日	第31回山の子供招待 名西郡神山町・神領小学校

(社)香川県モーターボート競走会

年月日	事柄
平成12年 8月15日	第28回徳島県下剣道練成大会
9月15日	第27回敬老会
2月11日	特別指定席でのマークカード方式実施
7月4日	連合会蔭山会長来場
8月8日	第32回山の子供招待 美馬郡美馬町・切久保小学校
8月13日	第29回徳島県下剣道練成大会
9月15日	第28回敬老会



丸亀競艇場スタンドと入場門

新しい指導体制のもと役職員一丸で厳しい状況下に危機感を持ち業務に臨む

丸亀競艇場の売上はボートピア朝倉の開設、共通会員制電話投票の開始やSG競走の開催で、平成7年度に一日平均売上5億688万5,200円を記録したが、それをピークに毎年減少が続き、平成12年度も景気は緩やかに持ち直しにあるといわれながらも消費の低迷、雇用の不安定等先行きは不透明であり、厳しい状況下にある。

香川県競走会としては、かねてより建設中であった選手宿舎「富士見荘」女子専用棟の増築工事(面積415.65㎡)1階車庫及び、倉庫、2階女子選手宿泊所(12畳、3室)が平成3年9月落成したのをはじめ、宿舎食堂等の改築並びに畳、空調設備等の取り替えを行い快適性の向上を図った。

そして、平成4年2月20日には競走会創立40周年記念感謝の集いをオークラホテル丸亀において挙行了。



(社)香川県モーターボート競走会
会長 若山 和夫

また、平成5年4月にKCCを導入し、情報化時代に対応すると共に、平成9年6月より、プロのアナウンサーにより迫力あるレースの実況を図り、競技運営においては公正、安全なレースの確保に適正な審判判定に努めるとともに、人身事故防止の徹底を図り、改良型救命胴衣、ソフトハウボートの導入や、スタート事故防止に努力している。

毎年の事業としては、親子ゴムボート大会、少年少女体験航海、B&G海洋センター見学研修会、アマチュアモーターボート競走(K400)の実施等海事思想の普及に努めるとともに、関係団体への助成、祭事、行事等において地域社会との調和を図っている。

平成10年5月22日第47回通常総会において役員改選が行われ、永年にわたり業界はもとより、多方面で活躍された若山好雄会長が辞任、名誉会長となり、新会長には副会長であった若山和夫氏が選任され、6月8日付四国運輸局長の認可を得て、第4代会長に就任した。

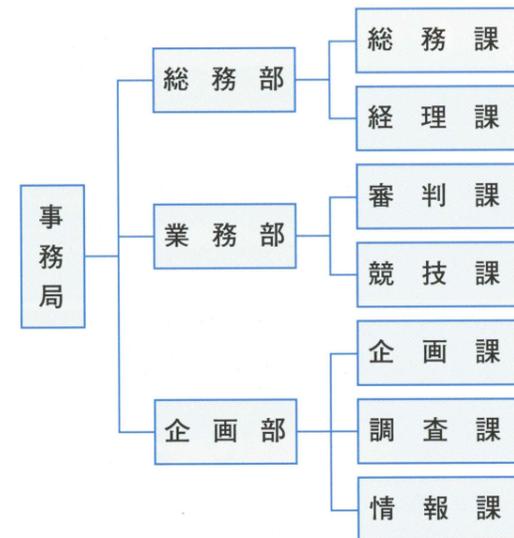
新しい指導体制のもと役員一丸となり、売上減少に歯止めがかからない厳しい状況に、危機感をもって対応すべく努力している。

丸亀競艇場としても広域発売には積極的に取り組み、昭和61年8月に業界初の場外発売場「ボートピアまるがめ」をオープンし、好評を得てきたがさらにファンの利便性を考え、平成4年8月には改築をし、さらに平成5年1月には丸亀競艇場としては2つ目の「ボートピア朝倉」を開設した。また、電話投票においては平成7年4月共通会員制電話投票「テレボートせと」で発売を開始し、会員募集キャンペーンには積極的に協力し、会員の増員を図った。

競走会構成員の年度別推移

項目	年度										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	74	71	71	67	67	65	64	61	59	57	
役員(常勤・非常勤)	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	
職員(含む嘱託)	25	26	27	28	29	29	27	27	26	25	
臨時従業員(アルバイト)	20	16	17	17	20	20	20	21	20	21	
登録審判員	15	15	14	15	17	17	16	16	15	15	
登録検査員	14	14	14	15	17	17	15	15	15	15	

事務局組織図



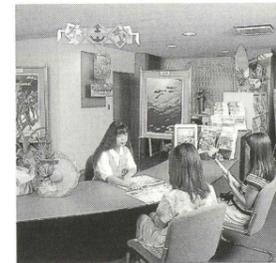
●インフォメーションホール 競艇情報コーナー



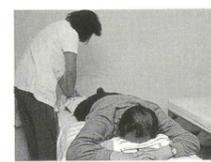
●ビューティサロン



●キャッシュコーナー



●インフォメーションホール ワラップラザるがめ競艇



●マッサージサロン

また、場間場外発売については非開催日での発売日数の増加等広域発売の推進に積極的に努めた。

そして一方、ファンが期待しているSG競走の開催では、平成5年度に第20回笹川賞競走、平成7年度に第42回全日本選手権競走、平成9年度には第33回総理大臣杯競走を開催すると共に、平成6年度には平成7年1月17日の阪神大震災直後に第9回新鋭王座決定戦競走(GI)を開催、平成11年度には第13回JAL女子王座決定戦競走(GI)を初の全国発売で開催し、関係者の協力を得て好成績を収めることができた。

ファンサービスとしては「ファンあつてのモーターボート競走」を基本理念に「いつでも、どこでも、おもしろい競走」をモットーに、ファミリーレジャーの丸亀ボートを目指して、情報サービスの充実、ケーブルテレビ2局で全競走実況中継の実施、GI、正月競走等の優勝戦のテレビ実況中継の実施、平日の優勝戦のラジオ実況中継の実施、イベント関係としては家族づれでも一日中楽しめる企画に努めるとともに、好評を得ている遊園地「ワクワクラ」の整備、充実を図っている。施設面では、平成4年5月競技棟の竣工、整備場の改築、平成9年1月大型映像装置スマイルビジョン(1132インチ)を設置した。

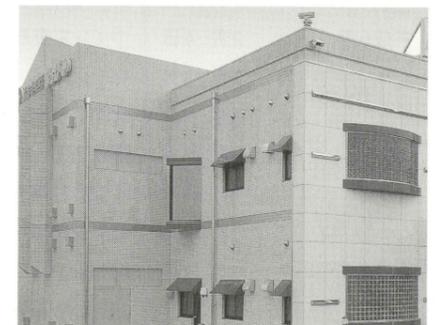


東入場門受付

歴代会長

代	氏名	任期
3	若山 好雄	昭和53年7月～平成10年6月
4	若山 和夫	平成10年6月～現在

西日本放送株式会社西讃支社部次長
 県立丸亀高等学校同窓会 理事
 (社)四国海事広報協会副会長
 丸亀商工会議所3号議員
 (社)丸亀法人会顧問
 (財)琴平海洋会館副会長
 連合会監事



ボートピアまるがめ

副会長

代	氏名	任期
2	鎮西 麻吉	昭和33年1月～昭和40年1月
3	若山 和夫	平成 8年5月～平成10年6月

専務理事

代	氏名	任期
5	若山 和夫	平成 4年5月～平成10年6月
6	白峰 一夫	平成10年6月～現在



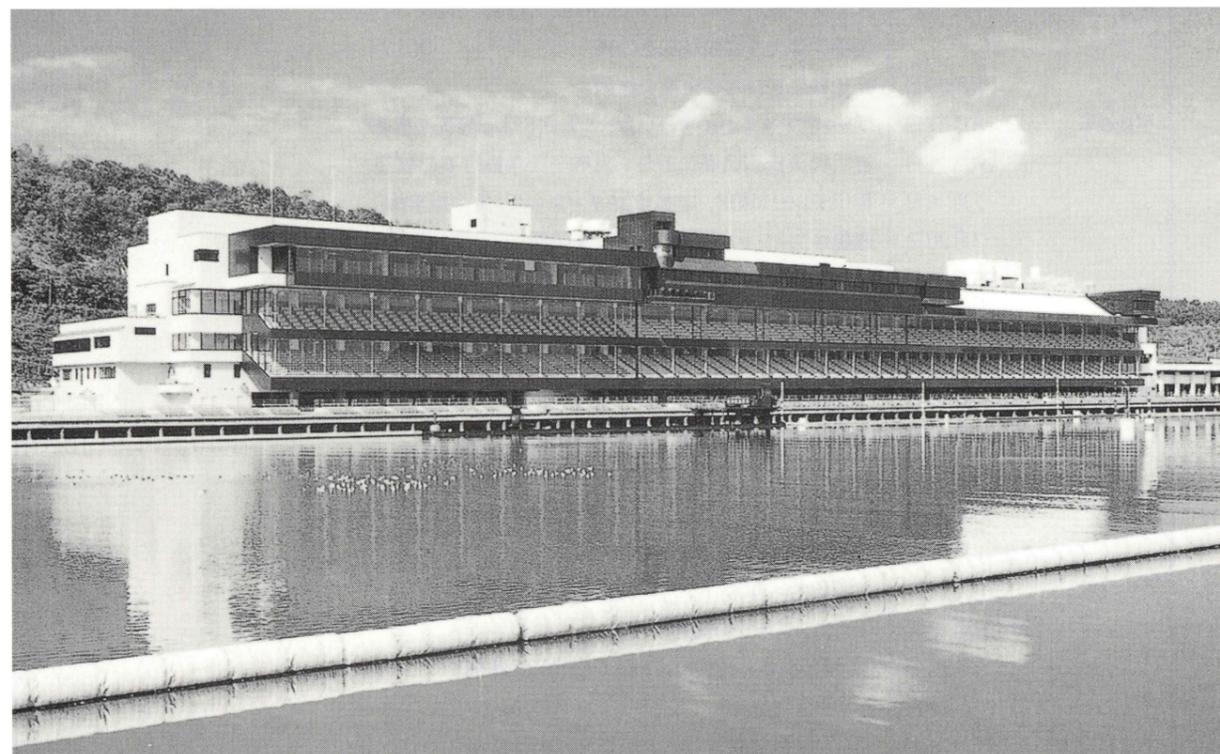
ボートピア朝倉

(社)香川県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事	柄
平成3年	4月3日	優勝戦4周を3周に変更
	6月26日	日付盤廃止
	8月11日	固定枠から全レースオート・モーターをセットにてレースを実施
	9月8日	選手宿舎「富士見荘」女子専用棟竣工
	9月13日	モーターボート大賞競走開催
	9月22日	スタート練習廃止
	10月31日	ボートピアまるがめ改築起工式
平成4年	2月20日	競走会創立40周年記念式典(感謝の集い)をオクラホテル丸亀において挙行
	4月4日	白動発艇装置設置
	4月14日	ボートピア朝倉起工式
	5月7日	競技棟竣工式
	5月28日	モーター取付ライナー制限 10mmから6mmに変更
	6月1日	若山和夫氏専務理事に就任
	8月3日	ボートピアまるがめ改築落成式
	8月8日～10日	船舶紙模型工作教室を開催
	10月7日	整備場改築工事開始
平成5年	1月3日	サンデータイム廃止
	1月22日	ボートピア朝倉落成式
	1月30日	施設改善記念特別競走開催
	4月24日	KCC導入 マルチユニット券導入
	5月20日	第20回笹川賞競走開催
平成6年	2月4日	ウインズ高松竣工開所式(5日より発売開始)
	3月13日	キャッシュコーナー日曜日オープン
	4月7日	電子スリット2台使用を開始
	8月20日	展示タイムの放送開始
	10月21日	第1回の瀬戸内地区共通会員制電話投票会員募集キャンペーン
	11月1日	前々泊廃止
平成7年	1月17日	阪神大震災
	1月20日	第9回新鋭王座決定戦競走開催
	4月1日	待機行動時間を2分から1分40秒に短縮 テレボートせと発売開始(共通会員制電話投票)
	7月8日	開設43周年記念競走より発売方法変更(連複1～3R、連単4～12R) ボートピア朝倉テレホンサービスを開始 中讃ケーブルテレビでの実況中継を開始
	8月2日	テレドーム(実況)を開始
	9月8日	ピット北へ11m移動 テレドーム(オッズ、レース結果、競技情報)を開始
	10月5日	第42回全日本選手権競走開催 ハイビジョンモニター稼働(200インチ)

年月日	事	柄
平成7年	11月2日	水上施設統一基準の変更(空中線、大時計目盛、ポール) 選手プロペラ交換状況を公表
	12月29日	出走表にプロペラ交換を表示
平成8年	3月7日	ボートピアまるがめマークカード方式による発売を実施
	6月1日	若山和夫氏副会長に就任、大熊呈氏常勤理事に就任
	7月6日	香川テレビ(坂出、宇多津39チャンネル)生中継実施
	7月20日	競艇オフィシャルホームページを開設
	9月3日	進入固定競走試行(無標識)を実施(12月15日まで全レース)
	11月21日	前売り及び外向前売をマークカード方式で発売
	12月1日	インターネットホームページ開始
平成9年	1月10日	大型映像装置スマイルビジョン(業界最大)点灯式(1132インチ)
	4月1日	業界名称を「競艇」「KYOTEI」に統一
	5月	若山好雄会長、四国海事広報協会会長に就任
	6月5日	プロ(アナウンス工房)による実況放送を開始
	7月1日	ピット数を44基に増設(8基増設) 選手持ちヘルメット(フルフェイス)導入
	7月6日	ウイニングランの開始
	8月29日	「職場と選手と家族のふれあい研修会」開催
	10月18日	ライナーの廃止
	11月8日	全レース進入固定(無標識)年間5節の実施
平成10年	3月17日	第33回総理大臣杯競走開催
	6月8日	第4代目会長に若山和夫氏が就任、若山好雄会長が名誉会長に、専務理事に白峰一夫氏、 常勤理事に三原淑臣氏が就任
	12月29日	スタート練習のVTR放映開始
平成11年	3月9日	善通寺市ほか10町競艇事業組合30周年記念競走
	5月21日	通常総会において、大熊呈氏、三原淑臣氏が常務理事に選任される
	10月30日	丸亀市制施行100周年記念競走
平成12年	2月29日	第13回JAL女子王座決定戦競走開催
	5月31日	チャレンジデー2000スポーツイベントに98名参加(役職員、従業員、参加選手)
	6月17日	皇太后さまご逝去によりレース自粛、中止(順延はなし)
	7月25日	皇太后さまの「歿葬の儀」のためレース中止
	9月4～5日	桐生ナイターレース場外発売、ナイターレースアンケート調査実施

(社)岡山県モーターボート競走会



児島競艇場



(社)岡山県モーターボート競走会
会長 三宅 秀男

プラン21の達成を目標に、一致団結すると共に地域社会に貢献

岡山県競走会は昭和27年11月の初開催以来、幾多の苦難を乗り越え、平成3年には競走会設立40周年を迎えた。これを契機に第4期スタンド棟改修工事に着工すると共に、場内TVを5チャンネル化し情報の充実に努めた。

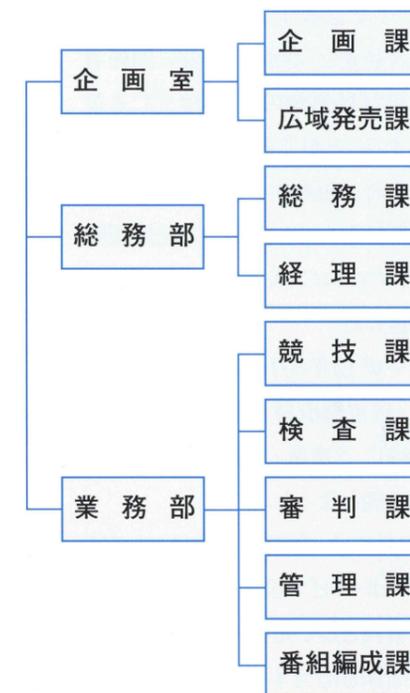
平成4年には、選手持ちプロペラ制度の発足により地元企業の中島プロペラが我が業界に新規参入した。同年より売上が低下したが、厳しい財政のなかにもありながらも、日本赤十字社岡山支部に救急車を寄贈している。

昭和50年にはじまったスタンド等の長期改修計画も、翌年10月の第4期工事の完成をもって全て完了した。

平成6年には、昭和56年の総理大臣杯競走以来13年ぶりのSG競走となる、第40回モーターボート記念競走を異常渇水のなか急遽、淡水化プラントを設置し、盛況裡に終了させた。この様な多忙をきわめた同月に、県西部の矢掛町に出向き、少年少女ゴムボート大会を実

(社)岡山県モーターボート競走会

事務局組織図



施した。

また、アマチュアボートの振興にも力を注ぎ、恒例の岡山県OSP選手権大会は無論のこと、94全日本OSP選手権大会も開催している。

平成7年には、児島競艇場単独の電話投票システムが「テレボートせと」に移行され、広域発売が充実されると同時に各競走会にとっては、新たな業務のはじまりでもあった。なお、同年に906インチ対岸大型映像(ドリームビジョン)が完成している。

平成8年は、第23回笹川賞競走が開催され、また新設された「海の日」を記念して、20年ぶりとなる模型モーターボート大会を再開した。

競走会内にあつては、競技・審判・事務所等各部署を情報網で結ぶ社内LANを構築した。

平成9年には、児島競艇インターネットホームページを開設して、情報化社会に対応すると共にファンサービスの一環として、前年の高速ゴムボート試乗会に加え、ペアボート試乗会もはじめた。その他、要望のあったプロペラ加工場を建設し、選手会岡山支部に提供した。

平成10年5月には、西山保会長が名誉会長に就任し、8代目三宅秀男新会長の誕生をみた。また、懸案であった交通渋滞の解消と、ファンの利便性を考慮し、新外向前売発売所(ポートウイック)を10月に完成させている。その間の9月には、ボートピア松江の建設同意が表明され、実現に向け動きはじめた。

平成11年は、特別競走のラッシュとなった年だった。2月の中国地区選手権競走を皮切りに、3月には第34回



児島ボート会館

競走会構成員の年度別推移

項目	年度										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	41	41	43	42	40	37	38	38	35	35	
役員(常勤・非常勤)	15	16	15	15	15	13	12	10	10	10	
職員(含む嘱託)	22	24	23	24	24	25	25	25	23	23	
臨時従業員(アルバイト)	23	22	25	27	24	26	25	25	24	23	
登録審判員	14	14	16	17	18	18	18	18	17	16	
登録検査員	13	13	15	16	17	17	17	17	16	16	

総理大臣杯競走、8月にはモーターボート記念競走、11月には47周年記念競走と、4回もの開催に関係者の喜びは無論のこと、地元にも還元することができた。

なお、地区の一大イベントとなった第1回ファッションタウン児島国際トライアスロン大会にも、積極的に協賛した。

平成12年6月には、対岸のオッズ・確定盤取替工事が完成すると同時に、2連単・2連複の併用発売が可能となった。

8月には、全国で15番目となる待望のボートピア松江が竣工し、新たな業務として発売・払戻などの発売関係も担当することになり、競技運営と併せ、大きな柱が加わった。

また、同年県中央の賀陽町吉備高原都市にある希望学園の支援なども行った。

法制定50周年を目前にした今、21世紀に向けプラン21の達成を目標に、一致団結すると共に地域社会に貢献していきたい。



ボートウイング全景



ロイヤル観覧席



ボートピア松江

歴代会長

代	氏名	任期
7	西山 保	平成 2年5月～平成10年5月
8	三宅 秀男	平成10年5月～現在
略歴	岡山県競走会副会長	

副会長

代	氏名	任期
7	三宅 秀男	平成2年5月～平成10年5月

専務理事

代	氏名	任期
6	木村 槌秋	昭和61年5月～現在

(社)岡山県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年	2月 第34回中国地区選手権競走を開催 6月 モーターボート大賞競走を開催 10月 場内TVを5チャンネル化する 10月 第4期スタンド棟建設工事に着工
平成4年	9月 モーターボート大賞競走を開催 11月 開設40周年記念競走を開催 12月 中島プロペラ競艇業界に新規参入
平成5年	1月 施設改善記念競走を開催 2月 地区内場間場外発売(徳山競艇の中国地区適手権)を実施 10月 第4期スタンド棟工事完成
平成6年	2月 ロイヤルルーム完成 8月 第40回モーターボート記念競走を開催 8月 少年少女ゴムボート大会を矢掛町で実施 10月 '94全日本OSP選手権大会を開催
平成7年	2月 906インチ対岸大型映像装置(ドリームビジョン)完成 2月 第38回中国地区選手権競走を開催 4月 児島競艇場単独の電話投票システムから「テレボートせと」に移行 8月 高速ゴムボート試乗会を始める 9月 施設改善記念競走を開催 10月 ふれあい研修会を実施
平成8年	5月 第23回笹川賞競走を開催 7月 少年少女ヨット教室を開催 8月 第1回模型モーターボート大会を開催 9月 全レース進入固定競走を実施
平成9年	6月 児島競艇インターネットホームページを開設 6月 大規模警備訓練を実施 8月 ペアボート試乗会を始める 9月 プロペラ加工場を建設し選手会岡山支部に提供
平成10年	5月 三宅秀男氏会長に就任 9月 松江市がボートピア建設に同意表明する 10月 新外向前売投票所(ボートウイング)竣工
平成11年	2月 第42回中国地区選手権競走を開催 3月 第34回総理大臣杯競走を開催 8月 第1回ファッションタウン児島国際トライアスロン大会が開催される 8月 第45回モーターボート記念競走を開催
平成12年	6月 対岸のオッズ・確定盤取替改修工事完成 6月 2連単・2連複の併用発売を開始 7月 少年少女ゴムボート大会を松江市で実施 8月 ボートピア松江竣工

(社)広島県モーターボート競走会



宮島競艇場

電話投票幹事競走会への名乗り、社内LANの導入など積極的に新たな試みに挑戦

宮島競艇場では、昭和54年から下降が続いていた売上が景気の上昇とともに上向き、平成3年度には最高となる一日平均売上3億7,500万円を記録した。しかし、バブル景気の崩壊とともに再び売上は下降に向かってしまう。

そういった厳しい状況の中、広島県競走会の中四国地区の電話投票における幹事競走会に名乗りを上げ、また平成6年4月には、桐生より北での初の競艇施設となる、全国6番目の場外舟券売場「ボートピア釧路」を開設するなど、率先して売上向上への努力を行った。

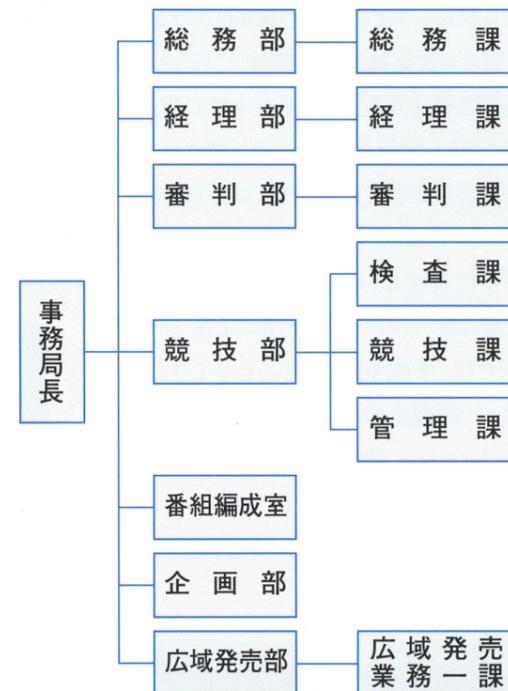
同平成6年には、広島県内で開催された「第12回アジア競技大会1994」へ1,000万円の寄付も行い、宮島競艇初めての第2施行者となる広島市主催の開催が、平成5年から2年間に亘って行われている。以後、平成7年10月に広島県西部競艇施行組合へと、年間合計180



(社)広島県モーターボート競走会
会長 岩田 行史

(社)広島県モーターボート競走会

事務局組織図



日間の開催が引き継がれている。この開催日数の拡大により年間売上では若干の向上がみられたが、一日平均売上の減少は続いていた。

翌平成7年2月には、新広島事務所兼テレボートせと事務所となる「広島水交會館」を広島市内に建設し、2階ホールに全国初のインフォメーションセンターを3月にオープン、大村競艇での初開催・初勝利ボートや歴代のモーターをはじめとする各種展示物とともに、9面マルチビジョンでの実況映像の放映により、競艇および電話投票の普及を図った。(現在ホールは閉鎖中)

一方、同平成7年10月には宮島事務所の改装と合わせ、競艇業界のトップを切って社内LANの導入を職員先導で行った。これにより、情報の自由な交換・共有化はもちろんのこと、データベースの活用による業務支援も可能となっている。他にも、平成3年の全場先駆けてのスタート練習廃止をはじめとして、平成11年の初のナイターレース場外発売など、新たな試みに積極的に参加している。

平成9年から11年にかけては、待望の大型映像装置をはじめ、マルチビジョンを備え、全国屈指の音響設備を備えたイベントホールや、SG開催時にはプレスルームとして使用できるレディース&カップル席などを有する新設「東スタンド棟」、そして当会としては新選手宿舎「宮島水交會館」の建設など、施設を充実した。これを受けて平成10年1月には、宮島競艇場として初めての全国発売となる、第12回新鋭王座決定戦競走を開催、目標を大きく上回る成果を残した。さらに同年6月には、昭和36年



競走会事務所、テレボートせとがある「広島水交會館」

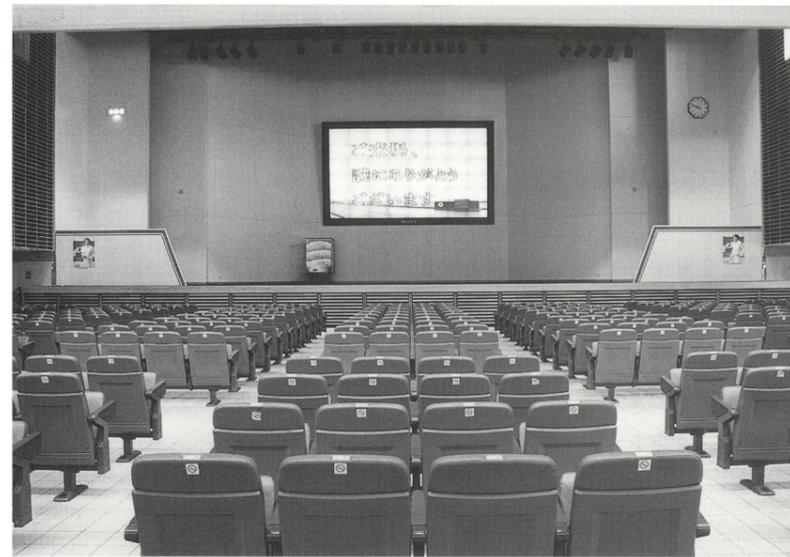
競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	35	33	33	32	32	32	32	33	33	33	
役員(常勤・非常勤)	11	10	11	11	10	10	11	11	11	11	
職員(含む嘱託)	23	26	30	29	29	33	32	33	33	33	
臨時従業員(アルバイト)	12	14	13	40	41	36	36	35	15	15	
登録審判員	16	17	17	18	18	18	19	19	19	20	
登録検査員	16	17	17	18	18	18	19	19	19	20	

のモーターボート記念競走以来37年ぶりのビッグレースとなる、SG第8回グランドチャンピオン決定戦競走を開催、こちらも目標を上回る売上を記録し、それまでの宮島競艇場の売上記録を一気に塗り替えた。また2年後となる平成12年7月には再びSG第5回オーシャンカップ競走を開催、目標にはわずかに及ばなかったものの、比較的好売上となった。この一連の動きにより、一日平均売上は、平成3年に迫ることができたが、依然、一般競走の売上は急下降中で、これらのビッグレース開催を期に新たな宮島競艇となるよう努力を続けているところである。



選手宿舎



イベントホール

歴代会長

代	氏名	任期
6	岩田 行史	平成2年5月～現在
略歴	(株)永和取締役社長 競艇情報化センター理事 連合会常任理事	

専務理事

代	氏名	任期
4	谷本 昭三郎	平成5年5月～現在

(社)広島県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年	3月 一部レースのスタート練習廃止
	4月 全レースのスタート練習を廃止 全レースを12レース制に戻し、優勝戦を4周から3周に変更 モーターボート大賞競走開催
平成4年	8月 ビット増設
	2月 第35回中国地区選手権競走開催 マグメディア使用開始
平成5年	4月 広島県競走会創立40周年
	1月 モーターボート大賞競走開催
	2月 電子式判定装置の部分移行開始
	5月 電子式判定装置を「正」として使用開始
	9月 岩田幸雄名誉会長逝去
平成6年	10月 広島市営初開催
	11月 総合電光表示板竣工
	1日の売上10億円を超える新記録樹立
	3月 電子式判定装置への完全移行 モーターボート大賞競走開催
	4月 ポートピア釧路オープン
平成7年	10月 自動発艇装置導入 KCC運用開始
	1月 水上施設改善(オーバルコース化) 施設改善記念競走開催
	2月 競走会新広島事務所「広島水交會館」竣工
	4月 テレボートせと稼働開始
	9月 競走会宮島事務所改装 モーターボート大賞競走開催
平成8年	10月 競走会宮島事務所内LAN構築 広島県西部競艇施行組合営初開催
	12月 待機行動時間の短縮(1分40秒)
	2月 第39回中国地区選手権競走開催 インターネット契約締結
	4月 プロペラ交換公表 マイナスチルト導入
	5月 節間全レース進入固定競走(進入ブイなし)開始
平成9年	10月 ポートピア呉での場外発売開始
	3月 モーターボート大賞競走開催 地元西島義則選手、総理大臣杯競走優勝
	6月 地元市川哲也選手、グランドチャンピオン決定戦競走優勝
	9月 新選手宿舎「宮島水交會館」完成
10月 宮島競艇の新マスコットキャラクター「モン太」登場	

(社)山口県モーターボート競走会

年月日	事柄
平成10年	11月 競技部内増築(インタビュー・ミーティングルーム)
	12月 大型映像装置「バトルビジョン」使用開始 東スタンド棟一部使用開始
	1月 第12回新鋭王座決定戦競走開催
平成11年	3月 地元西島義則選手、総理大臣杯競走連覇 宮島競艇ホームページ開設
	6月 37年ぶりのビッグレース開催となる、第8回グランドチャンピオン決定戦競走を開催 月間最高売上、節間最高売上および1レース最高売上記録更新
	6月 ボートピア釧路廃止
平成12年	9月 初のナイター場間場外発売(本場:桐生) 航走指示灯設置
	10月 東スタンド棟竣工(新イベントホールオープン)
	2月 第43回中国地区選手権競走開催
	3月 ダイヤモンドカップ競走開催
	6月 本番ピット移設 地元西島義則選手、グランドチャンピオン決定戦競走優勝
	7月 第5回オーシャンカップ競走開催 1レース本場最高売上記録更新 地元西島義則選手、オーシャンカップ競走優勝
8月 地元西島義則選手、モーターボート記念競走優勝、SG3連覇達成	
10月 前検日および開催日のスタート練習時にスリット写真を大型映像装置に放映開始	



下関 水面側から見た新中央スタンド



徳山 西スタンド

売上不振の中、積極的に活動

山口県競走会は、平成3年度に第37回モーターボート記念競走を下関競艇場で開催し、総売上179億6千万円余りの記録を樹立し、成功を収めた。

また、全国に先駆けて宮島競艇場を含めた周年競走の相互場間場外発売を実施し、売上の相乗効果を立証した。このような関係で下関競艇場が前年度比36.4%の増、徳山が1.0%の減となった。

平成4年度、徳山では12月に「ボートピア呉」をオープン、一日平均で8,600万円余りを売り上げた。また、4年に1度の中国地区選手権競走を開催し、地区内での場間場外発売を実施したことにより、前年度比21.5%増を示した。しかし、いわゆる「バブル経済の崩壊」による影響を受け、徳山、下関の年間の合算売上は11.7%の減となり業界不況の波には抗し切れなかった。

平成5年度、下関では大型映像装置を導入し、それに伴う施設改善記念競走、徳山ではボートピア呉開催に伴う施設改善記念競走を



(社)山口県モーターボート競走会
会長 古富 琢造

各々開催したのをはじめ、周年競走の相互場間場外発売を実施した。また、5年度より徳山のポートピア呉で年間180日を発売し、一日平均8,000万円余りの売上があり、徳山は前年度比9.5%の増、下関は2.6%の減ではあったが、場外発売場の時代が近いことを窺わせた。

平成4年度以降、戦後最悪かつ最長といわれる不況で、大手企業の倒産に伴い中小企業の連鎖倒産等で失業率は上昇し、金融機関の貸し渋り、消費者の買い控えと相まって徳山・下関もこの影響をまろに受けた形となった。

平成6年度売上は徳山が前年度比4.1%減、下関が11.3%減と厳しい状況が続いた。

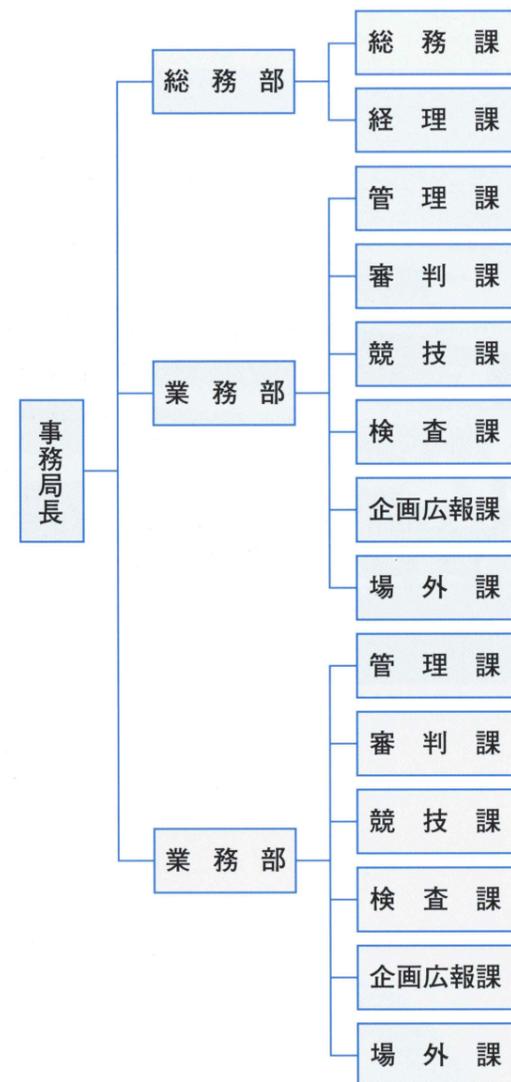
平成7年度は、テレボートせとの稼働、下関での第10回新鋭王座決定戦競走の開催が150億円の目標を達成し、前年度比43.3%の増となるが、徳山は5.9%の減で、合算して0.9%の減だった。

平成8年度は、徳山で中国地区選手権競走を開催し、41億円を売上げた。また、同年度全国スタート事故防止運動で好成績をおさめ、売上は前年度比4.0%増だったが、下関のGI競走が周年とモーターボート大賞競走のみの開催で、前年度比33.3%の減と大きく落ち込んだ。

9年度は、徳山の周年競走で40億円を売上げたが、一般競走の落ち込みが激しく、また、ポートピア呉も一日平均で7.3%の減、下関では中国地区選手権競走を開催し、39億円を売り上げ前年度比5.7%の増となった。

業界全体の売上が低迷する中、11年度は徳山で工費36億円をかけて地上4階建ての西スタンドが12月に完

事務局組織図



競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	30	26	27	26	26	26	26	26	27	27	
役員(常勤・非常勤)	19	18	18	16	15	14	12	12	12	12	
職員(含む嘱託)	39	39	39	41	38	41	40	37	37	37	
臨時従業員(アルバイト)	62	62	63	63	62	61	61	62	60	57	
登録審判員	24	25	25	28	26	25	29	27	27	26	
登録検査員	21	22	22	25	24	23	27	25	25	24	

成、下関でも64億円をかけて地上6階建ての中央スタンドを9月に完成させた。また、下関はポートピア高城(宮崎県)に年間52日進出、一日平均で3,600万円を売り上げ、ポートピア呉は一日平均5,200万円の売上で10.7%の減、徳山が6.7%の減、下関がほぼ横ばいという状況だった。

12年度は下関で9年ぶりのSGとなる第10回グランドチャンピオン決定戦競走を開催、総売上194億2,000万円の売上を記録し、明るい話題となった。

業界40年の節目であった平成3年度以来10年間の当会の歩みを顧みると、年々売上が低下し、かつて経験したことのない「公営競技の冬の時代」の試練が続き、先行きが非常に不透明な中、積極的に前向きに活動してきた10年といえる。



下関 水面際から見上げた新中央スタンド



下関 中央門入口から見た新中央スタンド施設

歴代会長

代	氏名	任期
4	吉田 進	昭和53年5月～平成5年5月
5	古富 琢造	平成 5年7月～現在
略歴	昭和42年山口県競走会常務理事 昭和60年山口県競走会専務理事 昭和61年山口県競走会副会長	

副会長

代	氏名	任期
4	古富 琢造	昭和61年5月～平成5年7月
5	堀田 素生	平成 6年5月～現在

専務理事

代	氏名	任期
7	堀田 素生	平成 4年5月～平成10年5月
8	山下 宏	平成10年5月～現在



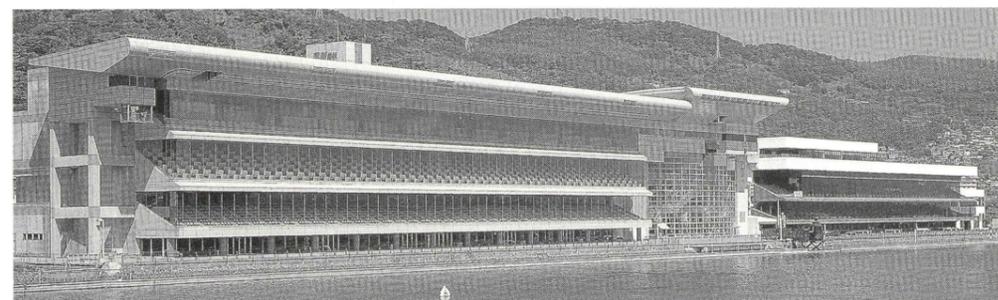
下関 新中央スタンド観客席

(社)山口県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事	柄
平成3年	1月	徳山競艇場 第5回新鋭王座決定戦競走開催
	2月	下関競艇場 モーターボート大賞開催
	7月	下関競艇場 中央情報処理システム講習会
	8月	下関競艇場 モーターボート記念競走前夜祭(プロレス、花火大会)
	8月	下関競艇場 第37回モーターボート記念競走開催
平成4年	9月	下関市 下関競艇場 最高責任者連絡協議会
	2月	徳山競艇場 山口県公営競技関係団体協議会
	2月	徳山競艇場 最高責任者協議会
	2月	徳山競艇場 モーターボート大賞競走開催
	7月	下関競艇場 少年少女ゴムボート大会
平成5年	9月	徳山競艇場 モーターボート大賞競走開催
	9月	下関競艇場 最高責任者協議会
	12月	呉市 徳山競艇場場外発売場「ボートピア呉」竣工式典
	2月	徳山競艇場 第36回中国地区選手権競走開催
	3月	下関競艇場 大型映像竣工式典
	6月	下関市 吉田進前会長競走会葬
	8月	下関市 海洋少年団全国大会開催
	9月	下関競艇場 少年少女ゴムボート試乗会
	9月	下関市 下関競艇場最高責任者連絡協議会
	9月	徳山競艇場 施設改善記念競走開催
平成6年	10月	下関競艇場 施設改善記念競走開催
	2月	下関競艇場 第37回中国地区選手権競走開催
	7月	下関競艇場 少年少女ゴムボート試乗会
	9月	下関競艇場 モーターボート大賞競走開催
	9月	徳山競艇場 施設改善記念競走開催
平成7年	11月	下関競艇場 第1回下関ボートふれあいフェスティバル
	12月	徳山競艇場 第1回シーサイドクリスマス IN TOKUYAMA
	2月	下関競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
	3月	下関市 下関競艇場最高責任者連絡協議会
	7月	下関競艇場 海洋少年団カッター・ローボート大会
平成8年	8月	徳山競艇場 第2回ふれあいフェスティバル
	9月	下関競艇場 第2回ふれあいフェスティバル
	10月	徳山競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
	11月	呉市「ボートピア呉」特観席オープン
	1月	下関競艇場 第10回新鋭王座決定戦競走開催
平成9年	1月	徳山競艇場 モーターボート大賞競走開催
	3月	下関市 下関競艇場最高責任者連絡協議会
	4月	下関競艇場 モーターボート大賞競走開催
	7月	下関競艇場 第3回地域ふれあいフェスタ
	8月	徳山競艇場 第3回地域ふれあいフェスタ

年月日	事	柄
平成9年	2月	徳山競艇場 第40回中国地区選手権競走開催
	4月	徳山競艇場 平成8年度全国スタート事故防止運動第3位受賞
	8月	下関競艇場 第4回'97マリンフェスタ IN 長府
	8月	徳山競艇場 第4回とくやまシーサイドフェスタ
	8月	徳山競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
平成10年	8月	徳山競艇場 周南トライアスロンフェスティバル
	9月	徳山市 故・有吉貴之選手(山口)告別式
	2月	下関競艇場 第41回中国地区選手権競走開催
	4月	下関競艇場 平成9年度全国スタート事故防止運動第1位受賞
	8月	下関競艇場 第5回'98マリンフェスタ IN 長府
平成11年	8月	徳山競艇場 周南トライアスロンフェスティバル
	8月	下関競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
	8月	徳山競艇場 第5回とくやまシーサイドフェスタ
	3月	下関競艇場 モーターボート大賞競走開催
	4月	下関競艇場 ボートピア高城で年間60日開催
	8月	徳山競艇場 第6回とくやまシーサイドフェスタ
	8月	徳山競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
	9月	徳山競艇場 台風18号上陸によりレース場施設及び選手宿舍被災
	9月	下関競艇場 台風18号の高潮によりレース場施設及び選手宿舍被災
	10月	宇部事務局 部内税務調査を受ける
11月	宇部事務局 部内税務調査を受ける	
平成12年	12月	下関競艇場 中央スタンド竣工式典
	12月	徳山競艇場 西スタンド竣工式典
	2月	下関競艇場 ダイヤモンドカップ競走開催
	6月	下関競艇場 第10回グランドチャンピオン決定戦競走開催
	7月	下関競艇場 職場と選手と家族のふれあい研修会
平成12年	7月	下関競艇場 第7回マリンフェスタ IN 長府
	7月	徳山競艇場 第7回とくやまシーサイドフェスタ
	11月	徳山競艇場 ダイヤモンドカップ競走開催

(社)福岡県モーターボート競走会



若松競艇場



芦屋競艇場



福岡競艇場

競走会、施行者一丸となって売上向上を目指す

業界において、平成3年度はモーターボート競走法制定公布40周年の記念すべき年であったが、景気の足取りに陰りが見えはじめ減速感が深まっていくなか、伸び率は低いものの若松491億円(対前年度比0.9%増)、芦屋415億円(対前年度比7.2%増)、福岡1,225億円(対前年度比1.9%増)と最高額を達成した。しかしながら、その後バブルの崩壊により景気の後退、深刻な不況で社会が大きく変化し、極めて憂慮すべき状況に陥っている。

しかし、状況を打開すべく競走会、施行者、選手会はもとより業界一丸となり、競艇場の改修、新鋭機器の導入、場外発売場の開設等の広域発売事業を進め、売上向上を目指している。

福岡県競走会では、平成6年7月に福岡選手宿舎、事務所を建設し、8月に旧会館から移転、また同平成6年9月にはテレボート九州が業務を開始、芦屋競艇場の場外発売場であるポートピア勝山が平成6年3月、同じくポートピア高城が平成10年7月に稼働をはじめた。

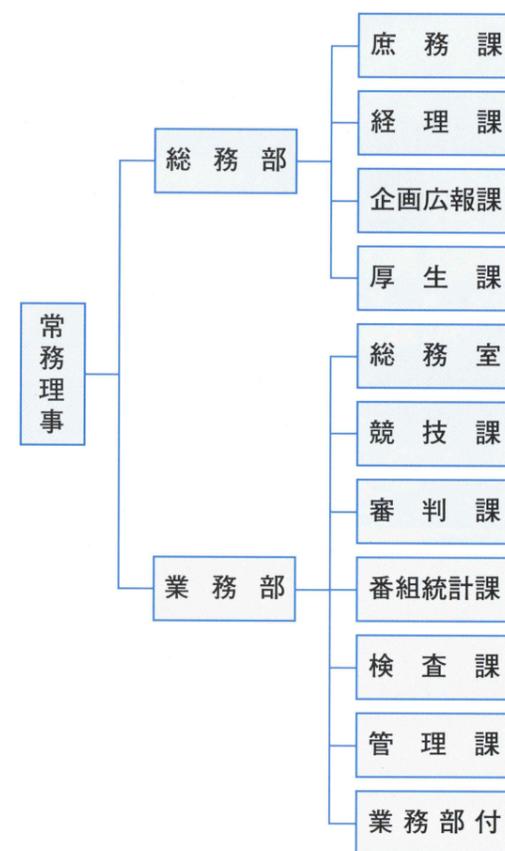
平成8年7月20日には国民の祝日『海の日』が制定されたが、海事



(社)福岡県モーターボート競走会
会長 平井 義一

(社)福岡県モーターボート競走会

事務局組織図



思想の普及事業として、平成3年8月、ニュージーランドのヨット協会会長、指導者を講師に招きウォーターウイズ教育について講演を行った。

青少年の海事知識の向上、健全な育成を図る目的としてOP級ヨットの試乗会、教室、大会を開催した。また、水上スポーツの振興とアマチュアスポーツマン精神の育成、昂揚を図る目的としてアマチュアボートマンを対象に競技会を開催した。

平成7年8月に福岡県ヨット連盟主催の福岡友好都市間ジュニア親善ヨット大会、平成8年8月には韓国の釜山ヨット連盟主催の福岡友好都市間ジュニア親善ヨット大会、平成9年8月、福岡ジュニアヨットクラブ、福岡市体育協会主催の福岡、釜山、ウラジオストックジュニアヨット大会にそれぞれ協賛した。



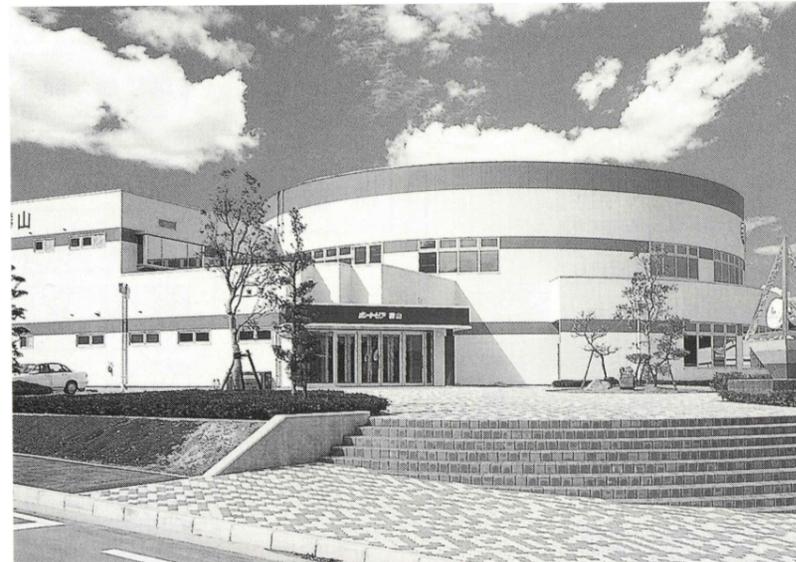
ペDESTリアンデッキ(福岡)



大型映像(芦屋)

競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	14	18	17	16	14	13	17	17	17	16
役員(常勤・非常勤)	10	10	12	12	12	10	10	9	9	10
職員(含む嘱託)	96	98	96	98	99	94	93	89	83	77
臨時従業員(アルバイト)	53	54	54	106	103	100	104	142	148	157
登録審判員	37	41	44	43	42	36	36	36	37	36
登録検査員	31	35	38	38	38	34	33	33	33	33



ボートピア勝山



ボートピア勝山の内部



ボートピア高城

歴代会長

代	氏名	任期
7	平井 義一	平成2年6月～現在
略歴	衆議院議員(福岡4区より連続5期当選) 自由民主党前国会議員会会長 平井産業株式会社代表取締役 (財)日本相撲協会横綱審議会委員 連合会常任理事	

副会長

代	氏名	任期
6	篠崎 保慶	昭和61年6月～平成9年7月

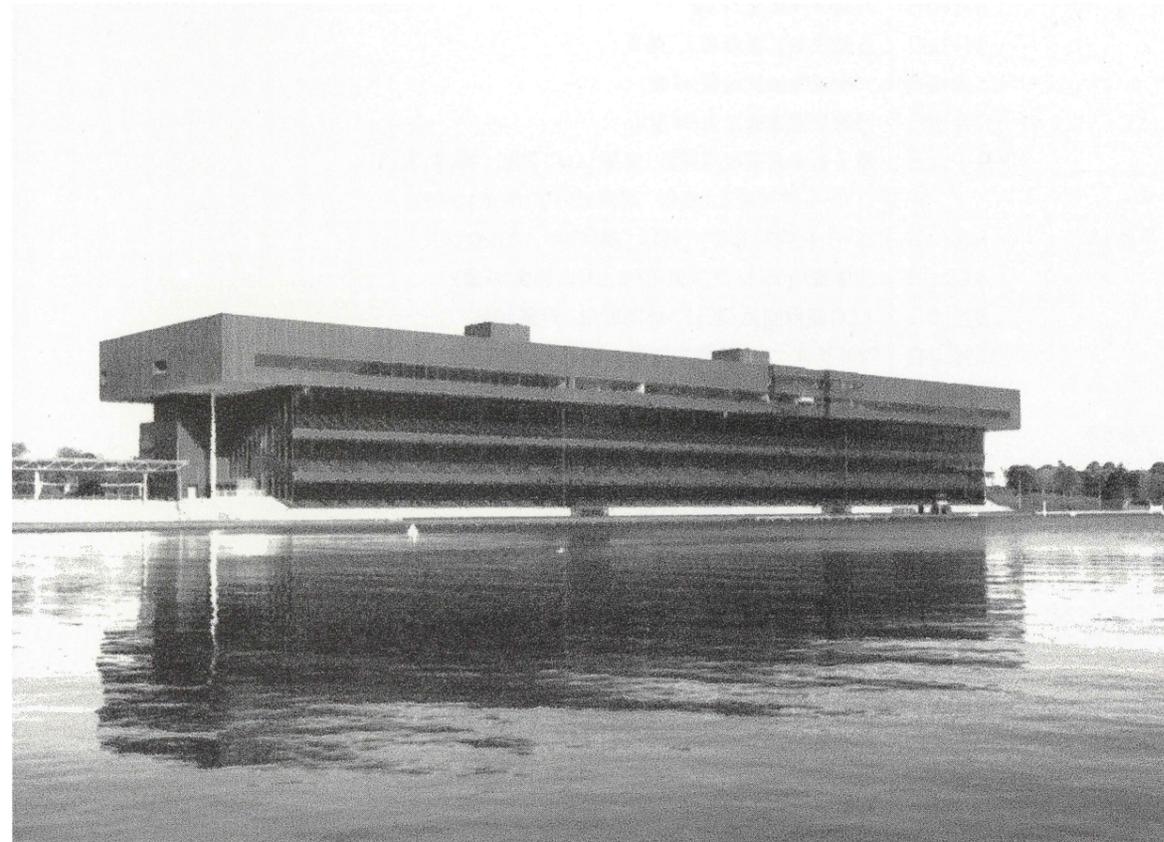
専務理事

代	氏名	任期
5	篠崎 保慶	昭和61年6月～平成9年7月

(社)福岡県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年 4月10日	新競技棟完成(芦屋)
4月12日	自動読取払戻機導入(福岡)
5月12日	大型映像装置設置(芦屋)
7月4日	旧競技棟改修工事(芦屋)
11月～12月	電子判定装置使用開始(芦屋11/4、若松、福岡12/13)
	スタート練習廃止(若松、福岡12/13、芦屋12/19)
平成4年 2月13日	ボート節間持ち切り(若松、福岡6/6、若松6/18)
4月28日	開催案内テロップ遠賀町R3上りに設置(芦屋)
8月3日	KCC使用開始(若松、福岡8/12、芦屋10/6)
10月7日	マルチユニット投票券発売ユニット導入(芦屋)
12月18日	福岡海上会館起工式
平成5年 8月27日	第39回モーターボート記念競走開催(福岡)
9月9日	対岸境界壁新設道路側壁画「芦屋の四季」(芦屋)
平成6年 3月1日	ボートピア勝山稼働(芦屋)
8月11日	福岡海上会館竣工式
9月1日	テレボート九州稼働
平成7年 3月1日	外向発売所対岸裏設置稼働(芦屋)
8月5日	新立体駐車場完成(福岡)
12月11日	ペDESTリアンデッキ完成(福岡)
平成8年 7月30日	西スタンドオープン(若松)
7月3日	芦屋、進入固定レース実施(若松9/10、福岡9/27)
9月27日	対岸大型映像装置使用開始(福岡)
10月5日	第43回全日本選手権競走開催(福岡)
平成9年 5月22日	カラースリット写真使用(福岡)
7月2日	芦屋、選手持ちヘルメット使用(福岡7/4、若松7/8)
8月28日	第43回モーターボート記念競走開催(若松)
平成10年 3月19日	対岸大型映像装置使用開始(芦屋)
7月30日	ボートピア高城稼働(芦屋)
10月6日	第45回全日本選手権競走開催(福岡)
12月28日	対岸大型映像装置使用開始(若松)
平成11年 2月10日	カラー電子判定装置使用開始(若松)
7月15日	第4回オーシャンカップ競走開催(若松)
8月4日	博多港開港100周年
平成12年 8月22日	第46回モーターボート記念競走開催(若松)
10月4日	桐生モーターボート大賞(ナイター)をボートピア勝山、高城で2日間施行発売
10月15日	競艇場結婚式実施(若松)

(社)佐賀県モーターボート競走会



唐津競艇場スタンド

常に問題意識を持って業務遂行

平成3年に法制定40周年を迎え、佐賀県モーターボート競走会は6月に創立40周年記念式典を挙行了。この法制定40周年を機に事業の健全運営に当たることを誓い合った。

そうした中でファンサービスの目玉として、唐津レース場対岸に大型映像表示装置を設置。同時にマルチユニット発券機を導入した。また、平成4年には唐津市制60周年記念感謝フェアを開催。平成5年には施設改善の一環としてロイヤルボックスを完成。そして特別観覧席の大改装を実施した。

また、平成8年には佐賀県下行政区域内にボートピア三日月場外売場をオープン。当初売上見込み以上の成績をおさめた。

特別競走としては平成9年10月に全日本選手権競走、平成11年6月にはグランドチャンピオン決定戦競走を実施し、両年共に売上は飛躍的に増加し、好成績をおさめることができた。



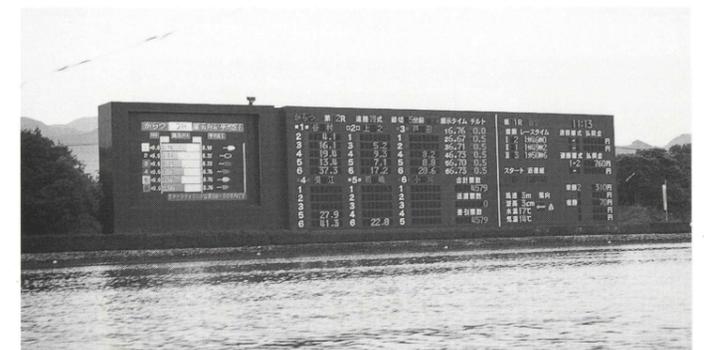
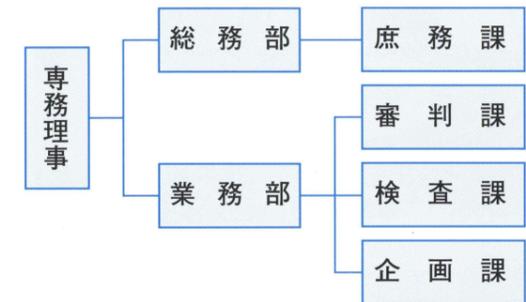
(社)佐賀県モーターボート競走会
会長 金子勝商

(社)佐賀県モーターボート競走会

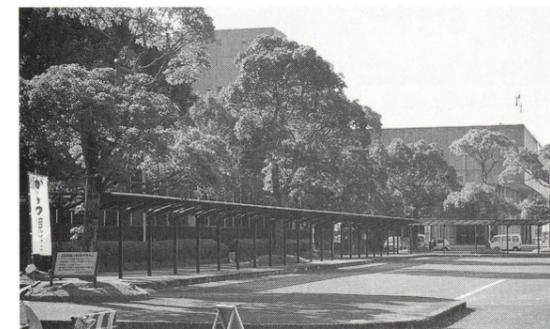
競技運営面では、平成10年に3回のスタート連続無事故(20日間)を達成した。これも本会部内において役職員・開催職員の研修を適時実施し、現在はプラン21活性化対策委員会(事故防止対策委員会・選手精鋭化対策委員会・会史編纂委員会)を発足させ、常に問題意識をもって業務遂行にあたるよう研鑽を積んでいる。

この平成時代10年間は構造不況による非常に厳しい冬の時代が続いているが、21世紀は、活力ある新生日本、そして公営競技である競艇再生のため努力していきたい。

事務局組織図



開催時の状況



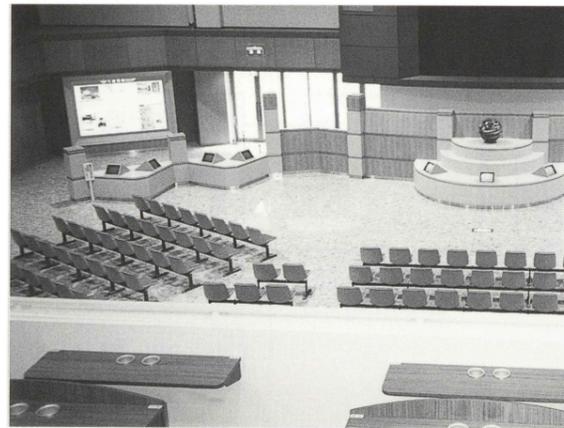
駐車場よりの雨天通路新設



ボートピア三日月

競走会構成員の年度別推移

項目	平成									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
会員数	63	63	60	53	50	45	41	35	34	31
役員(常勤・非常勤)	17	17	16	15	15	14	13	13	11	9
職員(含む嘱託)	22	22	22	22	24	22	23	21	20	22
臨時従業員(アルバイト)	20	20	23	17	21	22	23	25	25	25
登録審判員	12	13	11	12	13	13	14	13	13	14
登録検査員	8	9	8	8	10	9	10	9	9	10



特観席(2階)より



げっ当くん(プリクラ)設置



マッサージルーム開設



ボートリフト(4艇用式)設置

歴代会長

代	氏名	任期
2	金子 勝商	昭和32年12月～現在
略歴	昭和自動車株式会社最高顧問 唐津商工会議所会頭 日本経営者団体連盟理事 連合会理事	

副会長

代	氏名	任期
4	瀬筒 高雄	昭和57年5月～平成9年5月
5	江永 竹次	平成 9年6月～現在

専務理事

代	氏名	任期
4	谷口 武彦	昭和57年5月～平成8年5月
5	江永 竹次	平成 8年5月～現在



本場前売発売所



外向前売発売所

(社)佐賀県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事	柄
平成3年	3月21日	前検日の地元選手自主訓練の実施
	4月～6月	選手宿舍の一部改造
	6月26日	創立40周年記念式典挙行
	7月 5日	全国統一の新ファンファーレ使用
	10月11日	大型映像表示装置完成
平成4年	3月23日	マルチユニット発券機導入
	5月31日	唐津市制60周年記念感謝フェア開催
	7月 2日	高精細型電子スリットカメラ使用開始
	9月 2日	第28回全国競艇関係者武道大会(剣道のみ大会に変更)優勝
	11月12日	施設改善記念特別競走の開催<11/17までの6日間>
	12月24日	前日前売発売開始(準優勝戦日の12レース終了後・優勝戦のみ発売)
平成5年	3月 3日	JR筑肥線福岡空港駅開通
	3月26日	西九州自動車道<福岡～前原間>開通
	6月11日	ロイヤルボックス完成(200席)
	10月27日	第29回全国競艇関係者武道大会(団体・有段の部・無段の部)優勝
平成6年	4月22日	テレボート九州会員募集開始
	5月 6日	特別観覧席改装オープン(1,049席)…車椅子専用2席・禁煙16席
	9月 1日	九州地区共通会員制電話投票発売開始
	9月 2日	第30回全国競艇関係者武道大会(団体・有投の部)優勝
	12月11日	唐津競艇場移設20周年記念謝恩フェア開催
	12月15日	エントランスホール改装(インフォメーションコーナー設置)
		単勝式・複勝式の票数、払い戻し金表示モニター設置
平成7年	1月 2日	唐津市が小城郡三日月町に場外舟券売場を建設すると発表
	5月 6日	展示タイムの場内放送開始(レース結果放送後)
	7月 2日	場間場外時の早朝外向け発売開始(7:30～10:20)
	8月24日	唐津子供祭り'95開催(ヨット教室・ゴムボート大会実施)
	11月 9日	水上施設の変更 ☆発走用大時計の目盛り形状及び寸法 ☆40m標識ポールを45mに移設 ☆40m標識板を45mに、80m標識板を85mに移設 ☆空中線5m・45mはスタートラインに平行
平成7年	11月 9日	男子控室の新装(畳の間拡張・壁の塗り替え・ソファの設置)
平成8年	1月 9日	ボートピア三日月起工式
	1月14日	女性ボート教室開催(参加者64名)
	1月18日	実況放送のテレフォンサービスをテレドームにて開始
	4月 2日	唐津競艇のシンボルマーク(イルカ)使用開始
	8月19日	ボートピア三日月竣工式
	8月20日	ボートピア三日月オープン
	10月27日	初心者ボート教室開催(参加者60名)
平成9年	3月31日	年度末総合事故防止運動期間無事故達成(全国で児島と2場)
	4月13日	ウイニングランの実施(優勝戦)

(社)長崎県モーターボート競走会



年月日	事柄
5月20日	対岸オッズ盤・確定盤建設工事起工式
6月26日	発券機の自動化(有人75台・自動5台・自動払戻33台)
7月 8日	草魚(稚魚3, 500匹)放流
8月17日	'97親子夏祭り開催(ゴムボート試乗)
9月18日	対岸オッズ盤・確定盤落成式
9月29日	ボートピア三日月外向発売所の稼働
10月 7日	SG第44回全日本選手権競走の開催<<10/12までの6日間>>
平成10年	2月25日 新人選手定期・臨時訓練実施(~2/28)
3月18日	スタート無事故連続20日間達成(1/31より3/24まで24日間)
4月 1日	競走会事務局制を2部4課とする 選手賞金2号賞金となる 一般競走の電話投票全国発売開始
5月16日	プラン21活性化対策委員会発足 ☆事故防止対策委員会 ☆選手精鋭化対策委員会 ☆会史編纂委員会
7月22日	スタート無事故連続20日間達成(6/17より7/30まで23日間)
9月21日	スタート無事故連続20日間達成(8/13より9/21まで20日間)
9月27日	親子わくわくフェスタ'98開催(ゴムボート試乗)
10月21日	ポイントカード導入
平成11年	3月 1日 新人選手定期・臨時訓練実施(~3/4)
5月24日	試運転ピット新設(6艇分を選手控室前に)
6月22日	SG第9回グランドチャンピオン決定戦競走の開催<<6/27までの6日間>>
7月 6日	新KCC運用開始
7月27日	選手宿舎の朝食をバイキング方式に変更
8月11日	新マークカードによる発売開始(陸面側発売窓口を除く前投票所)
9月23日	NCCの稼働開始 ☆トータリゼーターシステム改良 ☆対岸確定盤・オッズ盤改良 ☆選手名入り舟券の発売(九州で初めて、全国では戸田に続き2番目)
9月29日	西暦2000年問題対応総合テスト実施(~9/30)
10月 5日	2マーク側危険注意灯を揚降装置前に移設 航走指示灯を設置
10月30日	唐楓「紅葉まつり」実施(18:30~20:00競艇場前唐楓並木ライトアップ)
11月 4日	第86期選手養成員現地訓練実施(~11/11)
11月13日	ボートピア三日月で早朝外向け発売開始
平成12年	1月 8日 投票方式の拡大(全国で初めて連勝単式・連勝複式の同時発売)
1月15日	ファンによる競技棟・ピット見学会実施
1月28日	審判委員長の確定放送の廃止
2月22日	新人選手定期・臨時訓練実施(~2/25)

役員体制、事務局の機構改革を図り 厳しい時代を乗り切る

大村競艇場は、平成1年度、2年度、3年度と売上が順調に伸び、平成3年度は一日平均2億2,300万円と好成績を上げることができた。しかし、この年度をピークに社会情勢の変化に伴い、売上は年々減少傾向にあり、平成8年度から急激に減少し、平成11年度は好調期の平成3年と一日平均を比較した場合、37%減の1億3,900万円まで落ち込んだ。この売上は昭和60年度の売上に匹敵する。

こうした厳しい状況に直面した長崎県モーターボート競走会は、徹底した経費削減を前面に掲げ、役員体制の刷新、事務局の機構改革を図り、新生競走会として、この厳しい時代を乗り切るために役職員一丸となって努力しているところである。

平成10年度には、施行者を含めて「事故防止対策委員会」、「売上向上対策委員会」を設置し種々検討を重ねており、特に「売上向上対



(社)長崎県モーターボート競走会
会長 諸谷 義武

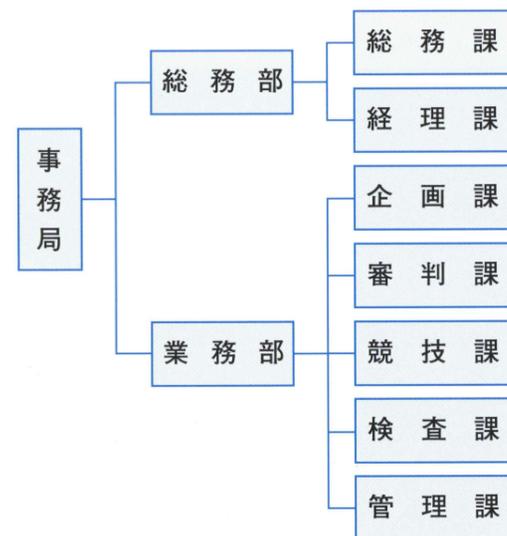
策委員会」においては、「プラン21」の企画や大村の現状を踏まえ、この売上低迷に歯止めをかけるため場外発売場の推進、競艇場周辺の道路整備等について、施行者に働きかけをしている。

選手宿舎も築26年となり環境の整備を図るために、平成11年から平成12年にかけて改修工事を行い、選手の受入態勢に万全を期した。

海事思想の普及として、地域住民にモーターボート競走の理解を深めるため「海の祭典」、将来の日本を担う子供たちに「ヨット・カヌー教室」や、ゴムボート大会等を実施した。

平成13年は新しい21世紀、法制定50周年を迎えるにあたり業界も50年という節目の年で新投票方式の導入等、更なる飛躍が期待されている中、施行者と連携をとり、売上向上の施策に協力・努力したい。

事務局組織図



笹川良一氏直筆による「競艇発祥の地」の碑

競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	58	57	57	54	53	54	51	50	48	48	
役員(常勤・非常勤)	15	15	15	15	15	15	14	14	14	12	
職員(含む嘱託)	22	23	23	25	24	24	24	23	23	23	
臨時従業員(アルバイト)	32	32	32	32	32	32	32	32	28	28	
登録審判員	11	12	11	12	12	12	12	11	11	13	
登録検査員	9	11	11	11	11	11	11	11	10	12	



選手宿舎

歴代会長

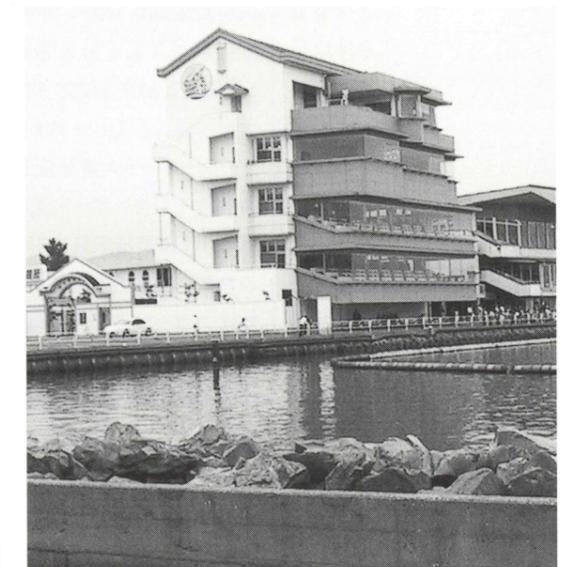
代	氏名	任期
7	坪内 八郎	昭和62年5月～平成8年5月
8	諸谷 義武	平成 8年5月～現在
略歴	元長崎市議、県議、市長と行政職を歴任 会社社長 競走会初代副会長	

副会長

代	氏名	任期
16	蓮本 末男	平成10年6月～平成12年5月

専務理事

代	氏名	任期
15	岩永 要	平成10年6月～平成12年5月
16	馬場 宏	平成12年6月～現在



特別観覧席

(社)長崎県モーターボート競走会過去10年間の動き

年月日	事柄
平成3年	2月 7日 九州地区選手権競走開催 2月13日 1日売上記録更新523,914,500円 2月20日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 5月22日 開設39周年記念競走開催
平成4年	2月26日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 3月10日 施設改善記念競走開催 3月15日 1日売上記録更新579,667,900円 4月 8日 第3回競艇祭競走開催 5月 6日 初めての場間場外発売を実施(笹川賞競走) 5月23日 開設40周年記念競走開催 5月28日 1日売上記録更新599,250,600円 7月 4日 超高精細電子スリット判定装置使用開始
平成5年	2月 6日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 6月18日 開設41周年記念競走開催
平成6年	1月13日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 2月19日 大村競艇電話投票開設5周年記念競走 4月20日 開設42周年記念競走開催 9月 3日 九州テレボートセンター開設(大村競艇電話投票会員移行) 9月13日 モーターボート大賞競走実施 11月1日 前日検査受付時間12時00分に改正
平成7年	1月14日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 4月20日 開設43周年記念競走開催
平成8年	2月 9日 九州地区選手権競走開催 2月14日 1日売上記録更新613,042,300円 3月 9日 大型映像装置(ドラゴンアイ)完成 5月 1日 大時計盤面に10秒、5秒前の数字を取り付ける 9月11日 開設44周年記念競走開催 9月16日 1日売上記録更新708,862,500円 10月24日 オール進入固定レースを実施 11月12日 モーターボート大賞競走を開催
平成9年	1月18日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 4月13日 第4回競艇祭特別競走開催 5月26日 ふれあい研修会を実施 7月22日 海洋スポーツ普及大会開催 8月 1日 「真夏の海の祭典」を開催 9月12日 開設45周年記念競走開催
平成10年	1月13日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 4月16日 モーターボート大賞競走開催 8月 1日 「真夏の海の祭典」を開催 9月12日 開設46周年記念競走開催

年月日	事柄
平成11年	9月14日 事故艇の内廻・外廻でファン抗議 12月21日 ふれあい研修会を実施 1月20日 危険信号灯増設 1月21日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 2月26日 モーターボート競走会会計準則改正 5月18日 国道34号線拡幅促進期成会陳情 6月 9日 選手宿舍空調設備工事 7月23日 長崎県競走会職員・従業員永年功労表彰式 9月 7日 桐生ナイター、初の場間場外発売 9月11日 開設47周年記念競走開催 11月 1日 競走競技規程第23条(内・外廻)改正 11月26日 ふれあい研修会を実施
平成12年	3月 2日 長崎県モーターボート競走会会長杯競走開催 4月 6日 外向前売発売所新設オープン 4月11日 選手宿舍改装工事 4月26日 レジャーチャンネルによるマイク付ターンマークテスト 6月17日 皇太后崩御によりレース中止 7月21日 海洋スポーツ普及大会開催 8月20日 「真夏の海の祭典」を開催 9月 2日 開設48周年記念競走開催



外向前売発売所

(社)千葉県モーターボート競走会

競走会構成員の年度別推移

項目	平成										
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
会員数	25	25	22	22	24	24	18	18	18	18	
役員(常勤・非常勤)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	

歴代会長

代	氏名	任期
4	鈴木 彰	昭和54年4月～平成7年4月
5	北原 喜一	平成 7年4月～現在
略歴	北原学院歯科衛生専門学校理事長 北原学院歯科衛生専門学校 校長	

専務理事

代	氏名	任期
	榊原 秋生	平成9年4月～現在



(社)千葉県モーターボート競走会
会長 北原 喜一